

マルチチャンネル インテグレートアンプ

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。

警告 電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱い方を示しています。**この取扱説明書と別冊の「安全のために」をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。**
お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

本体ソフトウェアのアップデートについて
本体ソフトウェアは、機能向上のため、アップデートされる可能性があります。アップデートの情報については、以下のホームページをご覧ください。
<http://www.sony.jp/support/audio/>
「Q&A」ホームページ
お客様からよくあるお問い合わせと解決法に関する情報を、以下のホームページで確認できます。
<http://www.sony.jp/support/faq.html>

よくあるお問い合わせ、窓口受付時間などは
ホームページをご活用ください。 <http://www.sony.jp/support/>

使い方相談窓口
フリーダイヤル..... 0120-333-020
携帯電話・PHS・一部のIP電話... 050-3754-9577

修理相談窓口
フリーダイヤル..... 0120-222-330
携帯電話・PHS・一部のIP電話... 050-3754-9599
※取扱説明書・リモコン等の購入相談はこちらへお問い合わせください。

左記番号へ接続後、最初のガイダンスが流れている間に「306」+「#」を押してください。直接、担当窓口へおつなぎします。

FAX (共通) 0120-333-389

ソニー株式会社 〒108-0075 東京都港区港南1-7-1



STR-DN2030

この取扱説明書について

この取扱説明書では、主に付属のリモコンのボタンを使った操作のしかたを説明しています。リモコンと同じ名前の本体のボタンは、同じ働きをします。



このマークは「高温注意 (Hot Surface)」を意味します。動作中に、この面をさわると熱く感じる場合があります。

商標について

本機はドルビー® デジタルデコーダー (EX) およびドルビープロロジック (II, IIx, IIz) Dolby Digital Plus、Dolby TrueHDデコーダー、MPEG-2 AAC (LC) デコーダー、DTS** (DTS-ESおよびDTS 96/24) デコーダー、DTS-HDデコーダー、DTS Neo:6デコーダーを搭載しています。

* ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。

Dolby、ドルビー、Pro Logic、Surround EX、AAC ロゴ及びダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。

** 米国特許番号 5,956,674; 5,974,380; 6,226,616; 6,487,535; 7,212,872; 7,333,929; 7,392,195; 7,272,567 その他米国および米国外で特許申請中の実施権に基づき製造されています。DTS-HD、シンボル、およびDTS-HDとシンボルの組み合わせは登録商標です。またDTS-HD Master AudioはDTS社の商標です。製品にはソフトウェアが含まれています。©DTS, Inc. All Rights Reserved.

HDMI

マルチチャンネルインテグレートアンプは、High-Definition Multimedia Interface (HDMI™) 技術を搭載しています。

HDMI、HDMI High-Definition Multimedia InterfaceおよびHDMIロゴは、HDMI Licensing LLCの商標もしくは米国およびその他の国における登録商標です。

本製品に搭載されているフォントの書体「新ゴR」は株式会社モリサワより提供を受けており、これらの名称は同社の商標であり、フォントの著作権も同社に帰属します。

iPod、iPod classic、iPod nano、iPod touchは、米国および他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。



「Made for iPod」、「Made for iPhone」とは、それぞれiPod、iPhone専用につなぐよう設計され、アップルが定める性能基準を満たしているとデベロッパによって認定された電子アクセサリであることを示します。アップルは、本製品の機能および安全および規格への適合について一切の責任を負いません。本製品をiPod、又は、iPhoneと共に使用すると、ワイヤレス機能に影響を及ぼす可能性があります。



DLNA™, the DLNA Logo and DLNA CERTIFIED™ are trademarks, service marks, or certification marks of the Digital Living Network Alliance.

Microsoft、Windows、Windows Vista、Windows Mediaは、米国Microsoft Corporationの米国及びその他の国における登録商標または商標です。

本製品にはMicrosoftの知的財産権の対象である技術が含まれています。Microsoftから使用許諾を得ることなく、この技術を本製品以外で使用または頒布することは禁じられています。

コンテンツ所有者は、Microsoft PlayReady™のコンテンツアクセス技術を利用して、著作権保護コンテンツ等の知的財産を保護しています。本機はPlayReadyで保護されたコンテンツおよび/またはWMDRMで保護されたコンテンツへのアクセスにPlayReady技術を利用しています。本機がコンテンツの利用を正しく制限しない場合、コンテンツ所有者は、PlayReadyで保護されたコンテンツを利用する機器の能力を取り消すようMicrosoftに要求することができます。この取り消しにより、著作権保護されていないコンテンツまたは他のコンテンツアクセス技術で保護されたコンテンツに影響が及ぶことはありません。コンテンツ所有者は、自らのコンテンツへのアクセスに際し、PlayReadyのアップグレードを要求する場合があります。アップグレードを拒否した場合は、アップグレードが要求されるコンテンツにアクセスできないようになります。

MPEG Layer-3オーディオコーディング技術とその特許は、Fraunhofer IISおよびThomsonから許諾されています。

“ブラビアリンク” および “BRAVIA Link” ロゴはソニー株式会社の登録商標です。

“x.v.Color” および “x.v.Color” ロゴは、ソニー株式会社の商標です。

“プレイステーション®” は株式会社ソニー・コンピュータエンタテインメントの登録商標です。

“AVCHD” はパナソニック株式会社とソニー株式会社の商標です。

“ウォークマン”、“WALKMAN”、“WALKMAN” ロゴは、ソニー株式会社の登録商標です。

“Android” はGoogle Inc.の登録商標または商標です。

“InstaPrevue™” は、米国およびその他の国におけるSilicon Image, Inc.の商標または登録商標です。

この製品には、GNU General Public License (“GPL”) やGNU Lesser General Public License (“LGPL”) の条件に従い、お客様に入手、改変、再配布の権利がある、GPL/LGPLの適用を受けるソフトウェアが含まれています。

GPLやLGPLの各ライセンスやその他のソフトウェアライセンスについては、本機の「Settings」メニュー内「System Settings」から「Software License」を参照してください。

これらのGPL/LGPLの適用を受けるソフトウェアのソースコードは、Webで提供しています。下記のURLからダウンロードできます。

<http://www.sony.net/Products/Linux>

ソースコードの内容についてのお問い合わせはご遠慮ください。

本機の特長

多彩な接続、フォーマットに対応

特長	説明	ページ
7チャンネル	最大7.1チャンネルまでの出力に対応。 フロントハイチャンネル用スピーカー端子を装備。フロントスピーカーのバイアンプ接続にも対応。	18、20
さまざまな規格に対応	Dolby TrueHD/DTS-HD Master Audio/DSD/マルチチャンネルリニアPCM/FLACなどの各種フォーマットに対応。	16
HDMI(8入力、2出力、1ゾーン出力)	HDMI入力を8系統（うちIN 2およびIN 3の2系統は高音質のfor Audio端子）、HDMI出力2系統を装備。多彩な機器の接続が可能です。	22、24、26、27、29
	Deep Color、“x.v.Color”、3Dまたは4K*伝送、オーディオリターンチャンネル（ARC）など、さまざまなHDMI規格に対応。 * IN 1 および IN 2 は 4K 信号の入力が可能です。	30、62
	4K対応 HDMI出力から4K信号の出力が可能です。	15、30
	Fast View HDMI入力を選択時、選択した入力の音声、映像に素早く切り換わります。なお、Fast View対応のHDMI端子はIN 1、2、3、4です。	83
	Control for HDMI HDMI機器制御機能で、本機とつないだ機器と連動が可能。	58、83
HDMIのプレビュー機能（Preview for HDMI）	HDMI入力端子に接続した機器の映像をPIP（小窓）画面に表示します。HDMI IN 1/2/3/4からの入力に対応し、一度に4つまでのプレビュー画面を表示します。リモコンでプレビュー表示するHDMI入力を選択することができます。（この機能はSilicon Image, Inc.のInstaPrevue™を使用しています。）	64
ネットワーク	スイッチングハブ機能付きLAN端子を4ポート搭載。	34
	インターネットビデオのストリーミング再生に対応。	44
	DLNAに準拠したホームネットワーク機能で、ホームネットワーク上のコンテンツ再生に対応。	43
USB	iPod/iPhone対応USB端子 USB接続でiPod/iPhone上のコンテンツを簡単に再生。	41
	USB接続でUSBデバイス/ウォークマン上のコンテンツを簡単に再生。	41
マルチゾーン	別の部屋で、メインルームとは違う音楽や映像を楽しめます。	53
	アナログオーディオ・ビデオ信号に加え、2ndゾーンへのHDMI信号の出力が可能です。	56

よりよい画質、音質

特長	説明	ページ
映像のアップコンバート	アナログ映像信号をアップ/ダウンスケーリング。HDMIに出力する場合は、最大4Kまでのアップコンバートが可能。 2ndゾーン用映像出力もアップコンバート、アップスケーリング可能。	15
自動音場補正機能 D.C.A.C.	自動音場補正機能D.C.A.C.（Digital Cinema Auto Calibration）搭載。 お使いの環境を測定し、最適になるように自動的に音声パラメーターを設定します。	74、75
各種リスニングモード	スピーカー接続や音源に応じて、さまざまな音場モードを選べます。 （Dolby Pro Logic IIz/DTS Neo:6/HD-D.C.S.など） 以下のサウンドモードも利用可能です。 －著名なヨーロッパの音場を家庭に再現する3つのモード： 「Berlin Philharmonic Hall」、「Concertgebouw Amsterdam」、「Musikverein Vienna」	49、50

特長	説明	ページ
センタースピーカーの音をお好みの高さまで引き上げる、センタースピーカーリフトアップ機能	フロントハイスピーカーを使ってセンタースピーカーの音を画面内に持ち上げることができます。これにより、違和感のない映像と音声の自然な表現を楽しむことができます。	75
圧縮音声を高音質で再現	D.L.L. (Digital Legato Lenear) 機能により、圧縮音声を高音質で再現。	78

便利な機能

特長	説明	ページ
かんたん、便利に操作	GUI (Graphical User Interface) を搭載。テレビ画面を見ながら、本機を直感的に操作できます。	38
	Easy Setupで、本機の基本設定を手軽に行えます。	36
	つないだ機器やマルチゾーンも操作できるリモコンが付属。	12
	イーージーオートメーションボタンでさまざまな設定を一括呼び出し。	65
シーンに応じて	音量に応じて最適なサウンドに調整するSound Optimizer機能。	51
	映像と音声のずれを補正するA/V Sync機能。	79
	本機がスタンバイの状態でもHDMI信号を伝送するパススルー機能。	61

その他

特長	説明	ページ
環境に配慮	操作や信号の入力がないときに自動的に本機をスタンバイ状態に切り換えるオートスタンバイ機能。	88
さらに便利に	「ES Remote」をインストールすることで、お持ちのスマートフォン*からも本機を操作できます。 * iPod touch/iPhone、Android 携帯に対応。	65

目次

本機の特長	4
各部の名前と働き	8

接続と準備

機器をつなぐ前にお読みください	14
準備 1：スピーカーを設置する	18
準備 2：テレビを接続する	22
準備 3：映像機器を接続する	24
準備 4：オーディオ機器を接続する	31
準備 5：ネットワークに接続する	34
準備 6：本体とリモコンを準備する	35
準備 7：Easy Setup で初期設定を行う	36
準備 8：接続機器の設定をする	37
準備 9：パソコンをサーバーとして使う 準備をする	38
画面操作のしかた	38

映像／音声を楽しむ

つないだ機器の映像／音声を楽しむ	40
USB デバイス／ウォークマン	41
iPod/iPhone	41
ホームネットワーク (DLNA)	43
インターネットビデオ	44
FM/AM ラジオ	45

音響効果を楽しむ

サウンドフィールドを選ぶ	48
Sound Optimizer 機能を使う	51
イコライザーを調整する	52

マルチゾーン機能を使う

マルチゾーン機能でできること	53
マルチゾーン接続をする	54
2nd ゾーンのスピーカーを設定する	56
2nd ゾーンの HDMI 出力を設定する	56
本機を 2nd ゾーンで操作する	57

その他の操作をする

“ブラビアリンク” 機能を使う	58
HDMI 信号を出力するモニターを切り換える	61
本機がスタンバイ中でも再生機器を楽しむ (パススルー)	61
デジタル音声とアナログ音声の入力を 切り換える	62
他の映像／音声入力端子を使う	63
HDMI のプレビュー機能 (Preview for HDMI)	64
スマートフォンで本機を操作する	65
本機のさまざまな設定を保存してから一括で 呼び出す (Easy Automation)	65
スリープタイマーを使う	67
本機を使って録音／録画する	68
本体とリモコンのコマンドモードを 切り換える	68
バイアンプ接続する	69
本機を初期設定状態に戻す	70

設定を変更する

Settings メニューの使いかた	71
Easy Setup	74
スピーカー設定 (Speaker Settings)	74
音声設定 (Audio Settings)	78
映像設定 (Video Settings)	80
HDMI 設定 (HDMI Settings)	82
入力設定 (Input Settings)	84
ネットワーク設定 (Network Settings)	85
インターネットサービス設定 (Internet Services Settings)	86
ゾーン設定 (Zone Settings)	87
システム設定 (System Settings)	88
ネットワークアップデート (Network Update)	89
GUI を使わずに本機を操作する	89

リモコンを使う

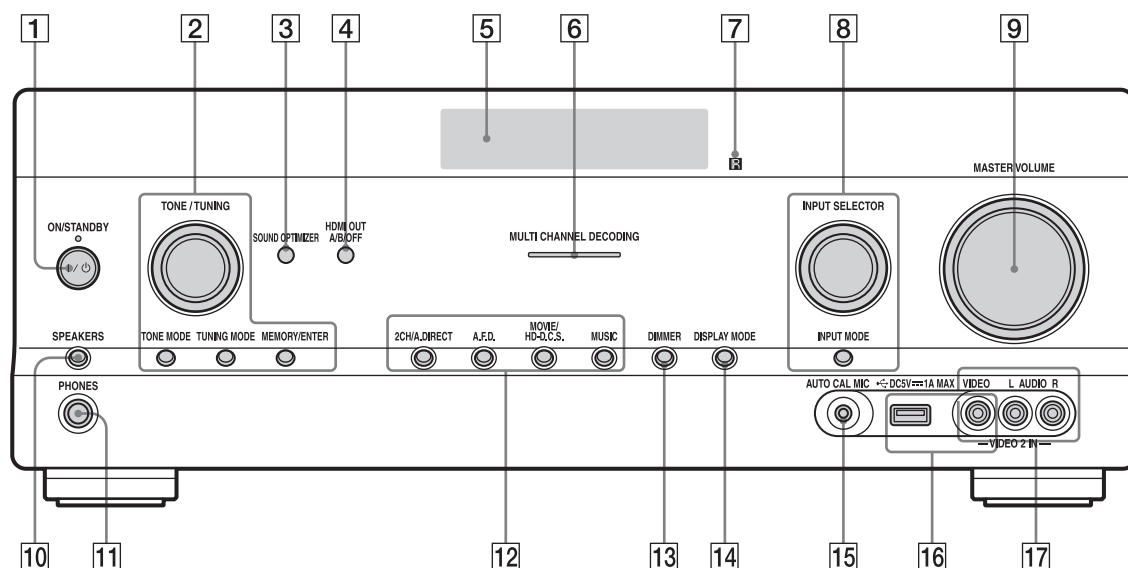
リモコンで他機を操作する	96
すべての接続機器の電源を切る (SYSTEM STANDBY)	97
お使いの機器に合わせてリモコンコードを 設定する	97
リモコンを初期設定状態にする	100

その他

使用上のご注意	101
故障かな?と思ったら	102
保証書とアフターサービス	112
主な仕様	112
索引	115

各部の名前と働き

本体前面



1 I/O ON/STANDBY (電源オン/スタンバイ)

本機 (アンプ) の電源を入/切します。
ボタンの上にあるランプは以下のように点灯します。
緑色：本機の電源が入っているとき。
オレンジ色：本機がスタンバイ状態であつ以下の場合。
- 「Control for HDMI」 (83ページ)、 「Network Standby」 (85ページ) のいずれかを 「On」 に設定した場合
- 「Pass Through」 (83ページ) を 「On」 または 「Auto」 に設定した場合
- 2ndゾーンの電源が入っている場合。
本体がスタンバイ状態のときであつ上記の設定がすべて 「Off」 のときは、ランプが消灯します。

2 MEMORY/ENTERボタン、TONE/TUNINGつまみ、TONE MODEボタン、TUNING MODEボタン

- TONE MODEをくり返し押して、調節するスピーカーと帯域を選びます。続けてTONE/TUNINGつまみを回してスピーカーの高音域/低音域レベルを調節します。
- TUNING MODEをくりかえし押して、FM/AMの選局モード (PRESET TUNING/AUTO TUNING) を選び、TONE/TUNINGつまみを回して、放送局を選局します。

3 SOUND OPTIMIZERボタン (51ページ)

4 HDMI OUT (A/B/OFF) ボタン (61ページ)

5 表示窓 (9ページ)

6 MULTI CHANNEL DECODINGランプ

マルチチャンネル音声デコードされているときに点灯します。

7 リモコン受光部

リモコンからの信号を受信します。

8 INPUT MODEボタン (62ページ)

INPUT SELECTORつまみ
再生する入力ソースを選びます。

9 MASTER VOLUMEつまみ (40ページ)

10 SPEAKERSボタン

11 PHONES端子

ヘッドホンをつなぎます。

12 2CH/A.DIRECTボタン、A.F.D.ボタン、MOVIE/HD-D.C.S.ボタン、MUSICボタン (48、49、50ページ)

13 DIMMERボタン

表示窓の明るさを切り換えます。

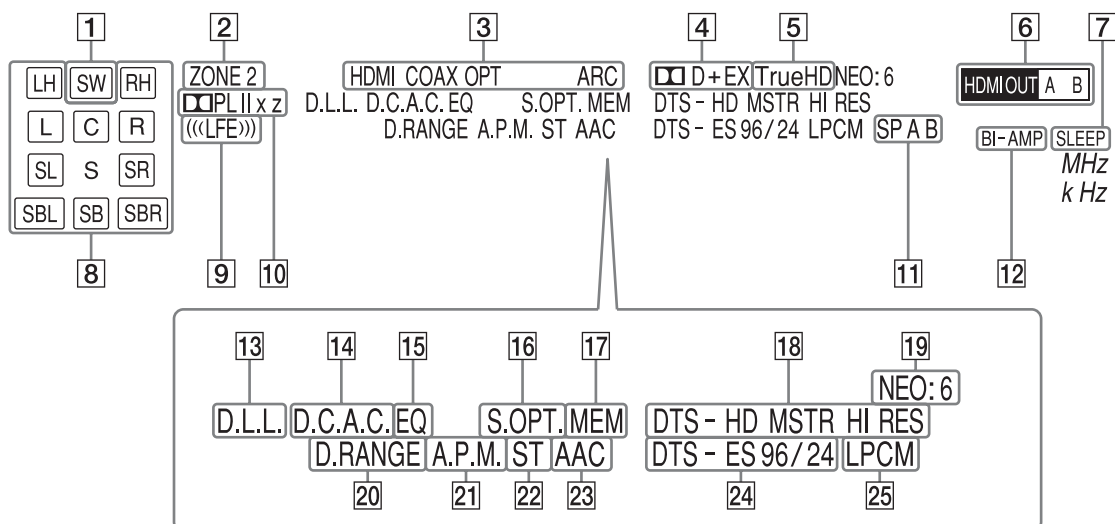
14 DISPLAY MODEボタン (95ページ)

15 AUTO CAL MIC端子 (74ページ)

16 iPod/iPhone (USB) ポート、VIDEO IN端子 (29、41ページ)

17 VIDEO 2 IN端子 (29ページ)

表示窓



1 SW

アクティブサブウーファーをつないでいる場合、音声信号がSUBWOOFER端子から出力されているときに点灯します。

2 ZONE 2 (53ページ)

3 INPUT表示

現在、本機に入力されている信号を表示します。

HDMI

COAX

OPT

ARC (62ページ)

4 ドルビーデジタルサラウンド表示

ドルビーデジタルフォーマットの信号をデコードしているときに、該当する表示が点灯します。

D

Dolby Digital

D+

Dolby Digital Plus

D EX

Dolby Digital Surround EX

5 TrueHD

Dolby TrueHD信号をデコードしているときに点灯します。

6 HDMI OUT A/B (61ページ)

7 SLEEP (67ページ)

8 再生チャンネル表示

音声が出力されているスピーカーを表示します。スピーカー設定に基づいて、本機がソースをどのようにダウンミックスおよび拡張しているか表示します。

L

フロント左

R

フロント右

C

センター

LH

フロントハイ左

RH

フロントハイ右

SL

サラウンド左

SR

サラウンド右

SBL

サラウンドバック左

SBR

サラウンドバック右

SB

サラウンドバック

例：記録形式：5.1

スピーカーパターン：3/0.1

サウンドフィールド：A.F.D. Auto

SW
 C R

9 LFE

入力信号にLFE（重低音効果）のチャンネルが存在しているときに「LFE」の文字が点灯します。

10 ドルビープロロジック表示

ドルビープロロジック処理をしているときに、該当するいずれかの表示が点灯します。マトリックスサラウンドデコード技術によって、入力信号を5.1チャンネルまたは7.1チャンネルに拡張します。

PL

Dolby Pro Logic

PLII

Dolby Pro Logic II

PLIIx
Dolby Pro Logic IIx

PLIIz
Dolby Pro Logic IIz

11 スピーカー表示 (36ページ)

12 BI-AMP (69ページ)

13 D.L.L. (78ページ)

14 D.C.A.C. (74ページ)

Auto Calibration機能の測定結果が適用されているときに点灯します。

15 EQ

イコライザーが働いているときに点灯します。

16 S. OPT.

Sound Optimizer機能が働いているときに点灯します。

17 MEM

プリセットメモリー機能が働いているときに点灯します。

18 DTS-HD表示

DTS-HD信号をデコードしているときに点灯します。

DTS-HD

次の表示とともに点灯します。

MSTR

DTS-HD Master Audio

HI RES

DTS-HD High Resolution Audio

19 NEO:6

DTS Neo:6 Cinema/Musicモードのときに点灯します。

20 D.RANGE

ダイナミックレンジの圧縮が働いているときに点灯します。

21 A.P.M. (75ページ)

A.P.M. (Automatic Phase Matching (自動位相マッチング)) 機能が働いているときに点灯します。

22 ラジオ受信表示

ラジオを受信したときに以下の表示が点灯します。

ST

FMラジオのステレオ放送を受信したときに点灯します。

23 AAC

MPEG2 AAC信号が入力されたときに点灯します。

24 DTS (-ES) 表示

DTSまたはDTS-ES信号を入力しているときに点灯します。

DTS

DTS信号をデコードしているときに点灯します。信号やデコードのフォーマットによって、次の表示も点灯します。

DTS-ES

デコードのフォーマットによって、次の表示とともに点灯します。

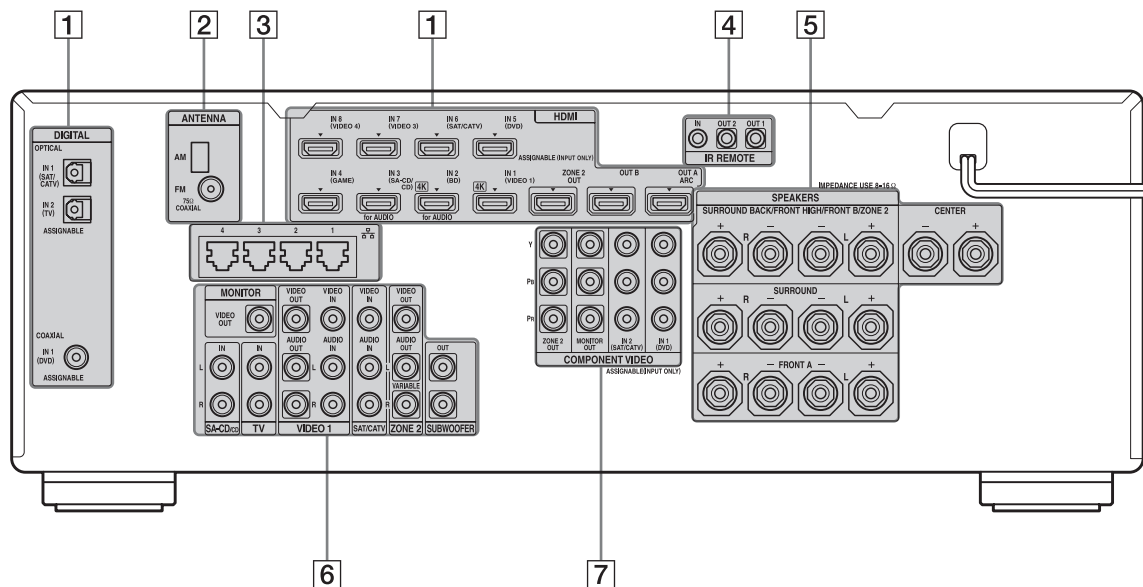
96/24

DTS 96 kHz/24ビット信号をデコードしているときに点灯します。




25 LPCM

リニアPCM信号が入力されたときに点灯します。



本体後面



1 デジタル入出力部

-  OPTICAL (光) デジタル音声入出力端子 (22、26、27ページ)
-  COAXIAL (同軸) デジタル音声入力端子 (25、31ページ)
-  HDMI入出力端子* (22、24、26、27ページ)

2 アンテナ端子

-  AMアンテナ端子
-  FM 75Ω同軸アンテナ端子

3 LANポート (スイッチングハブ) (34ページ)



4 ソニー製機器、その他外部機器のコントロール端子







-  IR REMOTE入出力端子 (53ページ)

マルチゾーン機能を使用するときにIRリピーター (別売) をINにつなぎます。IRブラスター (別売) は、OUTにつなぎます。INに入力された信号がOUTから出力されます。

5 スピーカー出力部 (20ページ)






6 映像と音声の入出力部 (22、25、26、27、28ページ)

-  L
-  R
-  映像入出力端子*
-  音声出力端子
-  映像出力端子 (53ページ)
-  SUBWOOFER (サブウーファー) 出力端子

外部のパワーアンプなどにつなぎます。

7 コンポーネント映像入出力部 (22、25、27ページ)

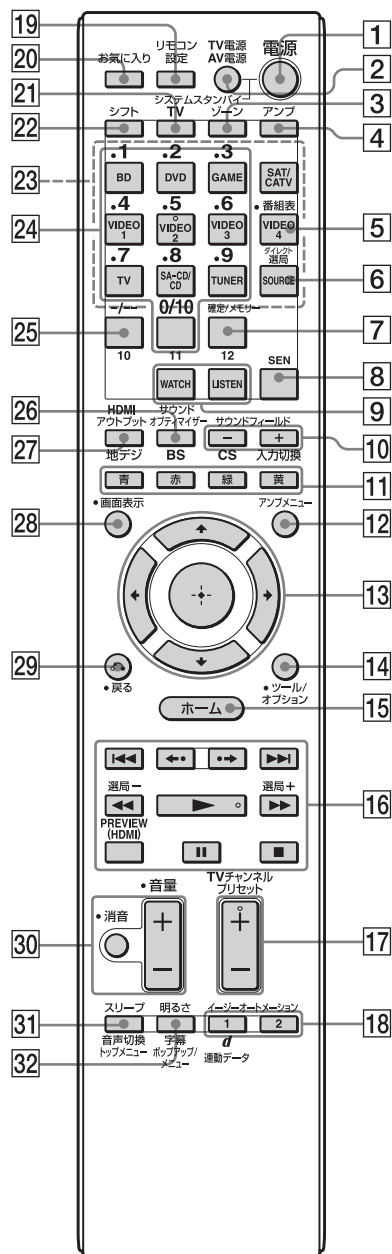
-  Y
-  Pb Y、P_B、P_R入出力端子*
-  Pr

* 選んだ入力の映像を見るには、お持ちのテレビをHDMI OUT 端子またはMONITOR OUT 端子につないでください (22ページ)。

リモコン

本機や他の機器を操作するには、付属のリモコンを使ってください。初期設定ではソニー製の映像/オーディオ機器を操作できるようになっています（97ページ）。

リモコン(RM-AAP083)



- ① **電源ボタン**
本体の電源を入/切します。
- ② **TV電源ボタン、AV電源ボタン（97ページ）**
リモコンに登録されている機器の電源を入/切します。
- ③ **ゾーンボタン（53ページ）**
- ④ **アンプボタン**
本機メインゾーンのリモコン操作を有効にします。
- ⑤ **番組表ボタン**
シフトボタン（②②）を押したあとに押して、番組表を表示します。
- ⑥ **ダイレクト選局ボタン**
シフトボタン（②②）を押したあとに押して、受信する周波数を数字キーで入力します。
- ⑦ **確定/メモリーボタン**
シフトボタン（②②）を押したあと数字ボタンでチャンネルやディスク、トラックを選び、確定/メモリーボタンを押して確定します。
- ⑧ **SENボタン**
ソニーが提供するSony Entertainment Network（ソニー エンタテインメント ネットワーク）のホームページにアクセスします。
- ⑨ **WATCHボタン、LISTENボタン（40ページ）**
- ⑩ **サウンドフィールド+/-ボタン（48、49、50ページ）**
- ⑪ **カラーボタン**
テレビ画面に表示されるガイドに応じて働きます。
- ⑫ **アンプメニューボタン（89ページ）**
- ⑬ **⊕/⬆/⬇/⬅/➡**
⬆/⬇/⬅/➡を押して項目を選びます。続いて⊕を押して、選択を決定します。
- ⑭ **ツール/オプションボタン（38、44ページ）**
オプションメニューを表示、選択します。
- ⑮ **ホームボタン（38ページ）**
- ⑯ **⏪/⏩)1)、■)1)、⏸)1)、⏩)2)、⏪/⏩)1)**
DVDプレーヤーやブルーレイディスクレコーダー、CDプレーヤー、前面USBポート、ネットワークにつないだ機器や、インターネットビデオなどを操作します。
⏪/⏩
再生コンテンツの少し前に戻る、または少し先に進みます。
- 選局+/-ボタン**
放送局を選択します。
- PREVIEW (HDMI)ボタン**
HDMI入力端子からの映像をPIP（小窓）画面に表示します。

ご注意

- リモコンを使うときは、リモコン受光部に直射日光や照明器具などの強い光が当たらないようご注意ください。誤動作の原因となります。
- 機能の説明は、例としてあげています。お使いの機器によっては、上記の操作ができなかったり、説明されていると動かない場合があります。

ちょっと一言

本機がリモコン操作に反応しないときは、すべて新しい電池に交換してください。

17 プリセット+²/-ボタン

プリセットした放送局を選ぶときに押します。

TVチャンネル+²/-ボタン

TV (21) を押したあとに押して、テレビやBSデジタルチューナーのチャンネルを選びます。

18 イージーオートメーションボタン (65ページ)

dボタン

連動データボタン

TV (21) を押したあとdを押して、デジタル放送のテレビやラジオ番組および連動データを表示します。

19 リモコン設定ボタン (69ページ)

20 お気に入りボタン (44ページ)

21 TVボタン

押して黄色で表記されたテレビを操作できるボタン操作に切り換えます。

22 シフトボタン

押してピンク色で表記されたボタン操作に切り換えます。

23 入力切り換え用ボタン

使用する機器を選びます。

入力切り換え用ボタンを押すと、アンプ本体の電源が入ります。

24 数字ボタン

シフトボタン (22) を押したあとに押して、数字を入力します。

TV (21) を押したあとに押して、テレビのチャンネルを選びます。

25 -/--ボタン

シフトボタン (22) を押したあと-/--を押して、数字ボタンで10以上の数字のDVDプレーヤーやブルーレイディスクレコーダー、CDプレーヤーのトラックを選べます。

26 サウンドオブティマイザーボタン (51ページ)

27 HDMIアウトプットボタン (61ページ)

28 画面表示ボタン

インターネットビデオやホームネットワーク上のコンテンツを再生時に、テレビ画面にコントロールパネルを表示します。

29 戻る²ボタン

前のメニューに戻るときやメニューを消すときに押します。

30 音量+/-ボタン (40ページ)

TV (21) を押したあとに押して、テレビの音量も調節します。

消音ボタン (40ページ)

TV (21) を押したあとに押して、テレビを消音します。

31 スリープボタン (67ページ)

トップメニューボタン

BD-ROMやDVDのトップメニューを表示します。

音声切換ボタン

シフトボタン (22) を押したあとに押して、音声フォーマット、トラックを選びます。

32 明るさボタン

表示窓の明るさを切り換えます。

ポップアップ/メニューボタン

BD-ROMのポップアップメニューやDVDのメニューを表示します。

字幕ボタン

シフトボタン (22) を押したあとに押して、字幕言語を選びます。

- 1) 各機器を操作できるその他のボタンについては、96 ページの表をご覧ください。
- 2) 数字ボタンの5/VIDEO 2 および ▶、プリセット+/TVチャンネル+には、凸点(突起)が付いています。操作の目印として、お使いください。

機器をつなぐ前にお読みください

コード類をつなぐときは、必ず電源コードを抜いてください。

スピーカーを設置する

「準備 1：スピーカーを設置する」(18 ページ) をご覧ください。



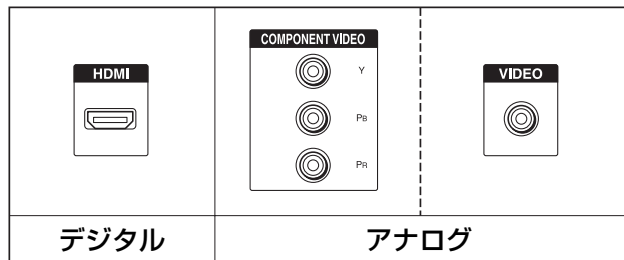
テレビを接続する

「準備 2：テレビを接続する」(22 ページ) をご覧ください。



映像機器を接続する

画質は接続する端子によって変わります。右の図をご覧ください。機器の端子に合った接続を選んでください。本機には映像変換機能があります。詳しくは「映像信号の変換機能について」(15 ページ) をご覧ください。詳しくは「準備 3：映像機器を接続する」(24 ページ) をご覧ください。



オーディオ機器を接続する

「準備 4：オーディオ機器を接続する」(31 ページ) をご覧ください。



本体とリモコンの準備をする

「準備 6：本体とリモコンを準備する」(35 ページ) をご覧ください。



本機を設定する

「準備 7：Easy Setup で初期設定を行う」(36 ページ) をご覧ください。



接続機器の音声出力を設定する

「準備 8：接続機器の設定をする」(37 ページ) をご覧ください。

マルチゾーン接続について詳しくは 54 ページをご覧ください。

バイアンプ接続について詳しくは 69 ページをご覧ください。

映像信号の変換機能について

本機には映像信号の変換機能があります。

- コンポジット映像信号をHDMI映像信号、コンポーネント映像信号に変換できます。
- コンポーネント映像信号をHDMI映像信号、コンポジット映像信号に変換できます。

初期設定では、下の表のように、つないだ機器からの映像信号をHDMI OUT端子またはMONITOR OUT端子から出力します。お使いのモニターの解像度にあった映像変換機能に設定することをおすすめします。映像変換機能の詳細については、「映像設定 (Video Settings)」(80ページ) をご覧ください。

出力端子 入力信号 (つなぐ端子)	HDMI OUT A/B (4Kまで)	COMPONENT VIDEO MONITOR OUT (1080iまで)	MONITOR VIDEO OUT	VIDEO 1 OUT
HDMI映像 (HDMI IN)	○	×	×	×
コンポジット映像 (VIDEO IN)	○*	○**	○**	○
コンポーネント映像 (COMPONENT VIDEO IN)	○*	○**	○**	×

○：映像信号を出力します。

×：映像信号を出力しません。

* 「Resolution」(80 ページ) が「Auto」に設定時、最大 4k までのアップコンバートが可能です。4K 映像を楽しむためには、4K 対応のモニターが接続されている必要があります。

** 「Resolution」(80 ページ) の設定によっては映像信号が出力されないことがあります。

映像の変換機能のご注意

解像度変換した映像信号は、COMPONENT VIDEO MONITOR OUT端子とHDMI OUT端子に同時に出力できないことがあります。COMPONENT VIDEO MONITOR OUT端子とHDMI OUT端子の両方につながっている場合は、HDMI OUT端子からの出力が優先されます。

2ndゾーンへのHDMI出力のご注意

HDMI IN端子から入力された映像のみHDMI ZONE2 OUT端子からの出力が可能です。

字幕(Closed Caption)を表示するには

字幕対応の入力信号を受信するときは、「Resolution」を「Direct」に設定してください。また、入力と出力に同じタイプの接続ケーブルをお使いください。

録画機器をつなぐには

録画する場合は、録画機器を本機のVIDEO OUT端子につないでください。VIDEO OUT端子には映像変換機能がないので、入力信号と出力信号は同じ種類の端子につないでください。

HDMI OUT端子およびMONITOR OUT端子からの出力信号は録画できません。

本機が再生できる音声フォーマット

本機がデコードできる音声フォーマットは、再生機器とつないだデジタル音声入力端子によって異なります。本機は以下のフォーマットに対応しています。

本機と再生機との接続

音声フォーマット	最大チャンネル数	COAXIAL/OPTICAL	HDMI
Dolby Digital 	5.1チャンネル	○	○
Dolby Digital EX 	6.1チャンネル	○	○
Dolby Digital Plus* 	7.1チャンネル	×	○
Dolby TrueHD* 	7.1チャンネル	×	○
DTS 	5.1チャンネル	○	○
DTS-ES 	6.1チャンネル	○	○
DTS 96/24 	5.1チャンネル	○	○
DTS-HD High Resolution Audio* 	7.1チャンネル	×	○
DTS-HD Master Audio* 	7.1チャンネル	×	○
DSD* 	5.1チャンネル	×	○
MPEG-2 AAC (LC) 	5.1チャンネル	○	○
マルチチャンネルリニアPCM*	7.1チャンネル	×	○

* 再生機器が上記のフォーマットに対応していない場合は、音声は別のフォーマットで出力されます。詳しくは、再生機器の取扱説明書を参照してください。

再生可能なファイル(Network/USB)

コンテンツの種類	ファイルフォーマット	拡張子
音楽	WAV ⁴⁾	[.wav]
	WMA ^{1) 3)}	[.wma]
	MP3	[.mp3]
	AAC ^{1) 3)}	[.m4a]
	FLAC ⁴⁾	[.flac]
映像 ⁵⁾	MPEG-1 Video/PS ¹⁾	[.mpg]、[.mpeg]、[.m2ts]、[.mts]
	MPEG-2 Video/PS、TS ¹⁾	
	MPEG-4 AVC ¹⁾	[.mkv]、[.mp4]、[.m4v]、[.m2ts]、[.mts]
	WMV ^{9) 1)}	[.wmv]、[.asf]
	AVCHD	²⁾
	Xvid	[.avi]
写真	JPEG	[.jpg]、[.jpeg]、[.mpo]
	PNG	[.png]
	GIF	[.gif]

1) 本機は DRM などの暗号化されたファイルは再生できません。

2) 本機はビデオカメラなどで撮影した AVCHD フォーマットのファイルを再生します。

3) 本機はロスレスなどの暗号化されたファイルは再生できません。

4) 対応サンプリング周波数/ビット深度：最大 192 kHz/24 bit

5) DLNA サーバー上にある映像コンテンツは再生できません。

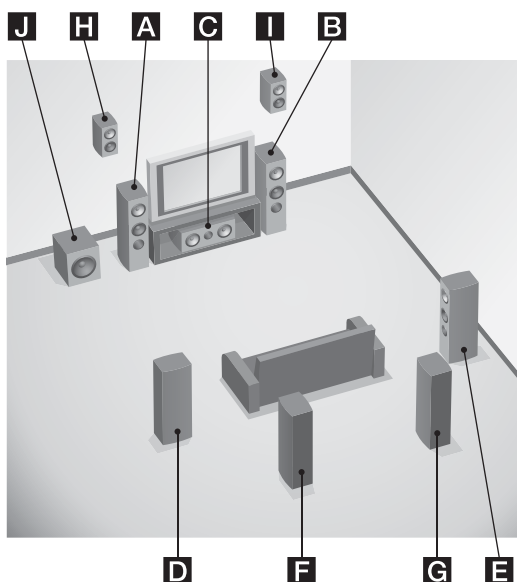
ご注意

- 一部のファイルは、フォーマット、エンコード、記録状態、DLNA サーバーの状態によって再生されないことがあります。
- パソコンで編集された一部のファイルは再生されないことがあります。
- 本機は USB デバイスに記録されたフォルダーまたはファイルを以下のとおり認識できます。
 - 3 階層目のフォルダーまで
 - 1 階層内に 500 ファイルまで
- 本機は DLNA サーバーに保存されたフォルダーまたはファイルを以下のとおり認識できます。
 - 18 階層目のフォルダーまで
 - 1 階層内に 999 ファイルまで
- DLNA ガイドラインで規定されているフォーマットについては、DLNA ガイドラインで定められたフォーマット情報をサーバーが正しく付加して公開している必要があります。

準備1:スピーカーを設置する

本機では最大7.1チャンネル（スピーカー7本とアクティブサブウーファー1本）のスピーカーシステムを構成できます。

スピーカーシステムの設置例



7.1チャンネル(サラウンドバックスピーカー接続)

DVDやブルーレイソフトに記録された6.1チャンネルまたは7.1チャンネルの音声を忠実に再現することができます。

- A** フロントスピーカー (L)
- B** フロントスピーカー (R)
- C** センタースピーカー
- D** サラウンドスピーカー (L)
- E** サラウンドスピーカー (R)
- F** サラウンドバックスピーカー (L)
- G** サラウンドバックスピーカー (R)
- J** アクティブサブウーファー

7.1チャンネル(フロントハイスピーカー接続)

Pro Logic IIzモードなどの垂直方向のサウンドエフェクトを楽しむことができます。

- A** フロントスピーカー (L)
- B** フロントスピーカー (R)
- C** センタースピーカー
- D** サラウンドスピーカー (L)
- E** サラウンドスピーカー (R)
- H** フロントハイスピーカー (L)
- I** フロントハイスピーカー (R)
- J** アクティブサブウーファー

5.1チャンネル

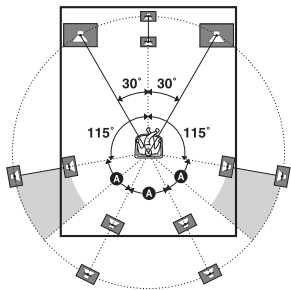
映画館のようなマルチチャンネル音声を十分に楽しむには、5本のスピーカー（フロントスピーカー：2本、センタースピーカー：1本、サラウンドスピーカー：2本）およびアクティブサブウーファーが必要です（5.1チャンネル）。

- A** フロントスピーカー (L)
- B** フロントスピーカー (R)
- C** センタースピーカー
- D** サラウンドスピーカー (L)
- E** サラウンドスピーカー (R)
- J** アクティブサブウーファー

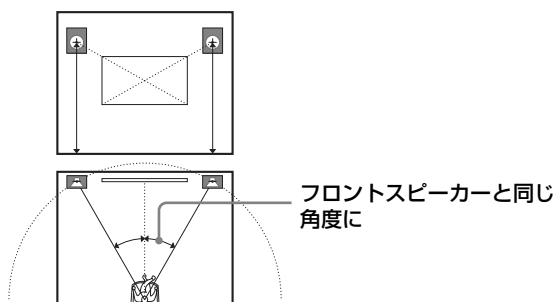
推奨スピーカー配置

7チャンネル

- Aの角度はなるべく同じにします。後方の壁に近い場合は、サラウンドバックスピーカーを高い位置に配置します。

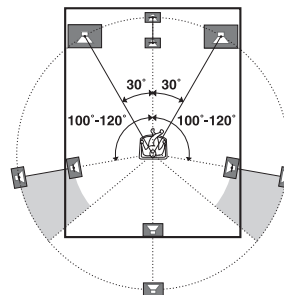


- 理想的な角度が確保できない場合は、サウランドスピーカーおよびサラウンドバックスピーカーの位置が近づきすぎないように分散させて、なるべく左右対称になるように配置してください。
- フロントハイスピーカーは、フロントスピーカーと同じ角度になる場所に配置してください。高さはTVやスクリーンの対角線の延長上、またはその上方に配置してください。



6チャンネル

- サラウンドバックスピーカーをリスニングポジションの真後ろに配置します。

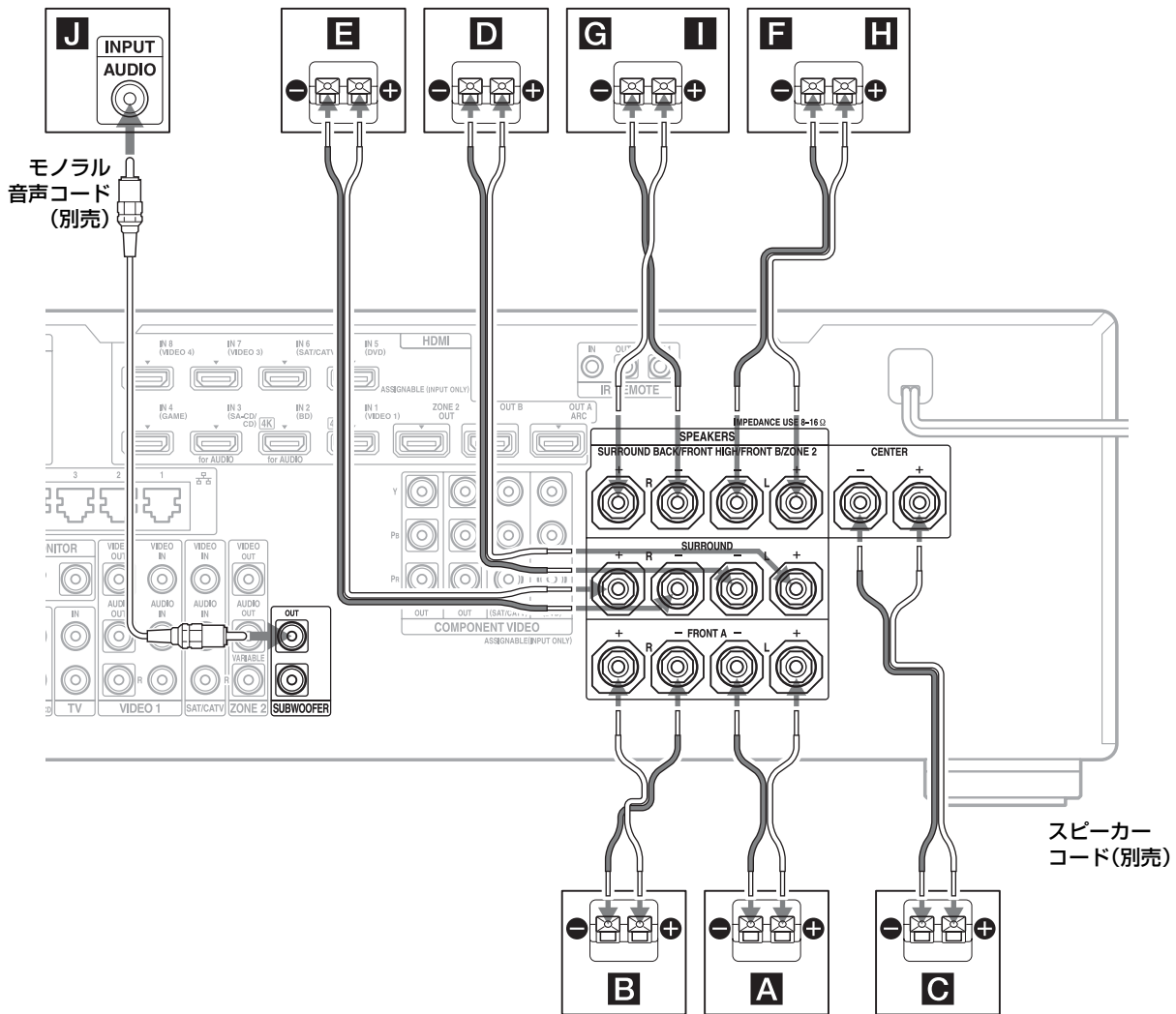


ちょっと一言

アクティブサブウーファーには指向性がないため、お好みの場所に設置できます。

スピーカーを接続する

スピーカーコード類をつなぐときは、必ず電源コードを抜いてください。



- A** フロントスピーカー **A** (L) ¹⁾
- B** フロントスピーカー **A** (R) ¹⁾
- C** センタースピーカー
- D** サラウンドスピーカー (L)
- E** サラウンドスピーカー (R)
- F** サラウンドバックスピーカー (L) ²⁾
- G** サラウンドバックスピーカー (R) ²⁾
- H** フロントハイスピーカー (L) ³⁾
- I** フロントハイスピーカー (R) ³⁾
- J** アクティブサブウーファー ⁴⁾

- 1) 追加のフロントスピーカーを使用するときは、SURROUND BACK/FRONT HIGH/FRONT B/ZONE 2 端子につないでください。使用するフロントスピーカーを本機前面の SPEAKERS ボタンで選べます (36 ページ)。
- 2) サラウンドバックスピーカーを 1 本のみ使用するときは、SURROUND BACK/FRONT HIGH/FRONT B/ZONE 2 L 端子につないでください。
- 3) フロントハイスピーカーを使う場合は、SURROUND BACK/FRONT HIGH/FRONT B/ZONE 2 端子につないでください。
- 4) オートスタンバイ機能があるアクティブサブウーファーをお使いの場合、映画鑑賞中はオートスタンバイ機能を OFF にしてください。オートスタンバイ機能が ON になっていると、アクティブサブウーファーへの入力信号のレベルによって自動的にスタンバイ状態になり、音が出なくなることがあります。本機には 2 台のアクティブサブウーファーをつなぐことができます。各 SUBWOOFER 端子からは同じ信号が出力されます。

2ndゾーンの接続

サラウンドバックスピーカーおよびフロントハイスピーカーを使用しないときのみ、SURROUND BACK/FRONT HIGH/FRONT B/ZONE 2 L、R端子を2ndゾーンのスピーカー用に割り当てることができます。Speaker Settingsメニューの「Speaker Connection」(75ページ)でSURROUND BACK/FRONT HIGH/FRONT B/ZONE 2端子を「Zone2 Speakers」(2ndゾーンのスピーカー)に設定してください。

2ndゾーンの接続と操作については、「マルチゾーン機能を使う」(53ページ)をご覧ください。

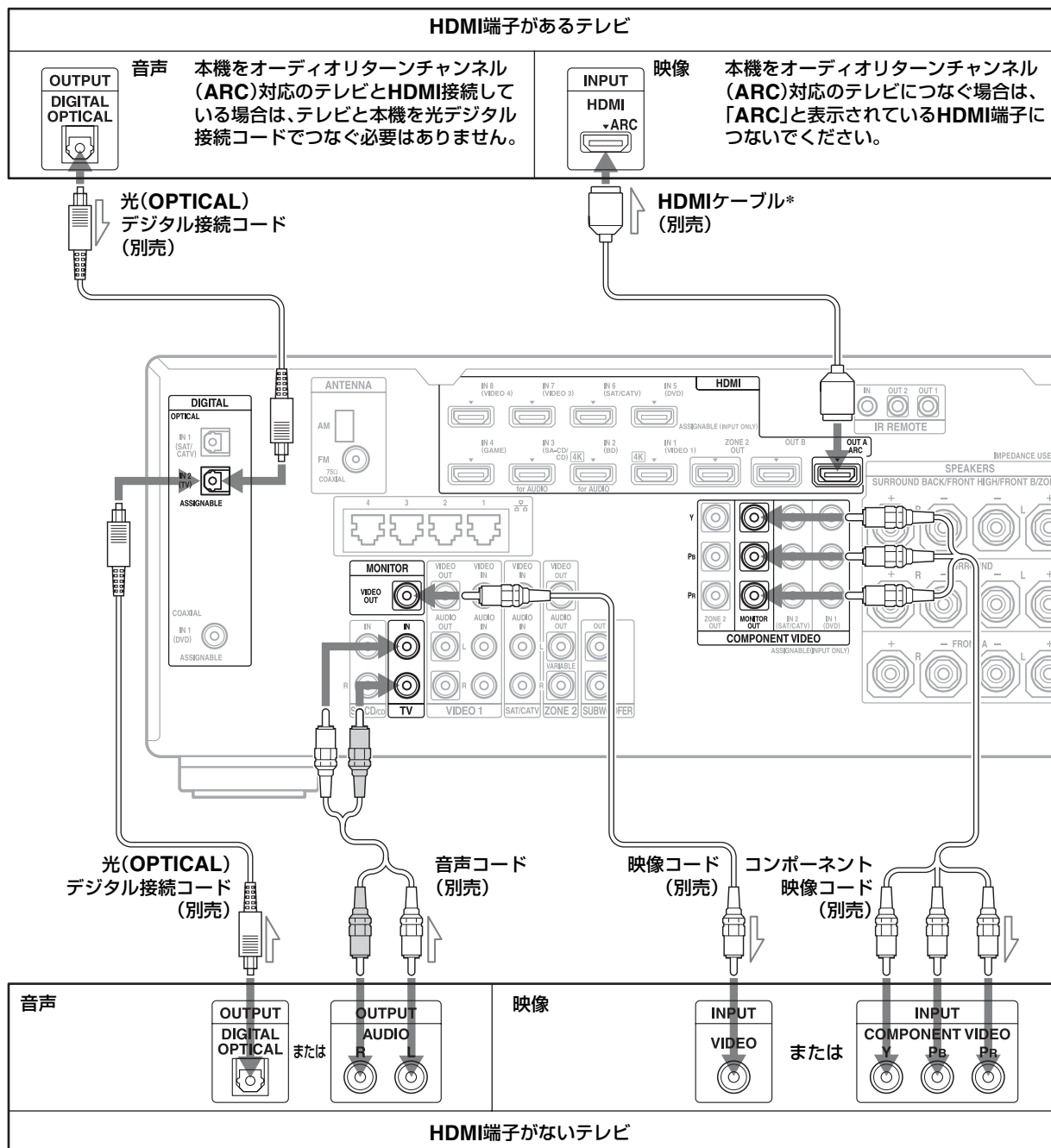
フロントBスピーカーの接続

サラウンドバックスピーカーおよびフロントハイスピーカーを使用しないときのみ、SURROUND BACK/FRONT HIGH/FRONT B/ZONE2 L、R端子をフロントBスピーカー用に割り当てることができます。Speaker Settingsメニューの「Speaker Connection」(75ページ)でSURROUND BACK/FRONT HIGH/FRONT B/ZONE2端子を「Front B」(フロントBスピーカー)に設定してください。

使用するフロントスピーカーを本機前面のSPEAKERSボタンで選べます。

準備 2: テレビを接続する

お持ちのテレビをHDMI OUT端子やMONITOR OUT端子につなぐと、選んだ入力の映像を見ることができます。GUI (Graphical User Interface) を使って本機を操作できます。



すべてのコードをつなぐ必要はありません。お持ちの機種にある端子に合わせてコードをつないでください。

* ソニー製の HDMI ケーブルをおすすめします。

接続に必要なケーブル／コード

テレビの種類	オーディオリターンチャンネル (ARC)	必要なケーブル／コード	
		映像	音声
HDMI入力端子あり	対応	HDMIケーブル*	—
	非対応	HDMIケーブル	光 (OPTICAL) デジタル接続コードまたは音声コード**
HDMI入力端子なし	—	コンポーネント映像コードまたは映像コード	光 (OPTICAL) デジタル接続コードまたは音声コード**

* HDMI ケーブルでつなぐだけでテレビの音声 (マルチチャンネルサラウンド音声) も本機から出力できます。

** マルチチャンネルサラウンド音声を本機から出力する場合は、光 (OPTICAL) デジタル接続コードでつないでください。

ご注意

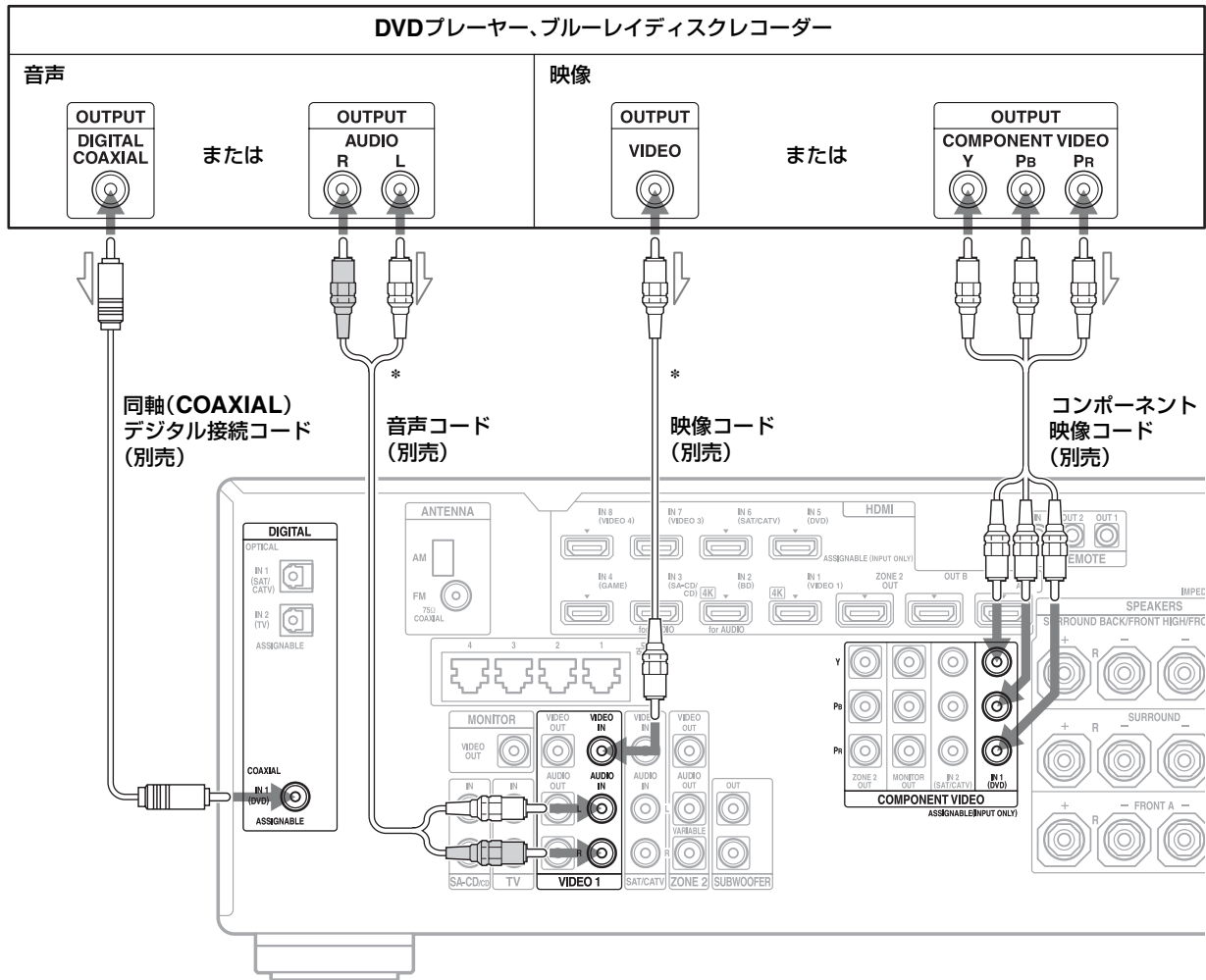
- テレビと映像コードでつなぐ場合には、「Playback Resolution」(81 ページ) を「480i/576i」に設定してください。
- 光デジタル接続コードをつなぐときは、カチッと音がするまでまっすぐにプラグを差し込んでください。
- 光デジタル接続コードを折り曲げたり、結んだりしないでください。

ちょっと一言

テレビの音声出力端子を本機の TV IN 端子につなぐと、テレビの音声を本機につないだスピーカーで聞けます。テレビの音声出力端子が可変／固定切り換えの場合には、固定にしてください。

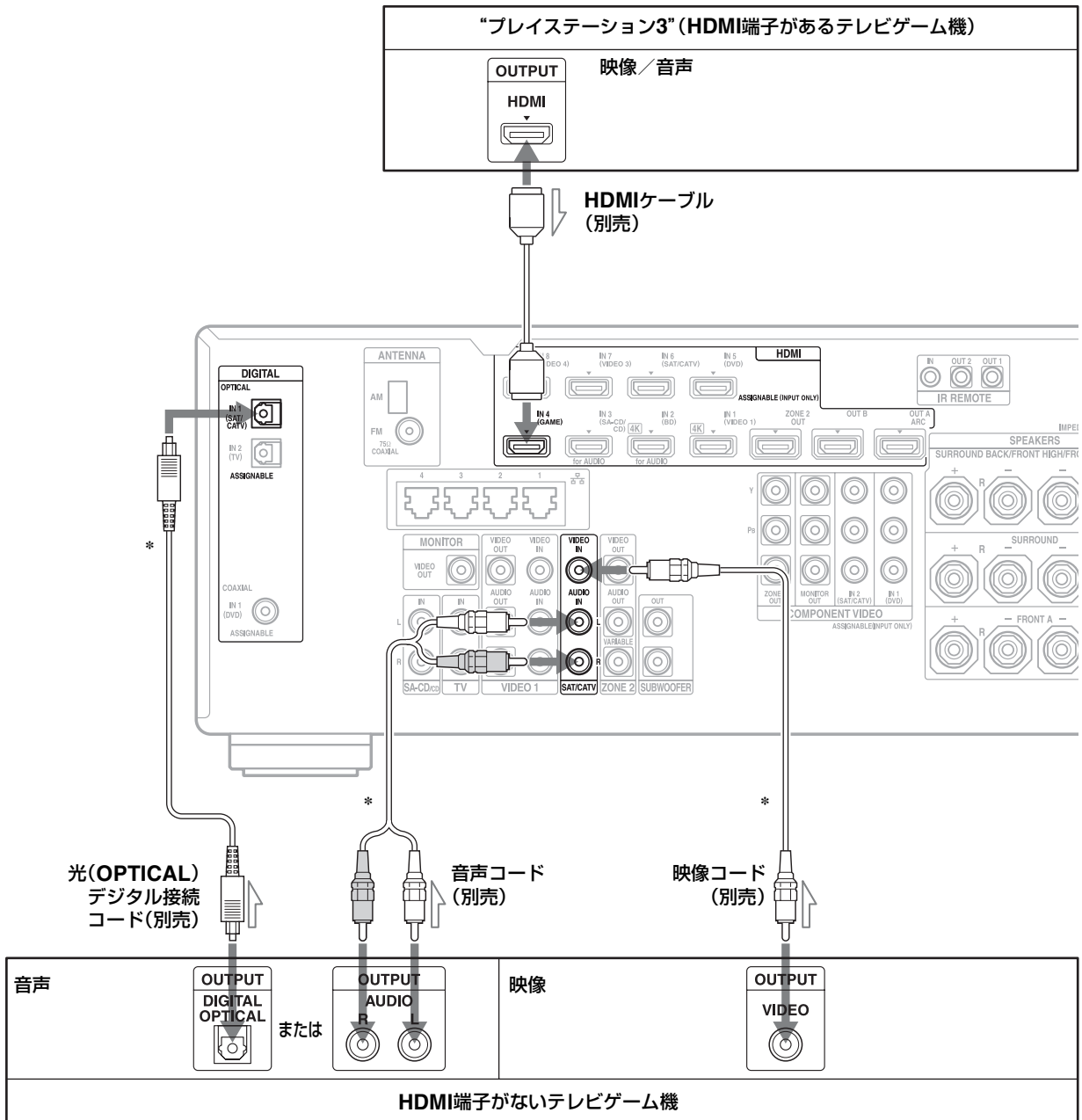
HDMI端子がない機器と接続する

すべてのコードをつなぐ必要はありません。お持ちの機種にある端子に合わせてコードをつないでください。



* AUDIO IN 端子、または VIDEO IN 端子につなぐときは、Input Settings メニューにある「Video Input Assign」および「Audio Input Assign」の設定を行ってください。

テレビゲームをしたい



すべてのコードをつなぐ必要はありません。お持ちの機種にある端子に合わせてコードをつないでください。

* OPTICAL 端子、AUDIO IN 端子、または VIDEO IN 端子につなぐときは、Input Settings メニューにある「Video Input Assign」および「Audio Input Assign」の設定を行ってください。

接続に必要なケーブル／コード

テレビゲーム機の種類	必要なケーブル／コード	
	映像	音声
HDMI出力端子あり	HDMIケーブル*	—
HDMI出力端子なし	コンポーネント映像コードまたは映像コード	光 (OPTICAL) デジタル接続コードまたは音声コード**

* HDMI ケーブルでつなぐだけで音声（マルチチャンネルサラウンド音声）も本機から出力できます。

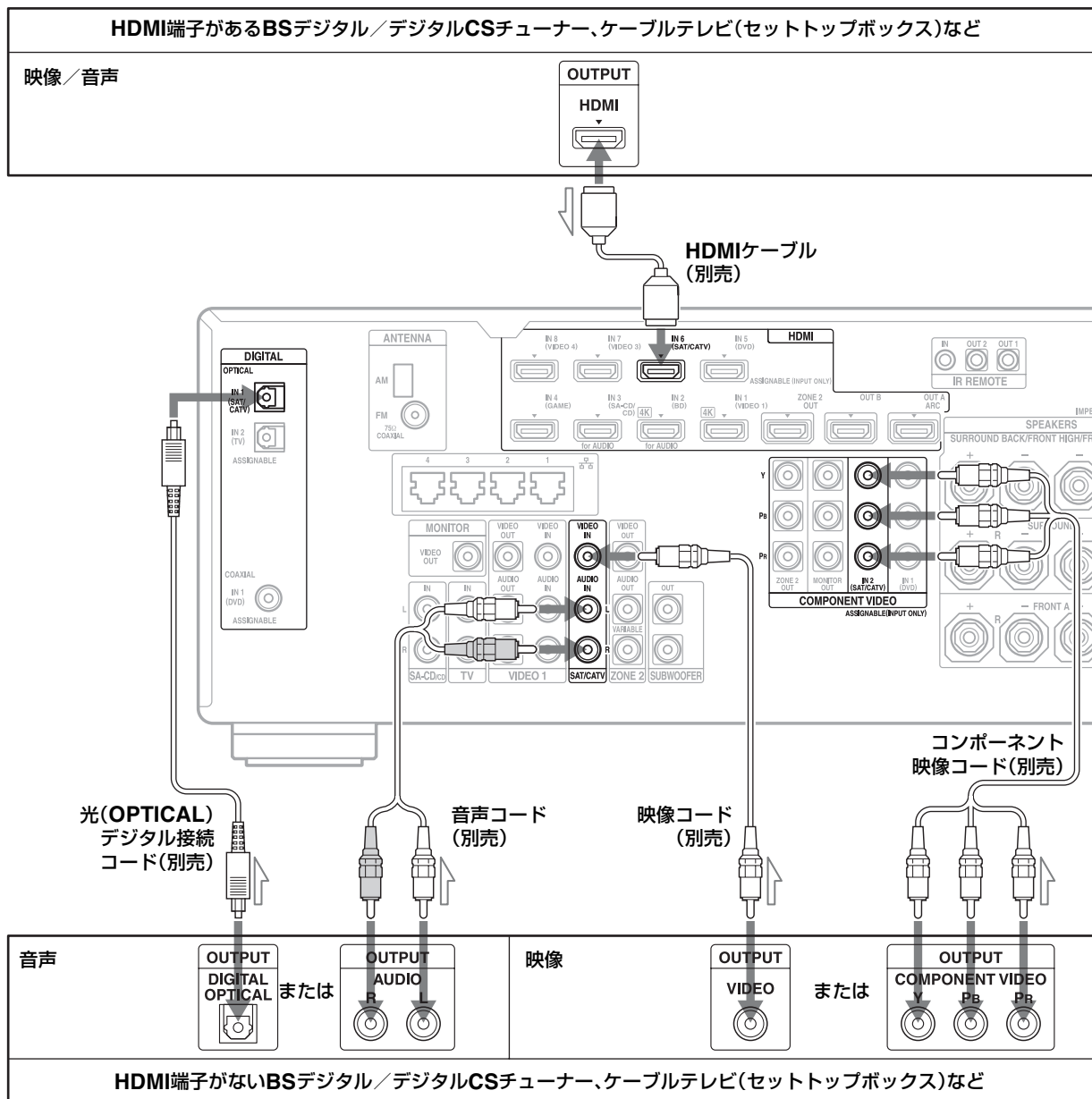
** マルチチャンネルサラウンド音声を本機から出力する場合は、光 (OPTICAL) デジタル接続コードでつないでください。

ご注意

• 光デジタル接続コードをつなぐときは、カチッと音がするまでまっすぐにプラグを差し込んでください。

• 光デジタル接続コードを折り曲げたり、結んだりしないでください。

衛星放送やケーブルテレビを見たい



すべてのコードをつなぐ必要はありません。お持ちの機種にある端子に合わせてコードをつないでください。

接続に必要なケーブル/コード

BSデジタル/デジタルCSチューナー、ケーブルテレビ(セットトップボックス)の種類	必要なケーブル/コード	映像	音声
HDMI出力端子あり	HDMIケーブル*		—
HDMI出力端子なし	コンポーネント映像コードまたは映像コード		光 (OPTICAL) デジタル接続コードまたは音声コード**

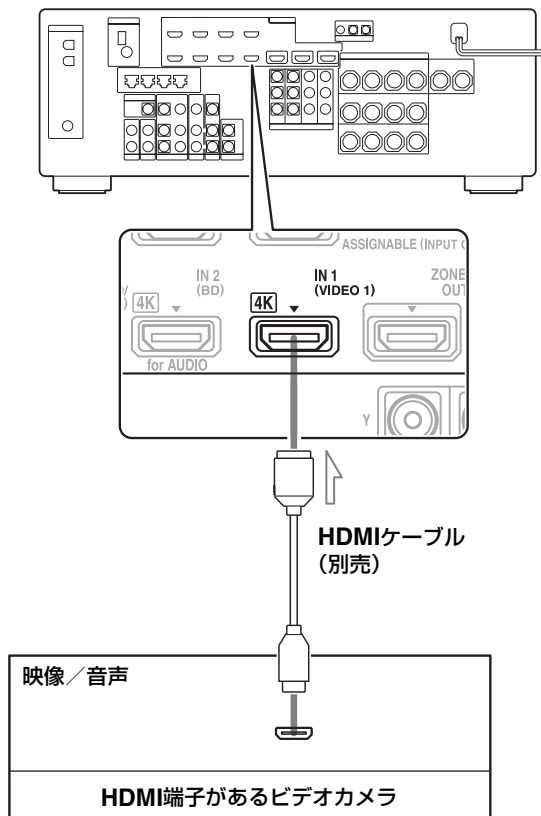
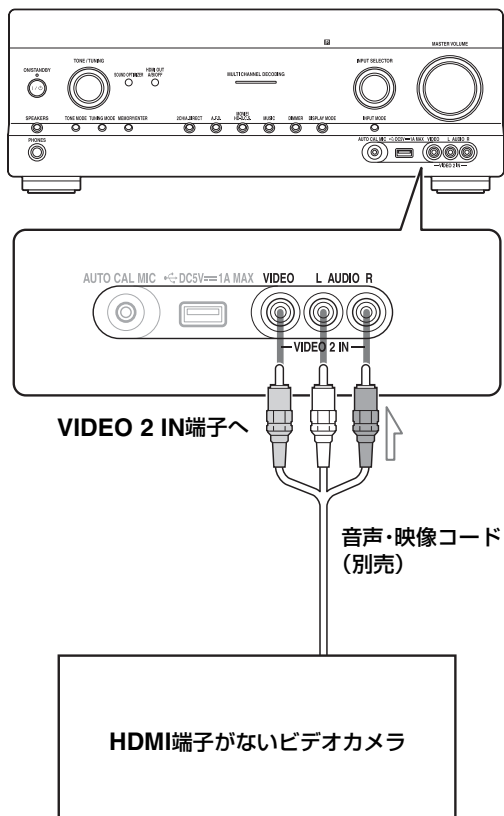
* HDMI ケーブルでつなぐだけで音声 (マルチチャンネルサラウンド音声) も本機から出力できます。

** マルチチャンネルサラウンド音声を本機から出力する場合は、光 (OPTICAL) デジタル接続コードでつないでください。

ご注意

- 光デジタル接続コードをつなぐときは、カチッと音がするまでまっすぐにプラグを差し込んでください。
- 光デジタル接続コードを折り曲げたり、結んだりしないでください。

ビデオカメラの映像を見たい



HDMI接続でできること

- 本機ではHDMIで転送されたデジタル音声信号をスピーカー端子から出力できます。ドルビーデジタル、DTS、DSD、リニアPCM、AACの各フォーマットに対応しています。詳しくは、「本機が再生できる音声フォーマット」(16ページ)をご覧ください。
- 映像端子、コンポーネント映像端子に入力したアナログ映像信号を、HDMIに変換して出力できます。映像を変換したとき、音声信号はHDMI OUT端子からは出力されません。
- Zone2 OUT側のHDMI OUTはAnalog Video入力信号を出力できません。
- 本機はHigh Bitrate Audio (DTS-HD Master Audio、Dolby TrueHD)、Deep Color、“x.v.Color” および3D、4K伝送に対応しています。
- 本機はHDMI機器制御機能に対応しています。ただし、HDMI OUT BおよびHDMI ZONE 2 OUT端子はHDMI機器制御機能に対応していません。
- 3D映像を楽しむには、3D表示に対応したテレビおよび映像機器(ブルーレイディスクレコーダー、“プレイステーション3”など)と本機をHigh Speed HDMIケーブルでつなぎ、3Dメガネを装着したうえで、3D対応のブルーレイディスクなどを再生してください。
- 本機はHDMI端子からの4K信号出力に対応しています。アナログビデオ信号は4Kまでのアップコンバータが可能です。また、HDMI入力端子のうち後面のIN 1、IN 2に接続した4K対応プレーヤーから入力された4K信号は、HDMI OUT端子から4K信号出力されません。4K映像を楽しむには、4Kに対応したテレビやプロジェクターがHDMI OUT端子に接続されている必要があります。
- HDMI IN 1/IN 2/IN 3/IN 4端子は、PIP画面(小窓)でプレビュー画像を見ることができます。

接続ケーブルについて

- High Speed HDMIケーブルをご利用ください。Standard HDMIケーブルの場合、4K、1080p、Deep Colorまたは3Dの映像が正しく表示できない場合があります。
- 認証を受けたHDMIケーブルまたはソニー製のHDMIケーブルをおすすめします。

HDMI-DVI変換ケーブルの使用についてのご注意

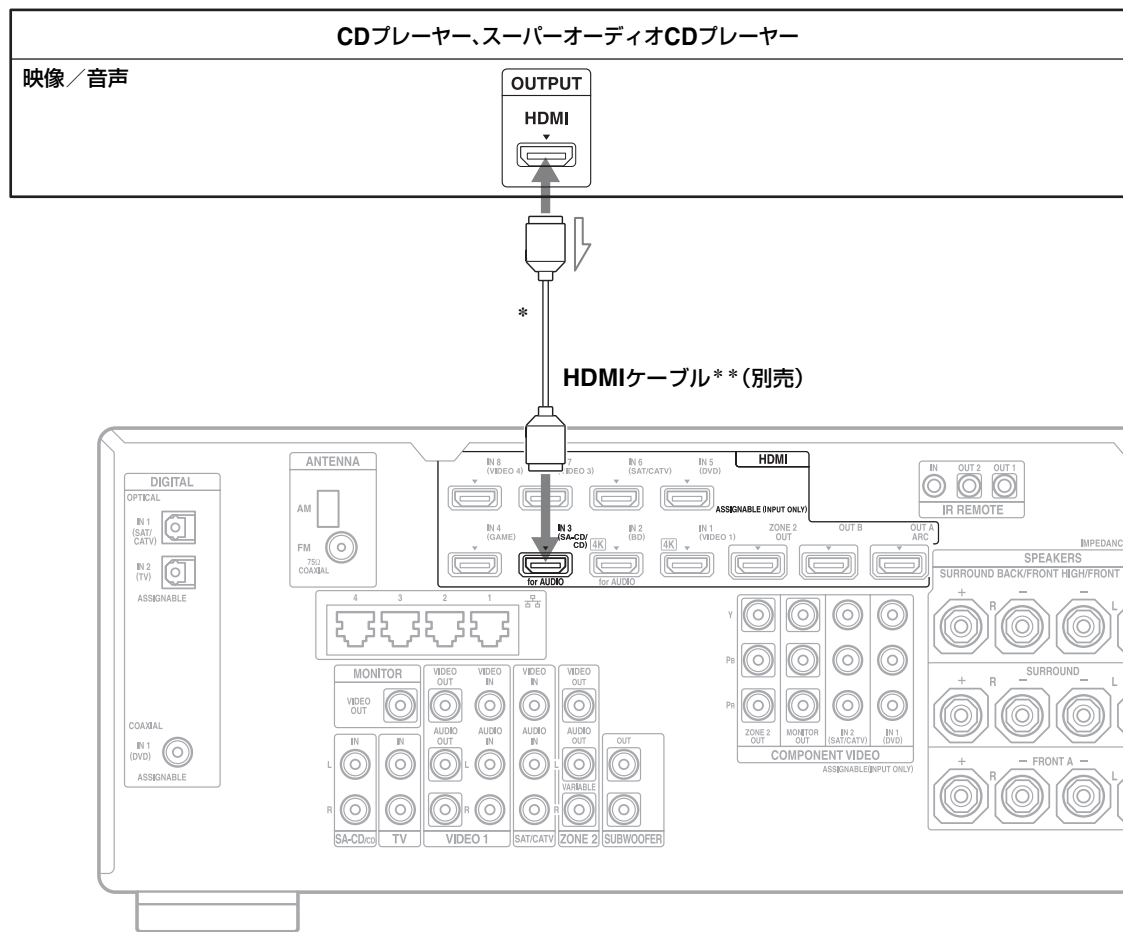
- HDMI-DVI変換ケーブルの使用はおすすめしません。HDMI-DVI変換ケーブルでDVI-D機器をつないだ場合、音声や映像が出力されないことがあります。音声や映像が正しく出力されない場合は、他の種類の音声コードやデジタル接続コードでつなぎ、Input Settingsメニューにある「Video Input Assign」および「Audio Input Assign」の設定を行ってください。

準備 4: オーディオ機器を接続する

スーパーオーディオCDまたはCDを聞きたい

HDMI端子がある機器と接続する

HDMI端子がない機器とつなぐ場合は、32ページをご覧ください。

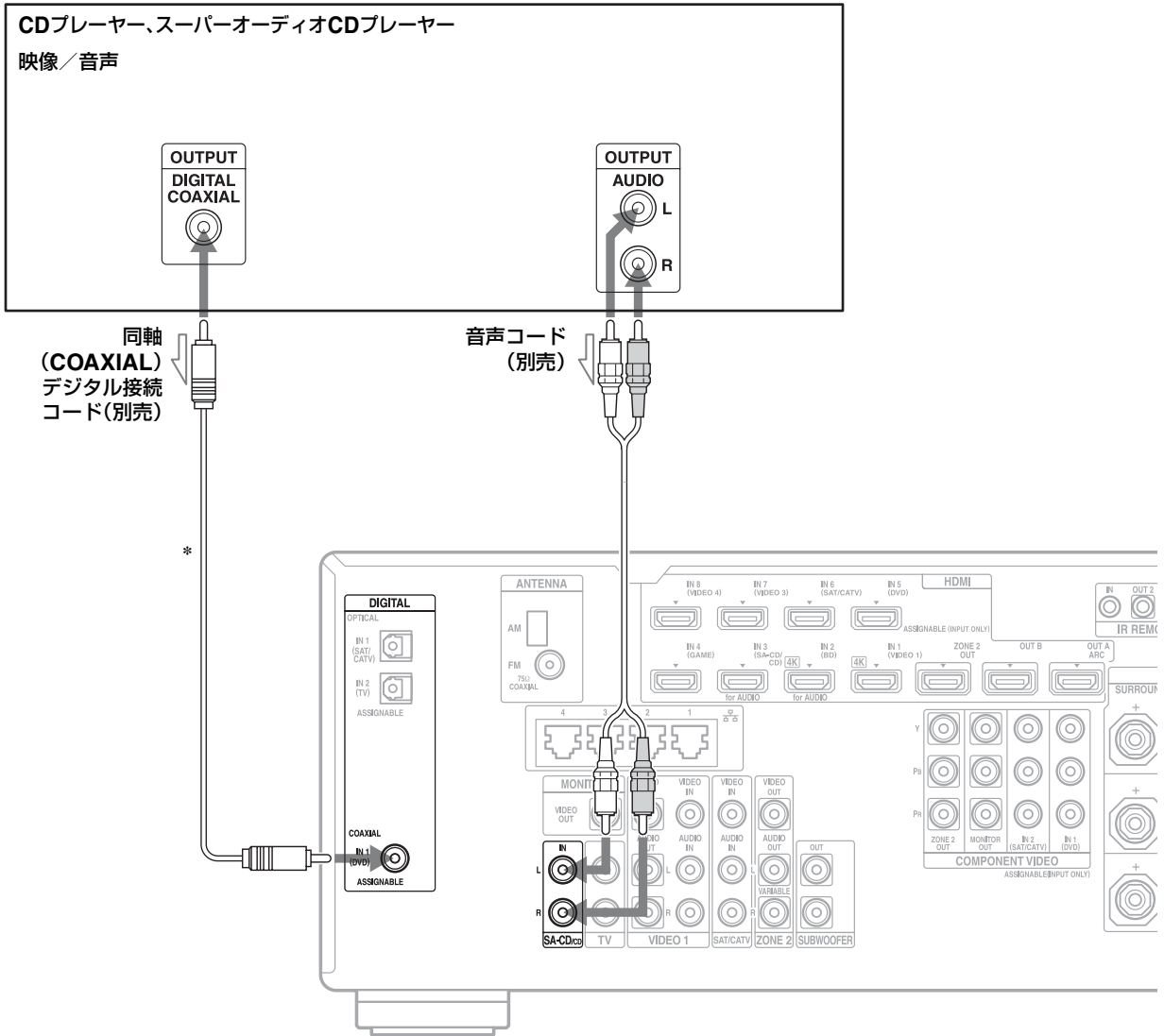


* 本機の HDMI IN 端子には HDMI 出力端子のあるあらゆる機器をつなぐことができます。

** ソニー製の HDMI ケーブルをおすすめします。

HDMI端子がない機器と接続する

すべてのコードをつなぐ必要はありません。お持ちの機種にある端子に合わせてコードをつないでください。



* COAXIAL 端子につなぐときは、Input Settings メニューにある「Audio Input Assign」の設定を行ってください。

スーパーオーディオCDプレーヤーでスーパーオーディオCDを再生するときのご注意

本機のCOAXIAL IN端子につないだスーパーオーディオCDプレーヤーでスーパーオーディオCDを再生しても、音声は出力されません。スーパーオーディオCDのディスクを再生するには、本機のSA-CD/CD IN端子につなぐか、HDMI端子からDSD信号を出力できる機器と本機をHDMIケーブルでつないでください。スーパーオーディオCDプレーヤーの取扱説明書もあわせて参照してください。

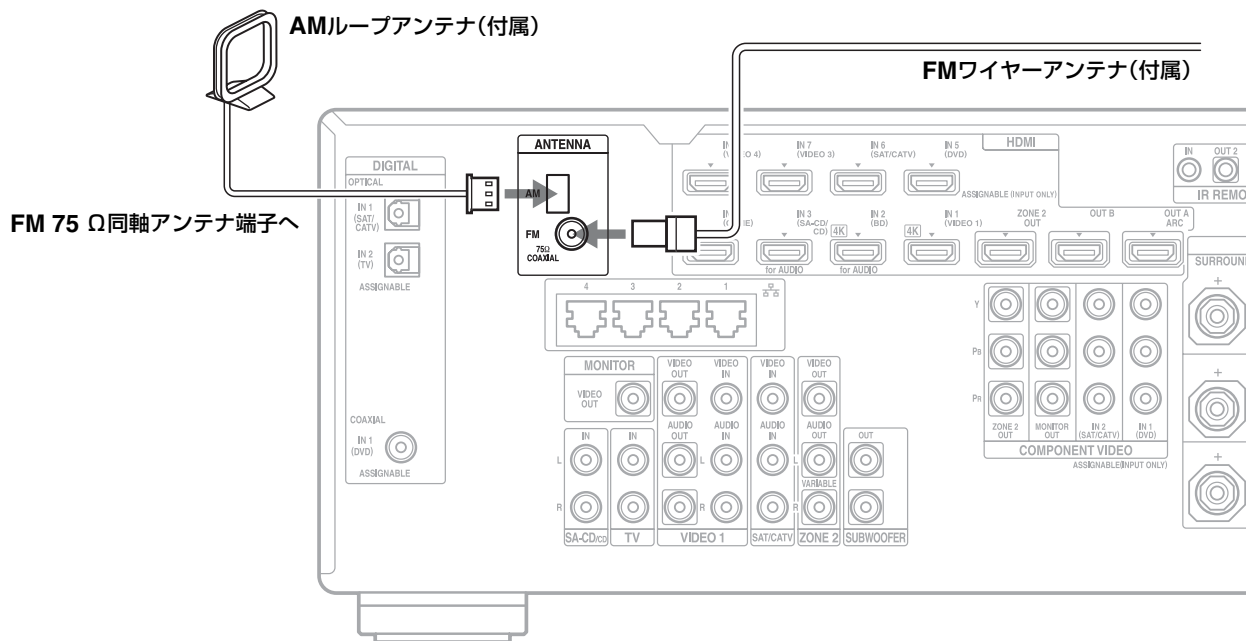
複数のデジタル機器を同時につなぎたいときに、空いている入力端子がない場合は

「他の映像/音声入力端子を使う」(63ページ)をご覧ください。

ちょっと一言

本機のDIGITAL 音声入力端子はすべて、32 kHz、44.1 kHz、48 kHz、88.2 kHz、96 kHzのサンプリング周波数に対応しています。また、COAXIAL IN 端子は192 kHzのサンプリング周波数にも対応しています。

ラジオを聞きたい



ご注意

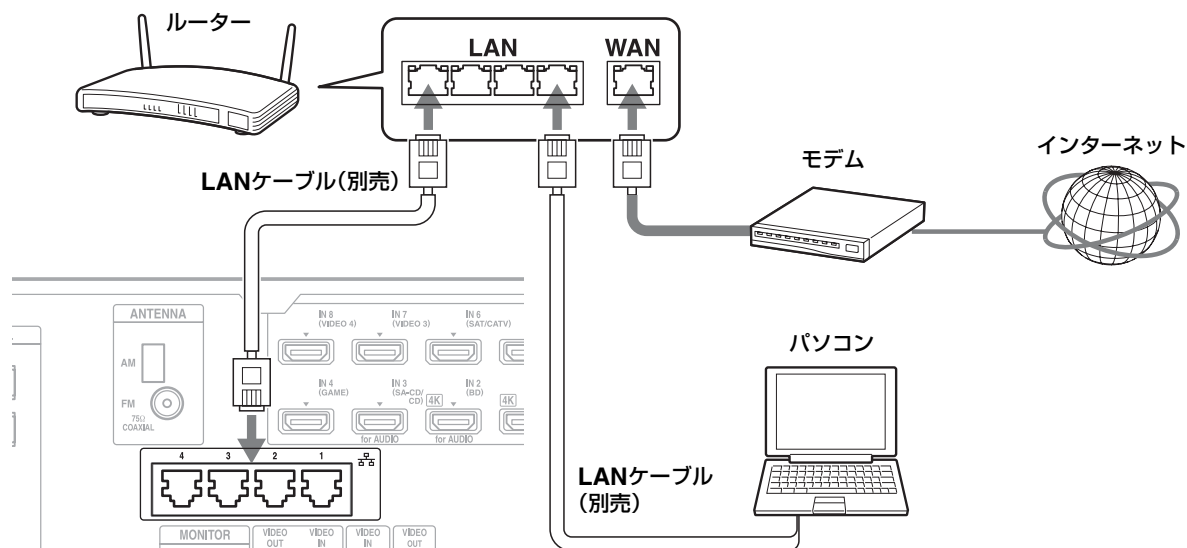
- 雑音の原因になるため、AM ループアンテナは本機や他の AV 機器の近くに置かないでください。FM ワイヤアンテナをつないだ後は、受信状態の良い向きを探してください。
- FM ワイヤアンテナを壁にはるときは、受信状態の良い壁面を探してください。
- FM ワイヤアンテナは束ねたまま使わないでください。
- FM ワイヤアンテナは奥まで確実に差し込んでください。
- FM 放送の受信状態が良くないときは、市販の 75Ω 同軸ケーブルを使って、本機と屋外アンテナをつなぎます。

準備 5: ネットワークに接続する

インターネット接続環境がある場合は、本機も有線LAN経由でインターネットに接続することができます。

接続の例

本機とパソコンで構成したホームネットワークの接続例です。
有線での接続をおすすめします。



必要なシステム構成

本機のネットワーク機能を使うには、以下のシステム環境が必要です。

ブロードバンド回線

インターネットビデオを楽しんだり、本機のソフトウェアアップデート機能を使ったりするためには、インターネットに接続できるブロードバンド回線が必要です。

モデム

ブロードバンド回線に接続し、インターネットで通信するための機器です。ルーターと一体型のモデムもあります。

ルーター

- ネットワーク上のコンテンツを楽しむためには、100 Mbpsの通信速度に対応したルーターをお使いください。
- DHCPサーバー機能内蔵のルーターをおすすめします。DHCPサーバー機能はLAN上のIPアドレスを自動的に割り当てるものです。

- 1 Gbps以上のネットワーク接続には対応していません。

LANケーブル

- カテゴリ 5準拠のLANケーブルをおすすめします。フラットタイプのLANケーブルにはノイズの影響を受けやすいものがあります。ノーマルタイプのLANケーブルをおすすめします。
- 電気機器からの電源ノイズのある環境やノイズの多いネットワーク環境で本機をお使いの場合は、シールドタイプのLANケーブルをお使いください。

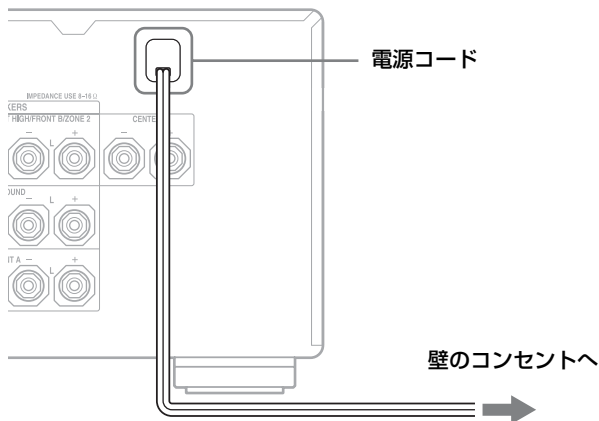
ご注意

ルーターは1本のLANケーブルで本機のポート1から4のいずれか1つにつないでください。同じルーターと本機を2本以上のLANケーブルでつながないでください。故障の原因となります。

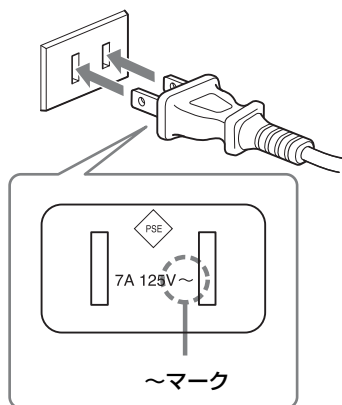
準備 6: 本体とリモコンを準備する

電源コードをつなぐ

電源コードのプラグを壁のコンセントにつなぎます。



電源コードについて

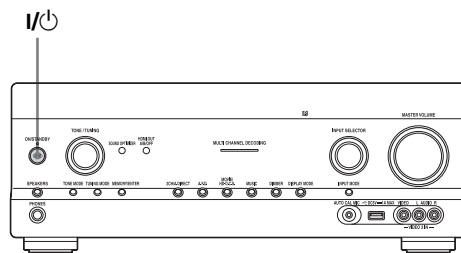


電源コードには、上の図の位置に~マークがあります。壁のコンセントと電源コードの極性を合わせることで、音質向上が期待できます。壁のコンセントの差し込み口に長短がある場合は、~マークのある側を長い穴に差し込んでください。

ご注意

- スタンバイ状態時は天板が熱くなることがあります。これは内部の回路が部分的に通電状態にあるためで、異常ではありません。
- 極端に温度や湿度の高い場所にリモコンを放置しないでください。
- 新しい乾電池と古い乾電池を混ぜて使わないでください。

本機の電源を入れる



I/O ボタンを押して本機の電源を入れる。

リモコンの電源ボタンを押しても本機の電源を入れることができます。

電源を切るときは、もう一度I/Oボタンを押します。表示窓に「STANDBY」が点滅表示されます。点滅中には電源コードを抜かないでください。故障の原因となります。

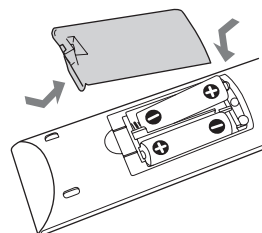
スタンバイ状態にして電力消費を抑えるには

「Control for HDMI」(83ページ) および「Network Standby」(85ページ)を「Off」、「Pass Through」(83ページ)を「Off」または「Auto」に設定し、2ndゾーンの電源を切ります。

「Control for HDMI」(83ページ)、「Pass Through」(83ページ)、「Network Standby」(85ページ)のいずれかを「On」に設定した場合、または2ndゾーンの電源が入っている場合は、本機がスタンバイ状態時にI/Oボタンの上にあるランプがオレンジ色に点灯します。

リモコンに電池を入れる

⊕と⊖の向きを合わせて、リモコンに単3形マンガン乾電池(付属)2個を入れます。



RM-AAP083

- マンガン乾電池と他の種類の乾電池を混ぜて使わないでください。
- 長い間リモコンを使わないときは、液もれや腐食を避けるために乾電池を取り出してください。
- 電池交換時に、リモコンにプログラムした内容が消える場合があります。その場合は、再登録してください(97ページ)。

準備 7: Easy Setup で初期設定を行う

画面の指示にしたがって操作するだけで、簡単に本機の基本的な初期設定を行うことができます。テレビの入力を本機をつないだ入力に切り換えてください。

初めて本機の電源を入れたときは、ソフトウェア使用許諾がテレビ画面に表示されます。ソフトウェア使用許諾に同意してからEasy Setup画面に進み、画面の指示にしたがって本機の設定を行ってください。

Easy Setupでは以下の機能を設定できます。

- Network Settings
- Input Settings
- Speaker Settings (Auto Calibration)

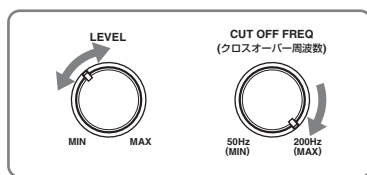
設定を行ったメニューの右には、チェックマークが表示されます。

Speaker Settings (Auto Calibration) についてのご注意

測定用マイクは本機のAUTO CAL MIC端子に確実に奥まで挿し込んでください。

アクティブサブウーファーの設定について

- アクティブサブウーファーをつないでいる場合は、電源を入れて、音量を上げておいてください。音量は、ボリューム (LEVEL) つまみを半分または半分よりやや小さめの位置にしてください。
- クロスオーバー周波数の設定機能がある場合は、最大に設定してください。
- オートオフ設定機能がある場合は、オフ (無効) にしてください。



ご注意

- お使いになるアクティブサブウーファーの特性によっては、距離の設定値が実際の配置よりも遠くなる場合があります。
- Easy Setup から「Speaker Settings (Auto Calibration)」を行うと、現在選ばれているポジションに測定結果が上書きされます (お買い上げ時は「Pos. 1」が選ばれています)。
- SURROUND BACK/FRONT HIGH/FRONT B/ZONE2 端子につないだスピーカーを FRONT B として使用する場合には、Speaker Connection メニューで事前設定が必要です。

2つのアクティブサブウーファーをつなぐときは

環境によってAuto Calibration機能の測定結果を正しく反映できない場合、または微調整をしたい場合は、アクティブサブウーファーを手動で設定できます。詳しくはSpeaker Settingsメニューの「Speaker Setup」(76ページ)をご覧ください。

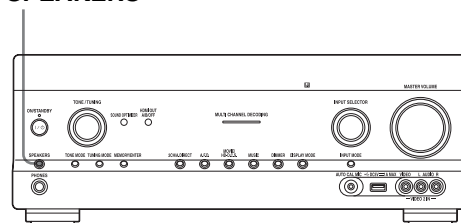
スピーカーインピーダンスについてのご注意

- お使いのスピーカーのインピーダンスが不明のときは、スピーカーの取扱説明書を参照してください (通常、スピーカー後面にインピーダンスが表示されています)。
- FRONT AとSURROUND BACK/FRONT HIGH/FRONT B/ZONE2端子の両方にスピーカーをつなぎ、SURROUND BACK/FRONT HIGH/FRONT B/ZONE2端子につないだスピーカーをFRONT Bとして使う場合は、6Ω以上のスピーカーをつないでください。

フロントスピーカーを選ぶには

使用するフロントスピーカーを選びます。

SPEAKERS



SPEAKERSボタンを、くり返し押しして、使用するフロントスピーカーシステムを選ぶ。

ちょっと一言

- アクティブサブウーファーの位置によって極性の判定が異なる場合があります。測定結果のままお使いいただいても問題ありません。
- スピーカーによっては接続が正しくても「Out Phase」と表示される場合があります。スピーカーの仕様によるもので、そのままお使いいただいても問題ありません。

AまたはBどちらのスピーカー端子が選ばれているか、表示窓で確認することができます。

表示	選ばれるスピーカーシステム
SP A	FRONT A端子につないだスピーカー
SP B	SURROUND BACK/FRONT HIGH/ FRONT B/ZONE 2端子につないだスピーカー
SP AB	FRONT AとSURROUND BACK/ FRONT HIGH/FRONT B/ZONE 2端子 につないだスピーカー（パラレル接続）
	表示窓に「SPEAKERS OFF」と表示されます。 すべてのスピーカー端子から音声が出力されません。

測定を中止するには

以下の操作を行うと測定がキャンセルされます。

- － 電源 切
- － ボリューム操作
- － 入力切り換え
- － SPEAKERSボタン切り換え
- － ヘッドホン接続

測定中は、上記以外の操作を行うことはできません。

本機を手動で設定するには

「設定を変更する」（71ページ）をご覧ください。

準備 8: 接続機器の設定をする

マルチチャンネルデジタル音声を出力するには、デジタル音声設定を確認してください。

ソニー製ブルーレイディスクレコーダーでは、「HDMI音声出力」が「自動」、「ドルビーデジタル」が「ドルビーデジタル」、「DTS」が「DTS」に設定されていることを確認してください。（2012年8月1日現在）

プレイステーション3では、本機をHDMIケーブルで接続してから「サウンド設定」の「音声出力設定」を実行して、「HDMI」「自動」を選んでください。（システムソフトウェア4.21の場合）

詳しくは機器に付属の取扱説明書を参照してください。

準備 9: パソコンをサーバーとして使う準備をする

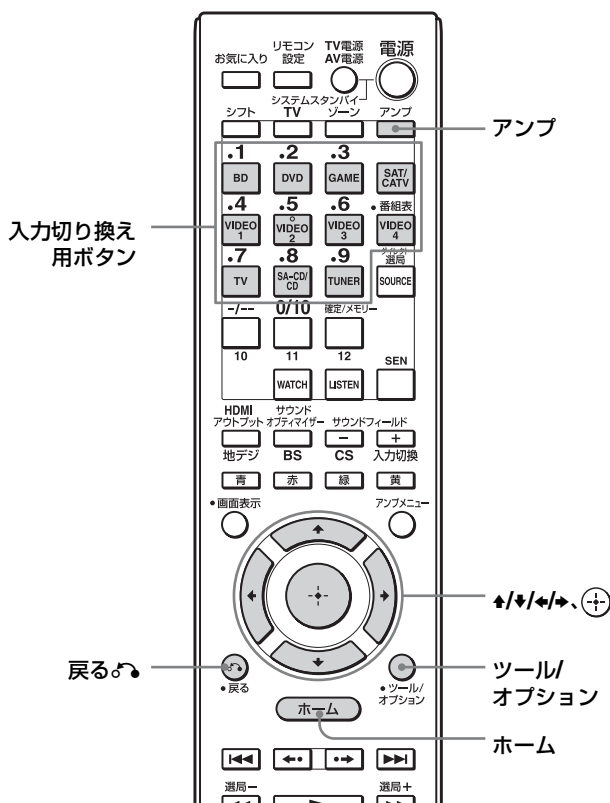
サーバーとは、ホームネットワーク上のDLNA機器にコンテンツ（音楽、写真）を配信する機器です。DLNA対応のサーバー機能を備えたソフトウェア*をパソコンにインストールすると、ホームネットワーク上のパソコンに保存されている音楽や写真を本機からネットワーク経由で再生することができます。

* Windows 7 搭載のパソコンをお使いの場合は、Windows 7 に付属の Windows Media® Player 12 をお使いください。Windows 8 をお使いの場合、新しい UI システムでは本機を認識できないことがあります。その場合は、UI を「Desktop UI」に切り換えてお使いください。

画面操作のしかた

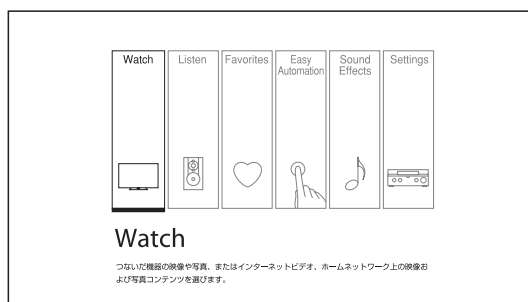
テレビ画面にメニューを表示して、 $\uparrow/\downarrow/\leftarrow/\rightarrow$ と \oplus でお好みの機能を設定できます。

本機を操作する前に、アンプボタンを押し、入力切り換え用ボタンで、操作したい機器を選択してください。アンプボタンを押さないと、操作の対象が本機にならない場合があります。



メニューの使いかた

- 1 テレビの入力を本機をつないだ入力に切り換える。
- 2 アンプボタンを押す。
- 3 ホームボタンを押す。
テレビ画面にホームメニューが表示されます。



4 ⇄ をくり返し押ししてお好みのメニューを選び、⊕を押す。

メニュー項目の一覧が表示されます。

例:「Watch」の場合



前の表示画面に戻るには

戻る⏪ボタンを押します。

メニューを消すには

ホームボタンを押してホームメニューを表示し、もう一度ホームボタンを押します。

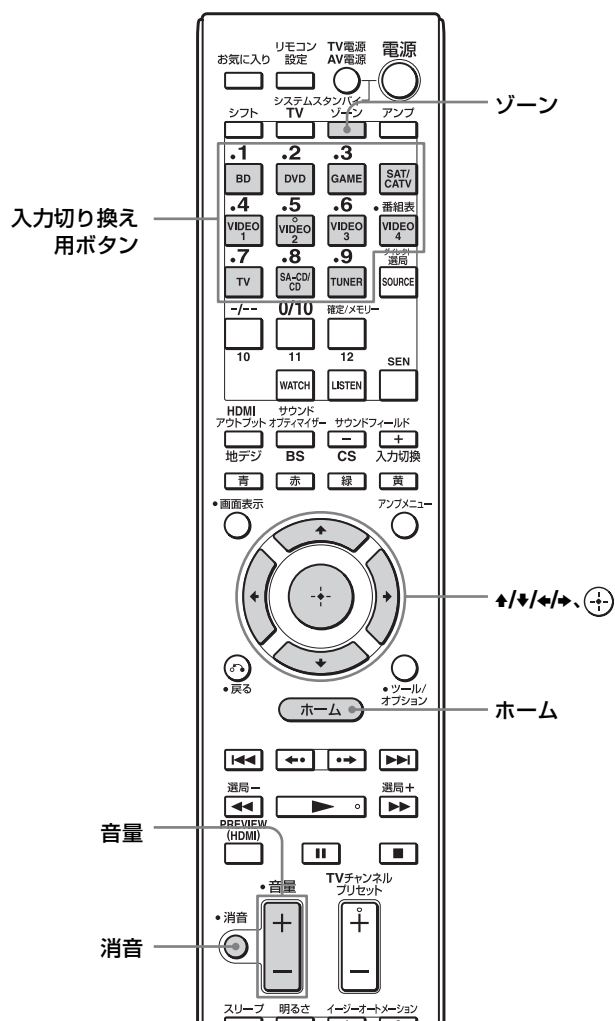
メニュー一覧

メニュー	内容
Watch	本機に入力されている映像、写真ソース、またはUSB経由やホームネットワークの写真コンテンツを選びます (40ページ)。
Listen	本機に入力されている音楽ソース、またはインターネットビデオやホームネットワークの音楽コンテンツを選びます (40ページ)。
Favorites	「お気に入り一覧」に登録されたインターネットコンテンツを表示します。最大18のインターネットコンテンツを登録できます (44ページ)。
Easy Automation	本機のさまざまな設定を一括して保存したり呼び出したりできます (65ページ)。
Sound Effects	ソニー独自のさまざまな音響技術や機能を楽しめます (48ページ)。
Settings	本機の設定を調節できます (71ページ)。

ちょっと一言

画面の右下に「オプション」が表示されたときは、ツール/オプションボタンを押してオプションメニューを表示できます。関連する機能を表示されるファンクションリストから選ぶことができます。

つないだ機器の映像／音声を楽しむ



4 音量+/-ボタンを押して、音量を調節する。

入力ソースを選ぶには

本体のINPUT SELECTORつまみを回すか、リモコンの入力切り換え用ボタンを押して、再生する入力ソースを選びます。

2ndゾーンの入力ソースを選ぶには、リモコンのゾーンボタンを押して、2ndゾーンを選び（表示窓に「ZONE 2 [入力名]」と表示されます。）、その後、入力ソースを選びます。

音を一時的に消すには

リモコンの消音ボタンを押します。解除するには、消音ボタンをもう一度押します。または音量+ボタンを押して音量を上げます。消音中に本体の電源を切ると、消音機能は解除されます。

スピーカーの破損を防ぐために

電源を切る前に音量を最小にしておいてください。

1 ホームメニューから「Watch」または「Listen」を選び、 \odot を押す。

メニュー項目の一覧が表示されます。

2 再生したい機器を選び、 \odot を押す。

3 本機につないだ機器の電源を入れ、再生する。

ちょっと一言

本体の MASTER VOLUME を回す速さ、およびリモコンの音量+/-ボタンを押す時間の長さによって、音声の調節量を変えられます。

- 音量を早く上げ/下げするには
 - 本体の MASTER VOLUME を速く回す。
 - リモコンの音量+/-ボタンを押し続ける。

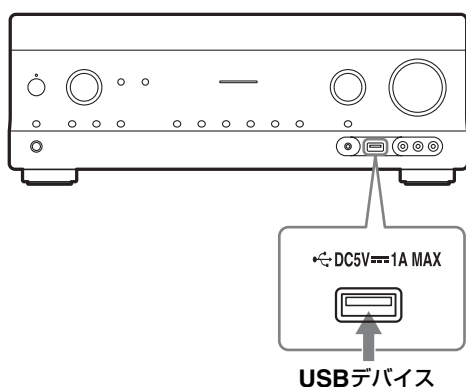
- 音量を微調整するには
 - 本体の MASTER VOLUME をゆっくり回す。
 - リモコンの音量+/-ボタンを短く押す。

USB デバイス／ウォークマン

接続したUSBデバイスの映像／音楽／写真ファイルを再生できます。

再生できるファイルの種類については、「再生可能なファイル (Network/USB)」(17ページ) をご覧ください。

1 本機の (USB) ポートに USB デバイスをつなぐ。



2 ホームメニューから「Watch」または「Listen」を選び、**+**を押す。

3 「My Video」、「My Music」または「My Photo」を選び、**+**を押す。

何も表示されない場合には、「Playback Resolution」(81ページ) の設定を変更してください。

4 「USB 機器(前面)」を選び、**+**を押す。

テレビ画面に映像／音楽／写真ファイルが一覧表示されます。

5 **↑/↓/←/→** と **+** で再生したいファイルを選ぶ。 USBデバイスのコンテンツが本機で再生されます。

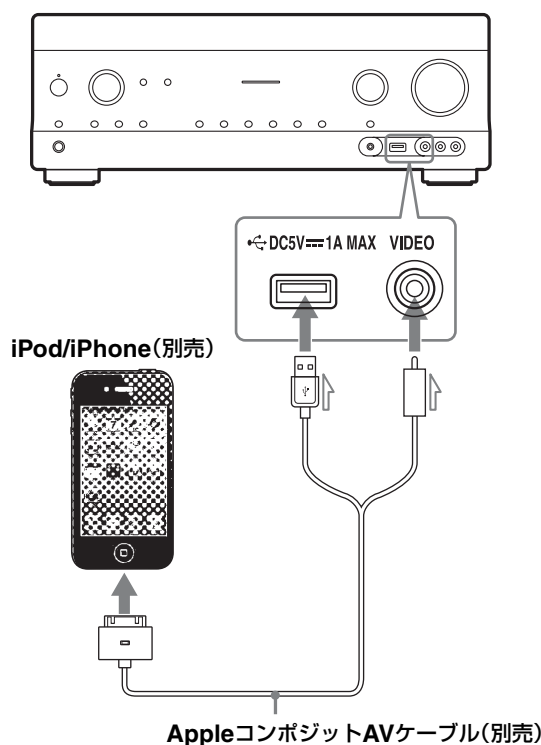
iPod/iPhone

本機でiPod/iPhoneの映像／音楽／写真ファイルを再生したり、iPod/iPhoneを充電したりできます。

この機能に対応するiPod/iPhoneの機種については42ページをご覧ください。

再生時はヘッドホンを使用できません。

1 本機の (USB) ポートに iPod/iPhone をつなぐ。



2 ホームメニューから「Watch」または「Listen」を選び、**+**を押す。

3 「My Video」、「My Music」または「My Photo」を選び、**+**を押す。

何も表示されない場合には、「Playback Resolution」(81ページ) の設定を変更してください。

ご注意

- 操作中に USB デバイスを取りはずさないでください。データが破損するのを避けるために、USB デバイスを取りはずすときは本機の電源を切ってください。
- ウォークマンを本機につないだ場合は、他の USB デバイスをつないだときと同じように本機のリモコンで操作してください。ウォークマンでの操作はできません。

- 本機は、マストレージクラス (MSC) (フラッシュメモリー、HDD など) を認識できます。
- 一部の USB デバイスは本機では動作しないことがあります。

4 「iPod(前面)」を選び、を押す。

テレビ画面に映像／音楽ファイルが一覧表示されます。

「My Photo」で「iPod(前面)」を選んだ場合は、iPod/iPhoneを操作して写真ファイルを選んでください(手順5を行う必要はありません)。

5 ///とで再生したいファイルを選ぶ。

iPod/iPhoneのコンテンツが本機で再生されません。

リモコンを使ってiPod/iPhoneを操作できます(42ページ)。

iPod/iPhoneの操作の詳細については、iPod/iPhoneの取扱説明書を参照してください。

対応iPod/iPhone








対応しているiPod/iPhoneの機種は以下のとおりです。本機につないで使用する前にiPod/iPhoneを最新のソフトウェアにアップデートしてください。

- iPod touch
 - iPod touch (4th generation) /iPod touch (3rd generation) /iPod touch (2nd generation)
- iPod nano
 - iPod nano (6th generation) /iPod nano (5th generation) (ビデオカメラ) /iPod nano (4th generation) (ビデオ) /iPod nano (3rd generation) (ビデオ)
- iPod
 - iPod classic
- iPhone
 - iPhone 4S/iPhone 4/iPhone 3GS/iPhone 3G








リモコンでiPod/iPhoneを操作するには

iPod/iPhoneをリモコンのボタンで操作できます。以下の表は使用できるボタンの例を示しています。(iPod/iPhoneの機種によっては、操作が異なることがあります。)

「My Video」／「My Music」

ボタン	操作
	再生開始
	再生一時停止
	再生停止
 または 	早戻し、早送り
 または 	前／後のファイルまたはチャプターに移動

「My Photo」

ボタン	操作
 、 	再生開始／一時停止
	再生一時停止
 または 	早戻し、早送り
 または 	前／後のファイルに移動

ご注意

- 本機からiPod/iPhoneに曲を転送することはできません。
- 本機につないだiPod/iPhoneを使用中にiPod/iPhoneに保存されたデータが消失、破損しても、弊社では一切の責任を負いません。
- 本製品はiPod/iPhone専用で接続するよう設計され、アップルが定める性能基準を満たしているとデベロッパによって認定されています。
- 操作中にiPod/iPhoneを取りはずさないでください。データが破損するのを避けるために、iPod/iPhoneを接続または取りはずすときは本機の電源を切ってください。

- 映像出力に対応していないiPodをつないで「My Video」または「My Photo」で「iPod(前面)」を選ぶと、警告メッセージがテレビ画面に表示されます。

ちょっと一言

- 本機の電源が入っている間、本機につないだiPod/iPhoneは充電されます。
- 本機は3,000ファイル(フォルダー含む)まで認識できます。

ホームネットワーク (DLNA)

本機でホームネットワークに接続した他のDLNA認定デバイスの音楽／写真ファイルを再生できます。

本機はプレーヤーおよびレンダラーとして働きます。

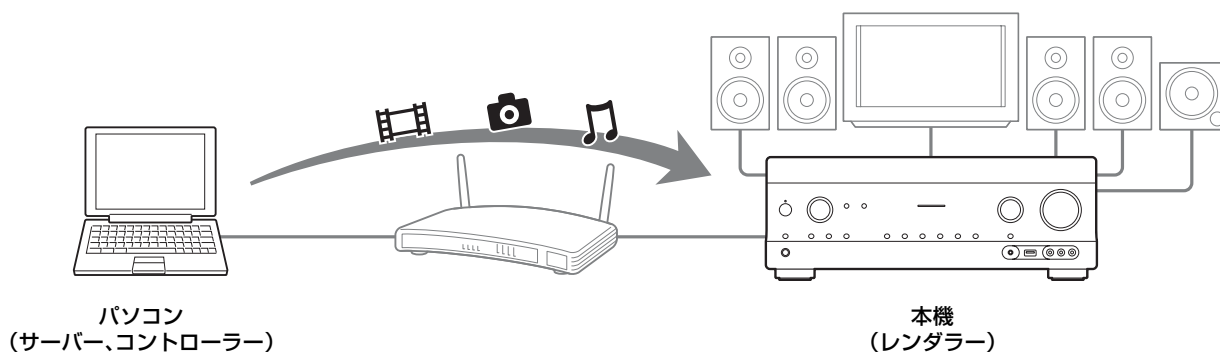
- サーバー：ファイルを保存、配信します。
- プレーヤー：サーバーからファイルを受信、再生します。
- レンダラー：サーバーからファイルを受信、再生します。また、他のデバイス（コントローラー）で操作することができます。
- コントローラー：レンダラー機器を操作します。

DLNA機能を使うための準備

- 本機をホームネットワークに接続してください（34ページ）。
- 他のDLNA認定機器を準備してください。詳しくは、機器の取扱説明書を参照してください。

DLNAコントローラーで本機(レンダラー)を操作してファイルを再生するには

DLNAサーバーに保存されているファイルの再生時に、本機をDLNA認定のコントローラー（Windows Media® Player 12など）で操作できます。



本機をDLNAコントローラーで操作してください。操作について詳しくは、DLNAコントローラーの取扱説明書を参照してください。

1 ホームメニューから「Watch」または「Listen」を選び、**+**を押す。

2 「My Music」または「My Photo」を選び、**+**を押す。

何も表示されない場合には、「Playback Resolution」（81ページ）の設定を変更してください。

3 DLNA サーバーアイコンを選び、**+**を押す。テレビ画面にフォルダーおよび音楽／写真ファイルが一覧表示されます。

4 **↑/↓/←/→**と**+**で再生したいファイルを選ぶ。DLNA機器のコンテンツが本機で再生されます。

ご注意

- コントローラーおよび付属のリモコンから同時に本機を操作しないでください。

ちょっと一言

本機は Windows 7 に標準装備されている Windows Media® Player 12 の「Play To」機能に対応しています。

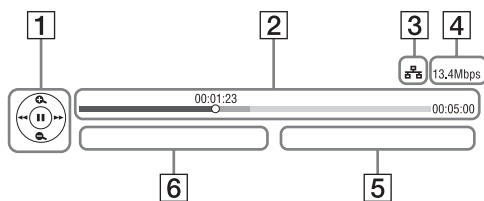
インターネットビデオ

本機でインターネット上のさまざまなコンテンツを再生できます。

- 1 本機をネットワークに接続する(34 ページ)。
- 2 ホームメニューから「Watch」または「Listen」を選び、**+**を押す。
- 3 「Internet Video」または「Internet Music」を選び、**+**を押す。
インターネットコンテンツ画面が表示されます。何も表示されない場合には、「Playback Resolution」(81ページ)の設定を変更してください。
- 4 インターネットコンテンツプロバイダーを選び、**+**を押す。
インターネットコンテンツの一覧が取得されていない場合は、未取得アイコンまたは新アイコンで表示されます。

コントロールパネルを使うには

映像ファイルの再生開始時にコントロールパネルが表示されます。インターネットコンテンツプロバイダーによって、表示される項目は異なります。コントロールパネルを再表示するには、画面表示ボタンを押します。



- 1 操作ディスプレイ
▶/⏮/⏪/⏩/▶と**+**を押して再生操作を行います。
- 2 再生ステータスバー
ステータスバー、再生中の位置表示、再生経過時間、映像ファイルの収録時間
- 3 ネットワーク状況表示
- 4 ネットワーク接続速度

ご注意

インターネットコンテンツは、予告なしに中止または変更になることがあります。

- 5 次の映像ファイル名
- 6 再生中の映像ファイル名

お気に入りのコンテンツを登録する

「お気に入り一覧」にお気に入りのインターネットコンテンツを登録できます。

- 1 インターネットコンテンツ画面を表示する。
- 2 「お気に入り一覧」に登録したいインターネットプロバイダーアイコンを選び、ツール/オプションボタンを押す。
- 3 「お気に入りに登録」を選び、**+**を押す。

お気に入り一覧からコンテンツを削除するには

- 1 お気に入りボタンを押す。
「お気に入り一覧」が表示されます。
- 2 「お気に入り一覧」から削除したいインターネットプロバイダーアイコンを選び、ツール/オプションボタンを押す。
- 3 「お気に入りから消去」を選び、**+**を押す。

オプション一覧

項目	詳細
お気に入り一覧	「お気に入り一覧」を表示します。
お気に入りに登録	インターネットコンテンツを「お気に入り一覧」に追加します。
お気に入りから消去	インターネットコンテンツを「お気に入り一覧」から削除します。
IPコンテンツノイズリダクション	インターネットコンテンツの画質を調整します。

FM/AM ラジオ

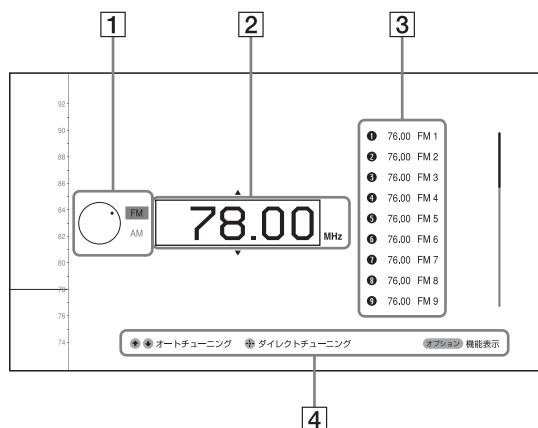
内蔵のチューナーで、FM/AMラジオ放送を聞くことができます。操作を始める前に、本機にFM/AMアンテナが接続されていることを確認してください。

1 ホームメニューから「Listen」を選び、**+**を押す。

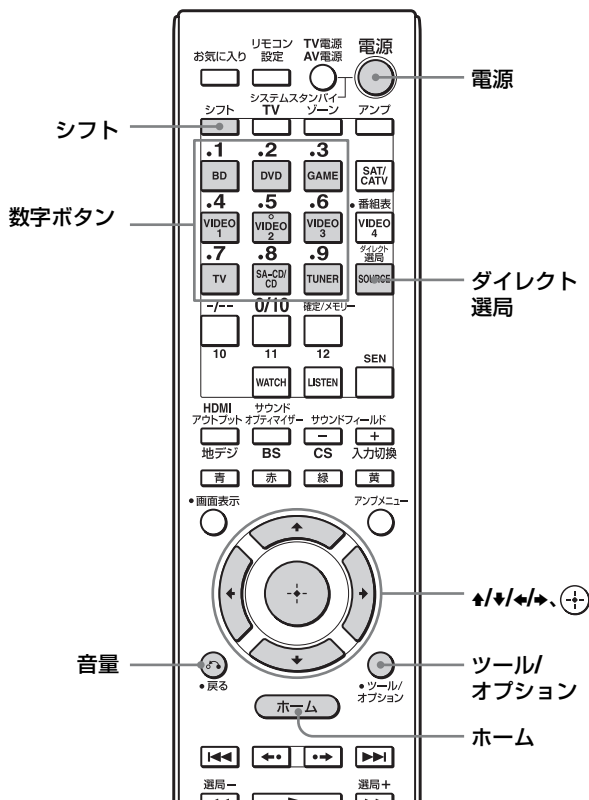
2 「FM/AM」を選び、**+**を押す。

FM/AM画面

↑/↓/←/→と**+**を押して、画面上の項目を選び、操作します。



- 1 バンド切り替えスイッチ
- 2 周波数表示 (46ページ)
- 3 登録放送局一覧 (46ページ)
- 4 登録放送局名 (47ページ)



FM/AMバンドを切り換える

1 ホームメニューから「Listen」を選び、**+**を押す。

2 「FM/AM」を選び、**+**を押す。
FM/AM画面が表示されます。

3 バンド切り替えスイッチを選ぶ。

4 ↑/↓を押して、「FM」または「AM」を選び、**+**を押す。

自動で放送局を受信する（オート選局）

1 FM/AM画面で、周波数表示を選ぶ。

2 ↑/↓を押す。

↑を押すと低い周波数から高い周波数に、↓を押すと高い周波数から低い周波数に放送局を探します。放送局を受信すると、選局が自動的に止まります。

FM放送の受信状態が良くないときには

FM放送の受信状態が良くないときは、モノラル受信を選びます。ステレオ受信ではありませんが、聞きやすくなります。

- 1 オート選局、ダイレクト選局、または登録された放送局の中から、聞きたい放送局を受信する。
- 2 ツール/オプションボタンを押す。
オプションメニューが表示されます。
- 3 「FMモード」を選び、**+**を押す。
- 4 「モノラル」を選び、**+**を押す。

周波数で受信する（ダイレクト選局）

リモコンの数字ボタンで聞きたい放送局の周波数を入力して、放送局を受信できます。

- 1 シフト押し、FM/AM 画面でダイレクト選局ボタンを押す。
- 2 数字ボタンで受信したい放送局の周波数を入力し、**+**を押す。
例1：「FM 88.0MHz」を選局するときは、
次のように数字ボタンを押します。
8 → 8 → 0
例2：「AM 1,350kHz」を選局するときは、
次のように数字ボタンを押します。
1 → 3 → 5 → 0

放送局を受信できないときは

「---.---MHz」または「---kHz」が表示され、現在の周波数表示に戻ります。

正しい周波数が入力されているか確認してください。
正しい周波数が入力されていない場合は、手順2をやり直してください。それでも放送局を受信できない場合は、入力した周波数が使われていない可能性があります。

ご注意

ツール/オプションボタンを押して「FMモード」、「プリセットメモリー」、「局名変更」を選べるのは、主に「周波数表示」が選択されている場合などです。

放送局を登録する（プリセット）

FM局を30局、AM局を30局まで登録できます。よく聞く放送局は登録しておく便利です。

- 1 オート選局、またはダイレクト選局で、登録したい放送局を受信する。
FM放送局の受信状態が悪い場合は、モノラルに切り替えてください。
- 2 ツール/オプションボタンを押す。
オプションメニューが表示されます。
- 3 「プリセットメモリー」を選び、**+**を押す。
- 4 お好みの番号を選び、**+**を押す。
選択したプリセット番号で、放送局が登録されません。
- 5 手順1から4を繰り返し、他の放送局も登録する。
放送局は以下の名前で登録できます。
 - FM: FM1～FM30
 - AM: AM1～AM30選択したプリセット番号で、放送局が登録されません。

登録した放送局を聞く

- 1 ホームメニューから「Listen」を選び、**+**を押す。
- 2 「FM/AM」を選び、**+**を押す。
FM/AM画面が表示されます。
- 3 登録放送局一覧から、プリセット番号を選び、**+**を押す。
1～30までのプリセット番号が選べます。

ちょっと一言

AM放送選局時は、AM放送が最適な受信状態になるように、AMループアンテナの方向を調整してください。

登録した放送局に名前をつけるには

- 1 名前を変更したい放送局のプリセット番号を選ぶ。
- 2 ツール/オプションボタンを押す。
オプションメニューが表示されます。
- 3 「局名変更」を選び、 \oplus を押す。
ソフトキーボードが表示されます。
- 4 $\blacktriangleleft/\blacktriangleright/\blacktriangleleft/\blacktriangleright$ と \oplus を押して、一文字ずつ名前を入力する。
- 5 「Enter」を選び、 \oplus を押す。
入力した名前が登録されます。

名前の入力をキャンセルするには

戻るまたはホームを押します。

オプションメニューについて

メニュー項目	詳細
FMモード	FM放送受信をモノラルまたはステレオに設定します。
プリセット メモリー	放送局を指定したプリセット番号に登録します。
局名変更	登録した放送局に名前を付けます。

サウンドフィールドを選ぶ

- 1 ホームメニューで「Sound Effects」を選び、**+**を押す。
- 2 「Sound Field」を選んで、**+**を押す。
- 3 お好みのサウンドフィールドを選ぶ。

2チャンネル音声で再生する

音楽ソフトの記録フォーマットやつないだ再生機器、サウンドフィールドなどに関係なく、2チャンネル音声出力に切り換えられます。

2チャンネルモード	効果
2ch Stereo	フロントL/Rの2本のスピーカーのみから音を出します。アクティブサブウーファーからは音が出ません。 標準的な2チャンネルステレオ音声は、サウンドフィールドの回路を通さずに再生します。マルチチャンネル音声は、2チャンネルにダウンミックスして再生します。
2ch Analog Direct	選んでいる入力の音声を、2チャンネルのアナログ入力に切り換えます。高品質のアナログ音声を楽しむことができます。 この機能を使っているときは、音量とフロントスピーカーのバランスのみ調節できます。

ヘッドホンで聞いている場合には

サウンドフィールド	効果
Headphone (2ch)	「2ch Analog Direct」以外のモードでヘッドホンを使用すると自動的に選ばれます。通常の2チャンネルステレオ音源は一切サウンドフィールドの処理を行わず、マルチチャンネルのサラウンド音声は2チャンネルにダウンミックスして出力されます。
Headphone (Direct)	音色、サウンドフィールドなどの処理を行わずに、アナログ音声を出力します。 「2ch Analog Direct」モードでヘッドホンを使用すると、自動的に選ばれます。

マルチチャンネルサラウンドで再生する

A.F.D. (オートフォーマットダイレクト) モードを使って、録音またはエンコードされたままのソフトの音を再現します。また、2チャンネルステレオ音声、またはモノラル音声をマルチチャンネルで聞くためのデコードモードを選ぶことができます。

A.F.D.モード	効果
A.F.D. Auto	サラウンド効果なしで録音またはエンコードされたままの音声として処理します。
Multi Stereo	2チャンネルまたはモノラルの信号に対し、L/R成分をすべてのスピーカーから出力します。

ちょっと一言

通常は「A.F.D. Auto」の使用をおすすめします。

映画用のサラウンド効果を楽しむ

本機にあらかじめ設定されているサウンドフィールドを選ぶだけで、簡単にサラウンド効果を楽しめます。ご自分の部屋で、映画館の臨場感を再現できます。

サウンドフィールド	効果
HD-D.C.S.	HD Digital Cinema Sound (HD-D.C.S.) は、マスタリングスタジオの緻密な計測データに基づき、ソニーが最新の音響およびデジタル信号処理技術を用いて新たに開発した劇場音響再現技術です。HD-D.C.S.によって、ご自宅でブルーレイディスクやDVDの映画ソフトの高音質に加えて、マスタリング時にエンジニアが意図した最良の音場も楽しむことができます。HD-D.C.S.のエフェクトタイプを選ぶこともできます。詳しくは下記「HD-D.C.S.のエフェクトタイプについて」をご覧ください。
PLII Movie	ドルビープロロジックIIのムービーモード処理を行います。ドルビーサラウンド・エンコードされた映画音声の再生に適しています。また、吹き替え版や古い映画のビデオなども5.1チャンネルで再生できます。
PLIIx Movie	ドルビープロロジックIIxのムービーモード処理を行います。2チャンネルまたは5.1チャンネルの音源を7.1チャンネルにデコードします。ドルビーサラウンド・エンコードされた映画音声の再生に適しています。また、吹き替え版や古い映画のビデオなども7.1チャンネルで再生できます。
PLIIz Height	ドルビープロロジックIIzの処理を行います。音源に垂直方向の成分を加えた最大7.1チャンネルに拡張し、立体感と奥行きを表現できます。「PLIIz Height」は、50ページ記載のサウンドフィールドと同一のモードです。「PLIIz Height」のゲインレベルを調整することもできます。詳しくは「PLIIz Heightのゲインレベルについて」(50ページ)をご覧ください。
Neo:6 Cinema	DTS Neo:6のシネマモード処理を行います。2チャンネルの音源を最大7チャンネルに拡張します。

HD-D.C.S.のエフェクトタイプについて

HD-D.C.S.には異なる3種類のタイプ（「Dynamic」、
「Theater」、
「Studio」）があります。各タイプは反響音と残響音の異なるミックスレベルが設定されており、鑑賞者の部屋の特性や好み、雰囲気に合わせて最適な調節をすることができます。

■ Dynamic

残響は多い反面、広い音場感の乏しい環境（音が十分に吸収されていない環境）向けです。反射音を強調し、大型で古いタイプの映画館を再現します。どのような環境でもダビングスタジオのような広さを強調し、独特の音場感を作り出します。

■ Theater

お買い上げ時の設定。一般のリビング向けです。映画館（ダビングシアター）の残響量を再現します。Blu-ray Discを映画館の雰囲気で鑑賞するのに最適なタイプです。

■ Studio

適切に調整されたリスニングルーム向けです。劇場用音源をブルーレイディスク用として家庭に適した音量にリミックスする際の残響感を再現します。反射、残響は特に意識しないレベルになっていますが、セリフやサラウンド効果が生き生きと再生されます。

音楽用のサラウンド効果を楽しむ

本機にあらかじめ設定されているサウンドフィールドを選ぶだけで、簡単にサラウンド効果を楽しめます。ご自分の部屋で、コンサートホールの臨場感を再現できます。

サウンドフィールド	効果
Berlin Philharmonic Hall	ベルリンフィルハーモニックホールの音響特性を再現します。また、インターネットサービス「ベルリンフィルデジタルコンサートホール」の受信と連動して自動的に働きます。
Concertgebouw Amsterdam	オランダ アムステルダムコンサートホールの音響特性を再現します。反射によって作られる大きなサウンドステージが特徴的です。
Musikverein Vienna	オーストリア ウィーンコンサートホールの音響特性を再現します。ホールの残響が特徴的です。
Jazz Club	ジャズクラブの音響を再現します。
Live Concert	300席あるライブハウスの音響を再現します。
Stadium	屋外のスタジアムの雰囲気再現します。
Sports	スポーツ中継放送の雰囲気再現します。
Portable Audio	ポータブルオーディオ機器から、よりクリアな音響を再現します。MP3やその他の圧縮された音源に適しています。
PLII Music	ドルビープロロジックIIのミュージックモード処理を行います。CDなど通常のステレオ音源に適しています。
PLIIx Music	ドルビープロロジックIIxのミュージックモード処理を行います。CDなど通常のステレオ音源に適しています。
PLIIz Height	ドルビープロロジックIIzの処理を行います。音源に垂直方向の成分を加えた最大7.1チャンネルに拡張し、立体感と奥行きを表現できます。「PLIIz Height」は、49ページ記載のサウンドフィールドと同一のモードです。「PLIIz Height」のゲインレベルを調整することもできます。詳しくは下記「PLIIz Heightのゲインレベルについて」をご覧ください。
Neo:6 Music	DTS Neo:6のミュージックモード処理を行います。2チャンネルの音源を最大7チャンネルに拡張します。

PLIIz Heightのゲインレベルについて

PLIIz Heightモード（映画用／音楽用共通）用フロントハイチャンネルのゲインレベルを調節することができます。

■ Low

ゲインレベルを±0 dBにします。

■ Mid

ゲインレベルを+3 dBにします（初期設定）。

■ High

ゲインレベルを+5 dBにします。

サウンドフィールドについてのご注意

- USBデバイス、ホームネットワーク、インターネットビデオのコンテンツを再生している場合は、「2ch Analog Direct」は選べません。
- 「Multi Stereo」は、マルチチャンネル音声信号が入力されている場合は機能しません。
- 映画用および音楽用のサウンドフィールドは、選んでいる入力やスピーカーパターン、音声フォーマットによっては働かないことがあります。
- 音声フォーマットによっては、本機はもとのサンプリング周波数よりも低いサンプリング周波数で再生することがあります。
- 選んでいるスピーカーパターンによっては、「PLIIx Movie/Music」および「PLIIz Height」は表示されません。
- サウンドフィールドの設定によっては、一部のスピーカーやアクティブサブウーファーから音が出力されないことがあります。
- 選んだサウンドフィールドによっては、音源のノイズが目立つことがあります。

Sound Optimizer 機能を使う

Sound Optimizer (サウンドオプティマイザー) は、音量にかかわらず臨場感や躍動感を大きな音量の場合と同等にする機能です。夜間などに、小さな音量でもクリアでダイナミックな音を楽しめます。

Auto Calibration機能を実行後、環境に最適な効果に調整されます。

- 1 ホームメニューから「Settings」を選び、**+**を押す。
- 2 「Audio Settings」を選び、**+**を押す。
- 3 「Sound Optimizer」を選び、**+**を押す。
- 4 「Normal」または「Low」を選び、**+**を押す。
Sound Optimizer機能が働きます。
映画のレベルを基準に調整するには「Normal」を、CDなど平均音圧を高めに加工作されたソフト用に調整する場合は「Low」を選びます。
リモコンのサウンドオプティマイザーボタンでもSound Optimizer機能を「Normal」、「Low」または「Off」に設定できます。

ご注意

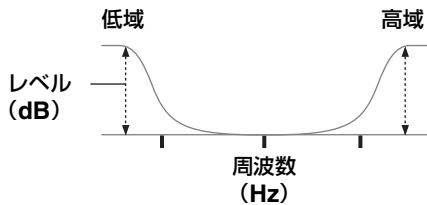
- Sound Optimizer 機能は以下の場合、動きません。
 - 「2ch Analog Direct」を使用している。
 - ヘッドホンを使用している。
- Sound Optimizer 機能を使用時、音声フォーマットによっては、本機はもとのサンプリング周波数よりも低いサンプリング周波数で再生することがあります。

ちょっと一言

イコライザーですべてのスピーカーを一度に調整する機能を使用することで、Sound Optimizer の微調整ができます。

イコライザーを調整する

下記のパラメーターを使って、各スピーカー（フロント、センター、サラウンド／サラウンドバック、フロントハイ）の音質（低域／高域のレベル）を調節できます。



- 1 ホームメニューから「Settings」を選び、**+**を押す。
- 2 「Audio Settings」を選び、**+**を押す。
- 3 「Equalizer」を選び、**+**を押す。
- 4 「Front」、「Center」、「SUR/SB」、「Front High」のいずれかを選び、**+**を押す。
- 5 「Bass」または「Treble」を選ぶ。
- 6 ゲインを調節し、**+**を押す。

すべてのスピーカーを一度に調整するには

すべてのスピーカーの音質（Bass/Treble）を一度に調整することができます。

- 1 ホームメニューから「Settings」を選び、**+**を押す。
- 2 「Audio Settings」を選び、**+**を押す。
- 3 「Equalizer」を選び、**+**を押す。
- 4 「All」を選び、**+**を押す。
- 5 「Bass」または「Treble」を選ぶ。
- 6 ゲインを調節し、**+**を押す。

ご注意

- 以下の場合、イコライザーは調節できません
 - 「2ch Analog Direct」を使用している。
- Bass/Treble の周波数は設定にかかわらず固定しています。
- 各チャンネルのイコライザー設定値によっては、実際に設定される値がより小さい（大きい）値に制限されることがあります。
- 音声フォーマットによっては、もとのサンプリング周波数よりも低いサンプリング周波数で再生されることがあります。

マルチゾーン機能でできること

本機を設置した場所（メインゾーン）とは別の場所で、本機につないだ機器の映像や音声を楽しむことができます。例えば、リビング（メインゾーン）でブルーレイディスクを見て、寝室（2ndゾーン）でDVDレコーダーに録画したテレビ番組を見ることができます。

IRリピーター（別売）を使うと、2ndゾーンから、メインゾーンにある機器と2ndゾーンにあるソニー製のアンプの両方をリモコンで操作することができます。リモコンの信号が届かない場所に本機を設置している場合は、IRリピーターをお使いください。

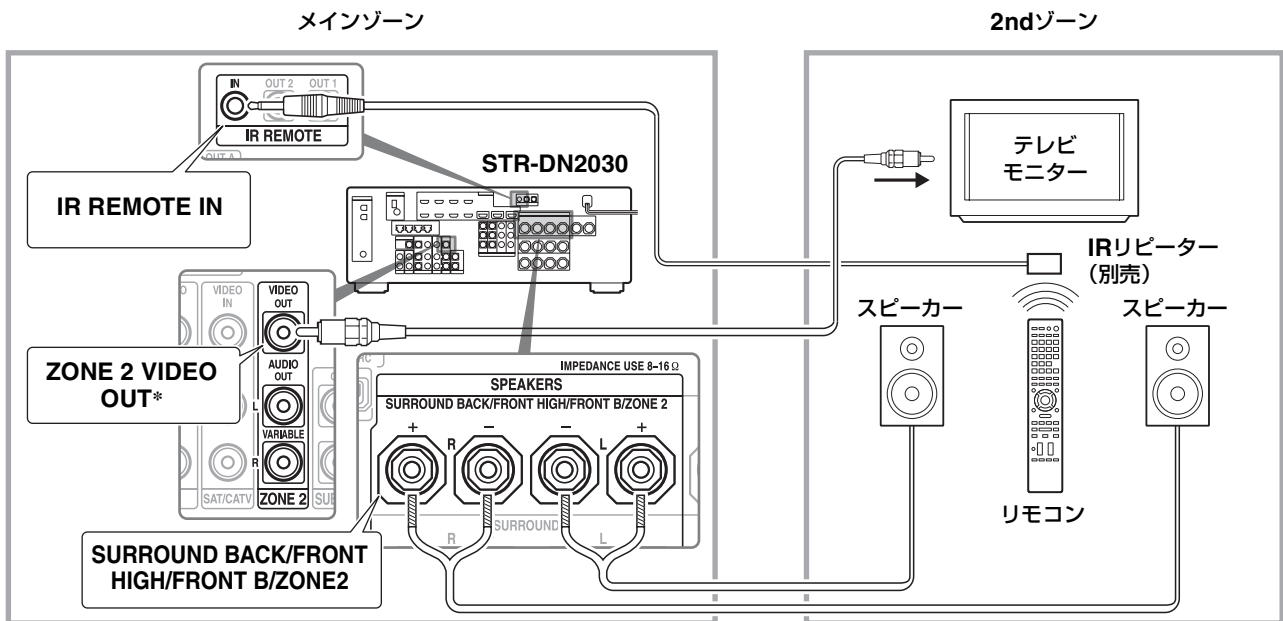
マルチゾーン接続をする

2ndゾーンに出力するには

COMPONENT VIDEO ZONE 2 OUTまたはZONE 2 VIDEO/AUDIO OUTからは、本機のアナログ入力端子につないだ機器の信号のみ出力され、HDMI IN端子からのHDMI信号は出力することができません。HDMI信号を出力するには、HDMI ZONE 2 OUT端子をお使いください。

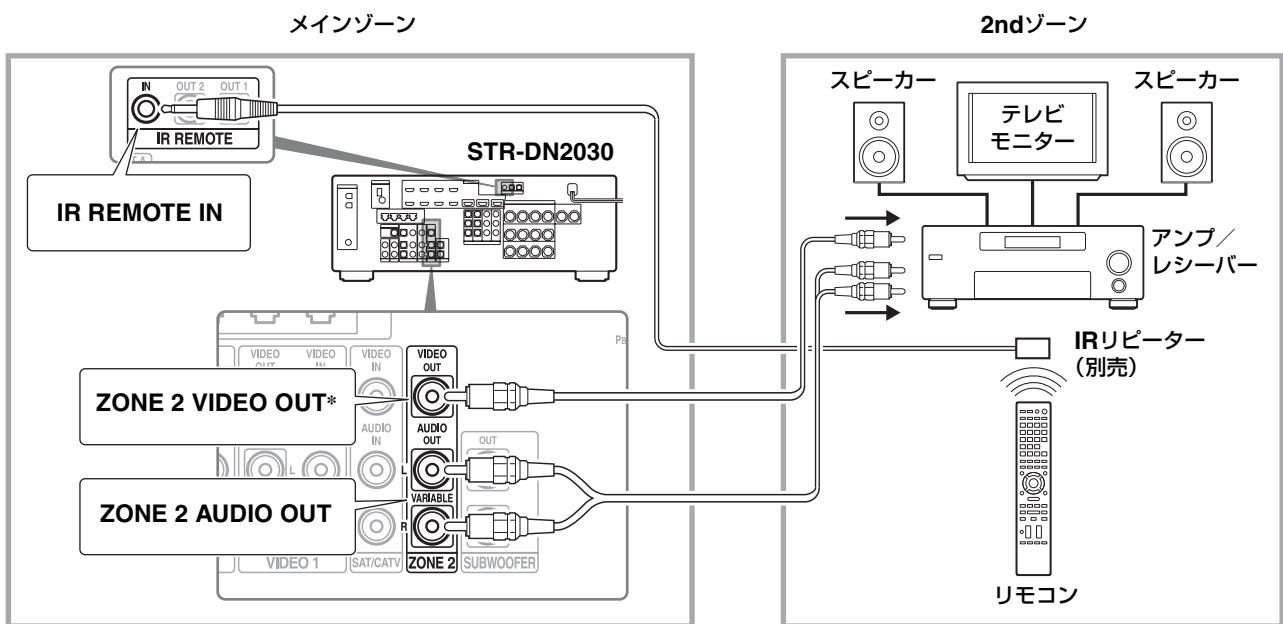
2ndゾーンの接続

- ① 本機のSURROUND BACK/FRONT HIGH/FRONT B/ZONE2端子を使用して、2ndゾーンにあるスピーカーから音声を出力するには



- ② 本機と、もう一台のアンプを使用して、2ndゾーンにあるスピーカーから音声を出力するには

2ndゾーンのスピーカーの設定が必要です (56ページ)。

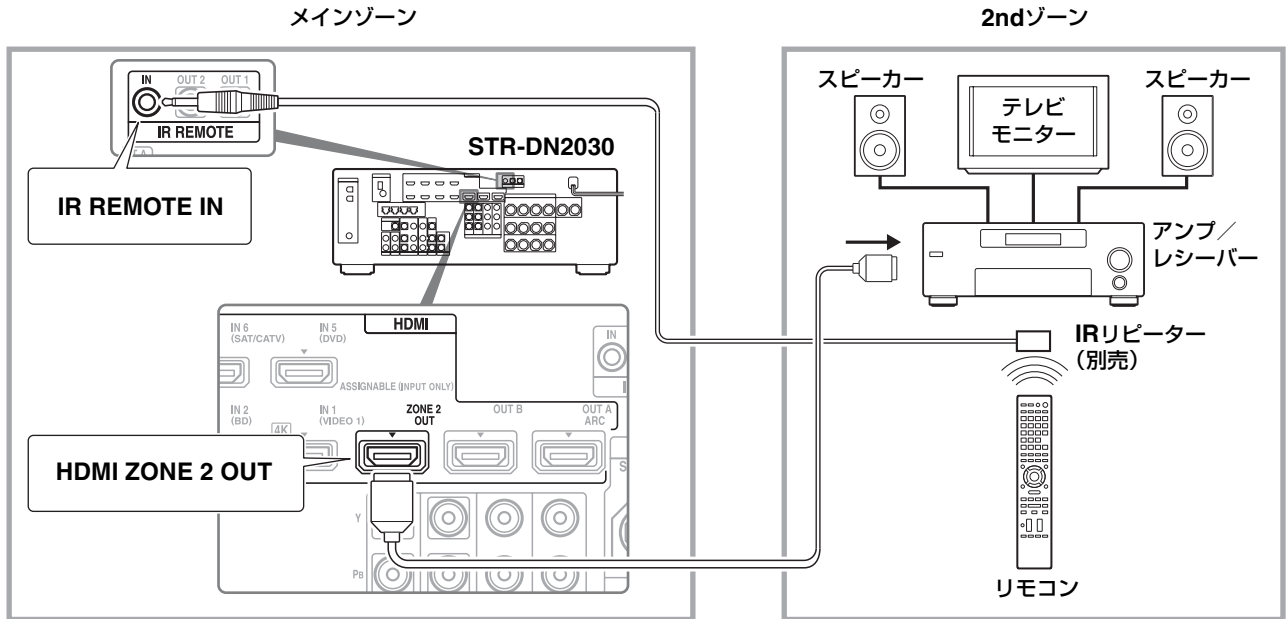


* ZONE 2 COMPONENT VIDEO OUT 端子にもつなぐことができます。

③ HDMI端子を使用して2ndゾーンにあるスピーカーから出力するには

HDMI ZONE 2 OUT端子を使用して、本機のHDMI IN端子から入力した映像・音声信号を2ndゾーンから出力することができます。

2ndゾーンのスピーカーの設定が必要になる場合があります。(56ページ)



ご注意

本機の HDMI ZONE 2 OUT 端子は 2nd ゾーンにあるテレビに直接接続できますが、メインゾーンへの影響を軽減し、より高品質の映像・音声で再生するには、パワーアンプ・レーザー等を使用してテレビを接続されることをおすすめします。メインゾー

ンと 2nd ゾーンで同じ HDMI 入力を使用する場合、メインゾーンの映像・音声は、2nd ゾーンのレベルによって、影響を受け、制限される場合があります。

2nd ゾーンのスピーカーを設定する

2ndゾーンのスピーカーをSURROUND BACK/FRONT HIGH/FRONT B/ZONE2端子につないでいるときに（54ページ）、2ndゾーンで選んだ音声はSURROUND BACK/FRONT HIGH/FRONT B/ZONE2端子につないだスピーカーから出力されるように設定します。

詳しくは、Speaker Settingsメニューの「Speaker Connection」（75ページ）をご覧ください。

2ndゾーンの音量調節の設定をする

ZONE 2 AUDIO OUT端子の音量調節を可変または固定に設定します。

- 1 ホームメニューから「Settings」を選び、**+**を押す。
- 2 「Zone Settings」を選び、**+**を押す。
- 3 「Zone Setup」を選び、**+**を押す。
- 4 「Zone2」の「Line Out」を選び、**+**を押す。
- 5 お好みの設定を選び、**+**を押す。

設定	説明
Variable	音量調節ができ、パワーアンプにつないで使う場合に適した設定です。
Fixed	プリメインアンプにつないで使う場合に適した設定です。「Fixed」に設定するときは、プリメインアンプの音量を小さくしてください。

2nd ゾーンの HDMI 出力を設定する

テレビやAVアンプなどの機器を本機のHDMI ZONE 2 OUT端子に接続すると、2ndゾーンにHDMI映像・音声を出力することができます。接続方法については、「③ HDMI端子を使用して2ndゾーンにあるスピーカーから出力するには」（55ページ）をご覧ください。

HDMI出力を設定する

HDMI IN端子からHDMI ZONE 2 OUT端子を使用して、2ndゾーンへのHDMI出力を設定します。

- 1 ホームメニューから「Settings」を選び、**+**を押す。
- 2 「HDMI Settings」を選び、**+**を押す。
- 3 「Zone 2 Out」を選び、**+**を押す。
- 4 「On」を選び、**+**を押す。

メインゾーンの優先度を設定する

Zone 2 Out機能を有効に設定し、メインゾーンと2ndゾーンで同じHDMI入力を使用すると、メインゾーンでの画質や音質が低下する場合があります。画質や音質の低下を防ぐには、HDMI入力に対して、メインゾーンが優先されるように設定できます。

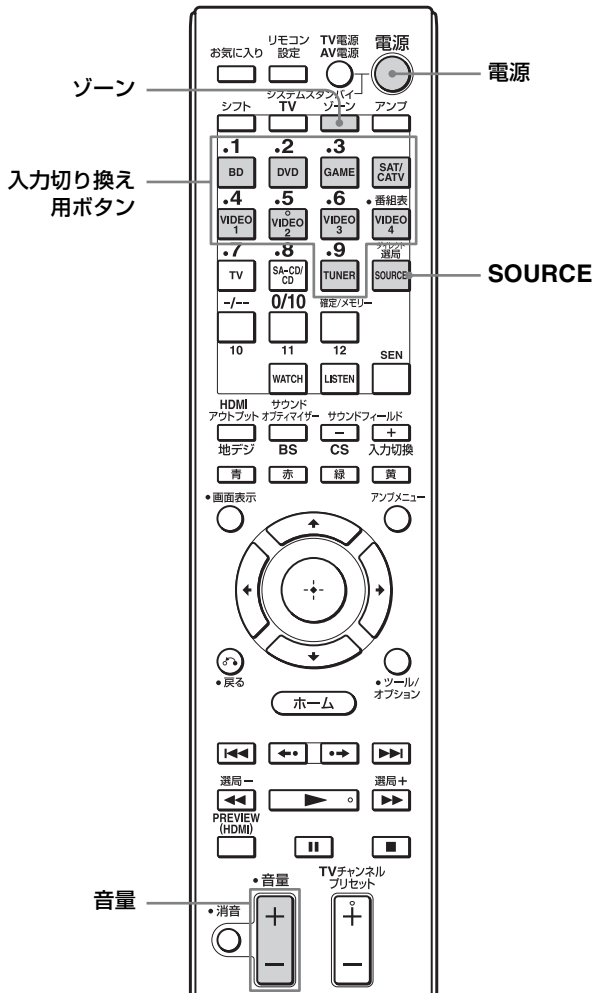
- 1 ホームメニューから「Settings」を選び、**+**を押す。
- 2 「HDMI Settings」を選び、**+**を押す。
- 3 「Priority」を選び、**+**を押す。
- 4 「Main Only」を選び、**+**を押す。

ご注意

- Zone 2 Out を「On」に設定すると、自動的に下記の機能は無効に設定されます。
 - Control for HDMI（“ブラビアリンク”）
 - Fast View（Preview for HDM（HDMIのプレビュー機能）を含む）

本機を 2nd ゾーンで操作する

2ndゾーンから本機を操作できます。ここでは、マルチゾーン操作に便利なIRリピーターを接続して、2ndゾーンから本機を操作する方法を説明しています。IRリピーターをつないでいない場合は、メインゾーンで本機を操作してください。



1 2nd ゾーンのアンプの電源を入れる。

「2ndゾーンの接続」の①イラスト (54ページ) の場合は、この操作は必要ありません。

2 ゾーンボタンを押す。

リモコンが2ndゾーン切り換わります。あらかじめゾーン設定を2ndゾーンに切り換えておいてください。

3 電源ボタンを押す。

マルチゾーン機能が有効になります。

4 リモコンの入力切り換え用ボタンのいずれかを押し、出力したいソース信号を選ぶ。

5 音量を調節する。

- 「2ndゾーンの接続」の①イラストの場合 (54ページ)、リモコンの音量+/-ボタンで音量を調節します。
- 「2ndゾーンの接続」の②イラストの場合 (54ページ) の場合、2ndゾーンのアンプで音量を調節します。「Zone2」の「Line Out」を「Variable」に設定している場合は、リモコンの音量+/-ボタンでも2ndゾーンの音量を調節できます (56ページ)。

可能なマルチゾーン操作

INPUT	ZONE 2 ¹⁾
SOURCE	○
BD	○
DVD	○
GAME	○
SAT/CATV	○
VIDEO 1	○
VIDEO 2	○
VIDEO 3	○
VIDEO 4	○
TV ²⁾	-
SA-CD/CD	○
FM ³⁾	○
AM ³⁾	○
My Music ⁴⁾	○
My Video ⁴⁾	○
My Photo ⁴⁾	○
インターネットコンテンツ ⁴⁾	○

○： 操作可能
-： 操作不可能

- 1) 2ndゾーンにはHDMI信号、コンポーネント映像信号、アナログ映像信号とアナログ音声信号が出力されます。SOURCEを選ぶと、現在のメインゾーンの入力信号が出力されます。
- 2) 「TV」は、メインゾーンでのみ選ぶことができます。
- 3) メインゾーンまたは2ndゾーンから「FM」または「AM」を選ぶことができます。ゾーン間で別の放送を選んでいる場合は、最後に設定した入力の有効になります。
- 4) メインゾーンで視聴中、2ndゾーンでSOURCEが選ばれているときのみ2ndゾーンで楽しむことができます。

2ndゾーンの操作を終了するには

ゾーンボタンを押して、電源ボタンを押します。

その他の操作をする

“ブラビアリンク”機能を使う

“ブラビアリンク”機能とは？

HDMIケーブルで接続された対応機器を「ブラビア」リモコンから連携操作できる機能の、ソニー製品における名称です。

この連携操作は、HDMI（High- Definition Multimedia Interface）で規格化されているHDMI CEC（Consumer Electronics Control）を使用したHDMI機器制御機能で実現しています。

“ブラビアリンク”機能に対応しているソニー製品をHDMIケーブル（別売）でつなぐと、以下の操作ができます。

- 電源オフ連動（59ページ）
- ワンタッチプレイ（59ページ）
- システムオーディオコントロール（59ページ）
- オーディオリターンチャンネル（ARC）（59ページ）
- オートジャンルセレクター（59ページ）
- シーンセレクト連動（60ページ）
- オーディオ機器コントロール（60ページ）
- テレビリモコンからのメニュー操作（60ページ）

HDMI機器制御機能は、以下の場合動きません。

- HDMI機器制御機能に対応していない機器をつないだ場合
- 本機と各機器をHDMIでつないでない場合
- HDMI OUT B端子に接続された機器はHDMI機器制御が動作しません。
- Zone2 Outが「On」に設定されている場合

本機は、“ブラビアリンク”機能に対応している機器とつなぐことをおすすめします。

“ブラビアリンク”機能の準備をする

“ブラビアリンク”機能を使うには、本機とつないでいる機器ともにHDMI機器制御機能の設定を有効にする必要があります。

本機と接続機器のHDMI機器制御機能を別々に設定します。

この操作にはリモコンをお使いください。

- 1** ホームメニューから「Settings」を選び、**+**を押す。
- 2** 「HDMI Settings」を選び、**+**を押す。
- 3** 「Control for HDMI」を選び、**+**を押す。
- 4** 「On」を選び、**+**を押す。
本機のHDMI機器制御機能が有効になります。
- 5** つないでいる機器のHDMI機器制御機能を有効にする。
接続機器の設定方法については、お使いの機器の取扱説明書を参照してください。
- 6** 続けて他の機器も設定する場合は、手順5をくり返す。

ご注意

- 以下の機能は、他社製品を接続した場合でも動作しますが、すべての機器との動作を保証するものではありません。
 - 電源オフ連動
 - ワンタッチプレイ
 - システムオーディオコントロール
- 以下の機能は、ソニー独自の機能です。他社製品との間では動きません。
 - シーンセレクト
 - オーディオ機器コントロール

- “ブラビアリンク”に対応していない機器ではこれらの機能は動きません。
- HDMIケーブルを抜いたり、接続を変えたときは、「“ブラビアリンク”機能の準備をする」の手順を行ってください。ただし、HDMI IN 1、2、および3端子につないでいるときは、これらの手順を行う必要はありません。

電源オフ連動

テレビのリモコンでテレビの電源を切ると、本機と再生機器の電源も連動して切ることができます。また、本機のリモコンでも電源オフ連動の操作ができます。

TV を押してから、AV 電源ボタンを押す。

HDMIでつないだすべての機器の電源が切れます。

ワンタッチプレイ

簡単な操作で、本機にHDMI接続された機器を再生したときに、自動的に本機の電源も入ります。

「Pass Through」を「On」または「Auto」に設定したときは、本機はスタンバイ状態のまま、音声と映像がテレビから出力されます。

再生機器(DVD プレーヤーなど)を再生する。

ビデオカメラでワンタッチプレイするには

- 1 本機とビデオカメラのHDMI 機器制御機能を有効にする。
- 2 ビデオカメラをHDMI IN 1、2、3端子のいずれかにつなぐ(29ページ)。ソニー製ビデオカメラをお使いの場合は、本機と連動してテレビの電源が入ります。他社製のビデオカメラの場合は、引き続きビデオカメラを再生してください。

ご注意

- 電源オフ連動機能を使うには、テレビの電源連動機能の設定を有効にしてください。詳しくはテレビの取扱説明書を参照してください。
- 機器の状態によっては、電源オフ連動機能で接続機器の電源が切れない場合があります。詳しくは、各機器に付属の取扱説明書を参照してください。
- 他社製のテレビで電源オフ連動機能を使う場合は、あらかじめテレビのメーカーに合わせてリモコンコードを設定してください(97ページ)。
- テレビによっては、ワンタッチプレイで映像、音声が入り切ることがあります。

システムオーディオコントロール

簡単な操作で、テレビの音声を本機につないだスピーカーから楽しめます。テレビのリモコンでも本機につないだスピーカーの音量を調節したり、消音したりできます。

その他、以下のように働きます。

- テレビを視聴しているときに本機の電源を入れると、テレビの音声は自動的に本機につないだスピーカーから出力されます。本機の電源を切ると、自動的にテレビのスピーカーから出力されます。
- 本機から音声を出力しているときにテレビ側の音量を操作することで、本機の音量を調節できます。システムオーディオコントロール機能は、テレビのメニューでも操作できます。詳しくはお使いのテレビの取扱説明書を参照してください。




オーディオリターンチャンネル (ARC)

テレビがオーディオリターンチャンネル (ARC) に対応している場合は、HDMIケーブル接続により、テレビのデジタル音声信号も本機に伝送されます。そのため、本機でテレビの音声を聞くために、個別に音声接続をする必要はありません。

詳しくは、「デジタル音声とアナログ音声の入力を切り換える」(62ページ)をご覧ください。

オートジャンルセレクター

視聴中のデジタル放送の番組情報 (EPG情報) を取得して、番組のジャンルに応じたサウンドフィールドに自動的に切り換えることができます (オートジャンルセレクター対応のテレビなどの機器をお使いの場合のみ)。

- 1 ホームメニューから「Settings」を選び、を押す。
- 2 「HDMI Settings」を選び、を押す。
- 3 「Sound Field」を選び、を押す。

- ソニー製のビデオカメラなど、HDMI ケーブルを接続することによってワンタッチプレイが始まる機器は、HDMI IN 1、2、および3端子に接続してください。その他のHDMI入力端子の場合は、HDMI接続をしただけでは本機が正しい入力に切り換わらないことがあります。その場合は、接続後にビデオカメラを接続した入力を手動で選んでください。
- 「Control for HDMI」が「On」のときは、システムオーディオコントロール機能によって、HDMI Settings メニューの「Audio Out」は自動的に設定されます。

4 お好みのパラメーターを選び、**+**を押す。

パラメーター 内容

Auto	デジタル放送のテレビ番組のジャンルに応じてサウンドフィールドが自動的に切り換わります。
Manual	サウンドフィールドボタンで選んだサウンドフィールドで、音声を出力します。

番組情報対応表

番組情報 (EPG情報)	オートジャンルセレクターで切り換わるサウンドフィールド
ニュース／報道	2ch Stereo
スポーツ	Sports
情報／ワイドショー	A.F.D. Auto
ドラマ	A.F.D. Auto
音楽	詳細ジャンルによって異なります。下記の音楽番組詳細ジャンル対応表をご覧ください。
バラエティ	A.F.D. Auto
映画	HD-D.C.S.
アニメ／特撮	A.F.D. Auto
ドキュメンタリー	A.F.D. Auto
劇場／公演	Live Concert
趣味／教育	A.F.D. Auto
福祉	A.F.D. Auto
その他	A.F.D. Auto
スポーツ (CS)	Sports
洋画 (CS)	HD-D.C.S.
邦画 (CS)	HD-D.C.S.
情報なし	A.F.D. Auto

音楽番組詳細ジャンル対応表

詳細ジャンル	サウンドフィールド
国内ロック／ポップス	Live Concert
海外ロック／ポップス	Live Concert
クラシック／オペラ	Concertgebouw Amsterdam
ジャズ／フュージョン	Jazz Club
歌謡曲／演歌	Live Concert
ライブ／コンサート	Live Concert
ランキング／リクエスト	Live Concert
カラオケ／のど自慢	Live Concert
民謡／邦楽	Live Concert
童謡／キッズ	Live Concert

詳細ジャンル	サウンドフィールド
民族音楽／ワールドミュージック	Live Concert
その他	Live Concert

シーンセレクト連動

テレビで選んだシーンに応じて最適な画質とサウンドフィールドに自動的に切り換えることができます。操作について詳しくは、テレビの取扱説明書を参照してください。

対応表

テレビのシーン設定	サウンドフィールド
Cinema	HD-D.C.S.
Sports	SPORTS
Music	Live Concert
Animation	A.F.D. Auto
Photo	A.F.D. Auto
Game	A.F.D. Auto
Graphics	A.F.D. Auto

オーディオ機器コントロール

オーディオ機器コントロール機能対応のテレビを本機につないだ場合は、テレビ画面にインターネットアプリケーションのアイコンが表示されます。テレビのリモコンで本機の入力やサウンドフィールドを切り換えることができます。また、センタースピーカー、アクティブサブウーファースのレベルや「Sound Optimizer」(51ページ)、「Dual Mono」(78ページ)、「A/V Sync」(79ページ)の設定を調節することもできます。オーディオ機器コントロール機能を使用するには、ブロードバンドサービスに接続できるテレビをお使いいただく必要があります。

テレビリモコンからのメニュー操作

テレビのリモコンを使って、本機のメニューを操作することができます。

テレビで認識される本機(AV AMP)を選ぶ。

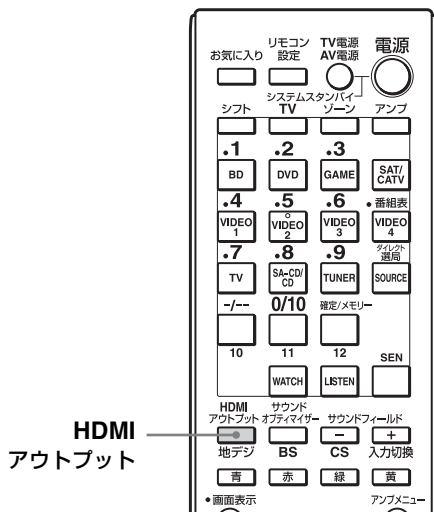
ご注意

- 番組情報 (EPG 情報) に応じてサウンドフィールドが切り換わるとき、音が途切れることがあります。
- テレビによってはサウンドフィールドが切り換わらないことがあります。

- 本機は「チューナー (AV AMP)」として、テレビに認識されません。
- お使いのテレビがリンクメニューに対応している必要があります。
- テレビによっては、一部の操作が行えないことがあります。

HDMI 信号を出力するモニターを切り換える

HDMI OUT A端子とHDMI OUT B端子のそれぞれにモニターをつないでいる場合、リモコンのHDMIアウトボタンで出力するモニターを切り換えることができます。



1 本機と2つのモニターの電源を入れる。

2 HDMI アウトボタンを押す。

HDMIアウトボタンを押すたびに、出力が以下のように切り換わります。

HDMI A → HDMI B → OFF → HDMI A…
本体のHDMI OUTボタンでも切り換えることができます。

本機がスタンバイ中でも再生機器を楽しむ

(パススルー)

本機がスタンバイ状態であっても、HDMI IN端子から入力された映像および音声信号をHDMI OUT A端子につないだテレビに出力することができます。

「Control for HDMI」が「On」の状態でするパススルー機能を使用した場合は、本機がスタンバイ状態時でも接続機器の操作に応じて本機の入力が自動的に切り換わります。

この機能を有効にするときは、以下の手順で「Pass Through」の設定を行ってください。

- 1 ホームメニューから「Settings」を選び、**+**を押す。
- 2 「HDMI Settings」を選び、**+**を押す。
- 3 「Pass Through」を選び、**+**を押す。
- 4 お好みのパラメーターを選び、**+**を押す。

パラメーター	内容
Auto	本機のスタンバイ状態時にテレビの電源が入っている場合、HDMI OUT A端子から信号を出力します。“プラビアリンク”機能に対応したテレビをお使いの場合は、この設定にすると、「On」設定時よりもスタンバイ状態時の消費電力を抑えることができます。
On	本機のスタンバイ状態時に、HDMI OUT A端子から信号を出力します。
Off	本機のスタンバイ状態時に、HDMI出力端子から信号を出力しません。つないだ機器をテレビで楽しむ場合には、本機の電源を入れてください。この設定にすると、「On」設定時よりもスタンバイ状態時の消費電力を抑えることができます。

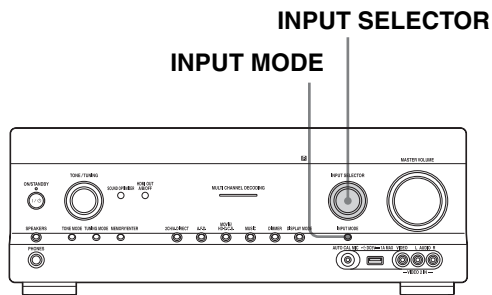
ご注意

• 「Auto」は、「Control for HDMI」が「On」に設定されているときにのみ有効です。「Control for HDMI」が「Off」に設定されている場合、「Auto」に設定しても「On」時と同じ動作になります。

• Network Standby などの他の機能が動作時は、「Pass Through」を「Auto」に設定しても消費電力を抑えることはできません。

デジタル音声とアナログ音声の入力を切り換える

機器を本機のデジタル音声入力端子とアナログ音声入力端子の両方につないでいる場合、どちらかに固定したり、視聴するソフトの種類によって切り換えることができます。



1 本体のINPUT SELECTORで入力を選ぶ。

2 本体のINPUT MODE ボタンを押す。

テレビ画面に選んだ音声入力モードが表示されません。

• AUTO

機器を本機のデジタル音声入力端子とアナログ音声入力端子の両方につないでいる場合、デジタル音声入力が優先されます。

デジタル音声入力がない場合は、アナログ音声入力を選ばれます。

テレビ入力を選ばれているときは、オーディオリターンチャンネル（ARC）信号が優先されます。テレビがオーディオリターンチャンネル（ARC）に対応していない場合は、光デジタル音声入力を選ばれます。

本機とテレビ両方のHDMI機器制御機能が有効になっていない場合は、オーディオリターンチャンネル（ARC）は働きません。

• OPT

OPTICAL IN端子が入力に割り当てられているときにのみ表示され、自動的に光デジタル入力を選ばれます。

• COAX

COAXIAL IN端子が入力に割り当てられているときにのみ表示され、自動的に同軸デジタル入力を選ばれます。

• ANALOG

AUDIO IN L/R端子へのアナログ音声入力が常に選ばれます。

ご注意

- 入力によっては、表示窓に「-----」と表示され、他のモードが選べません。

- 「2ch Analog Direct」を使っているときは、音声入力モードは「Analog」に設定されます。他のモードは選べません。

他の映像／音声入力端子を使う

映像や音声信号を他の入力端子に割り当てることができます。

例：DVDプレーヤーから光デジタル音声信号のみを入力したいときは、DVDプレーヤーのOPTICAL OUT端子を本機のOPTICAL IN 1端子につなぎます。DVDプレーヤーから映像信号を入力したいときは、DVDプレーヤーのコンポーネント映像端子を本機のCOMPONENT VIDEO IN 1またはCOMPONENT VIDEO IN 2端子につなぎます。

- 1 ホームメニューから「Settings」を選び、**+**を押す。
- 2 「Input Settings」を選び、**+**を押す。
- 3 「Video Input Assign」または「Audio Input Assign」を選び、**+**を押す。
- 4 各入力に割り当てたい音声、映像信号を選び、**+**を押す。

入力名	BD	DVD	GAME	SAT/CATV	VIDEO 1	VIDEO 2	VIDEO 3	VIDEO 4	SA-CD/CD
割り当て可能な映像入力端子	COMPONENT IN 1 (DVD)	○	○*	○	○	○	○	○	○
	COMPONENT IN 2 (SAT/CATV)	○	○	○	○*	○	○	○	○
	HDMI IN 1 (VIDEO1)	○	○	○	○	○*	○	○	○
	HDMI IN 2 (BD)	○*	○	○	○	○	○	○	○
	HDMI IN 3 (SA-CD/CD)	○	○	○	○	○	○	○	○*
	HDMI IN 4 (GAME)	○	○	○*	○	○	○	○	○
	HDMI IN 5 (DVD)	○	○*	○	○	○	○	○	○
	HDMI IN 6 (SAT/CATV)	○	○	○	○*	○	○	○	○
割り当て可能な音声入力端子	HDMI IN 7 (VIDEO3)	○	○	○	○	○	○*	○	○
	HDMI IN 8 (VIDEO4)	○	○	○	○	○	○	○*	○
	OPTICAL IN 1 (SAT/CATV)	○	○	○	○*	○	○	○	○
	OPTICAL IN 2 (TV)	○	○	○	○	○	○	○	○
	COAXIAL (DVD)	○	○*	○	○	○	○	○	○
	HDMI IN 1 (VIDEO1)	○	○	○	○	○*	○	○	○
	HDMI IN 2 (BD)	○*	○	○	○	○	○	○	○
	HDMI IN 3 (SA-CD/CD)	○	○	○	○	○	○	○	○
	HDMI IN 4 (GAME)	○	○	○*	○	○	○	○	○
	HDMI IN 5 (DVD)	○	○*	○	○	○	○	○	○
	HDMI IN 6 (SAT/CATV)	○	○	○	○*	○	○	○	○
	HDMI IN 7 (VIDEO3)	○	○	○	○	○	○	○*	○
HDMI IN 8 (VIDEO4)	○	○	○	○	○	○	○	○*	

* 初期設定

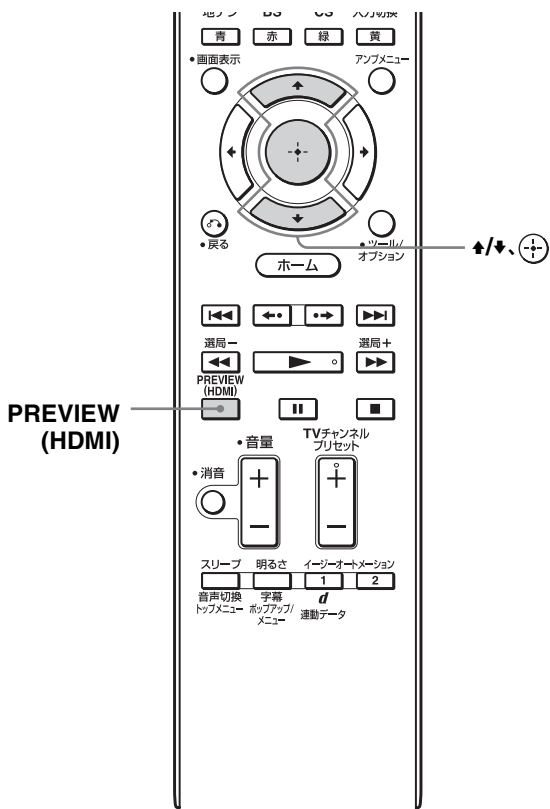
ご注意

- 「Video Input Assign」または「Audio Input Assign」で入力に HDMI IN 1～8 端子のいずれかを割り当てた場合は、映像入力と音声入力の両方に同じ HDMI 入力端子が割り当てられます。映像入力または音声入力のどちらか一方にのみ HDMI 入力端子を割り当てたい場合は、いったん HDMI 入力端子を割り当ててから、「Video Input Assign」または「Audio Input Assign」で HDMI 入力端子を割り当てないほうを「None」に設定してください。
- GUI を使わず本機を操作する場合は、「INPUT」の「H.V. ASSIGN」または「H.A. ASSIGN」で HDMI IN 端子の割り当てを変更することができます（94 ページ）。
- HDMI 機器制御機能を使用中に HDMI IN 端子の割り当てを変更した場合は、本機の入力を一度その HDMI 機器をつないだ入力に切り換えてください。切り換えを行わないと、HDMI 機器制御機能が正しく働かないことがあります。
- 「Video Input Assign」と「Audio Input Assign」の両方で HDMI 入力の割り当てを「None（なし）」に設定した場合は、その HDMI 端子からの入力信号を選択できなくなります。その場合、本機以外の機器では HDMI 機器制御機能が動きませんが、不具合ではありません。
- デジタル音声入力を割り当てると、INPUT MODE の設定が変わることがあります。
- 映像入力にコンポーネント入力またはコンポジット入力を割り当て、音声入力に HDMI 入力を割り当てているときは、コンポーネントまたはコンポジット映像信号は HDMI OUT 端子から出力されません。コンポーネントまたはコンポジット映像信号は、COMPONENT VIDEO MONITOR OUT 端子または MONITOR VIDEO OUT 端子から出力されます。
- 1つの入力に対して、異なる HDMI 入力端子を映像および音声入力端子に個別に割り当てることはできません。
- 複数の入力に同じ HDMI IN 端子を割り当てることはできませんが、その HDMI IN 端子につないだ機器をワンタッチプレイすると、最後に設定した入力を選ばれます。

HDMI のプレビュー機能

(Preview for HDMI)

HDMI入力端子に接続した機器の映像をPIP（小窓）画面に表示します。HDMI IN 1/2/3/4からの入力に対応し、一度に4つまでのプレビュー画面を表示します。リモコンでプレビュー表示するHDMI入力を選択することができます。（この機能はシリコンイメージ社のInstaPrevue™を使用しています。）



- 1 PREVIEW (HDMI) ボタンを押す。
- 2 PIP 画面の映像を主画面に表示するには、
↑/↓ で PIP 画面を選び、⊕を押す。
選択したPIP画面が主画面に表示されます。

ご注意

- HDMI のプレビュー機能に対応しているのは HDMI IN 1、2、3、4 端子です。
- Preview for HDMI 機能は以下の場合、動きません。
 - HDMI 機器が接続されていない。
 - ある特定の HDMI 機器が、電源が入っていない状態で接続されている。
 - サポートしていない HDMI 信号が入力された。(VGA、480i、576i、4K、一部の 3D 信号、ビデオカメラからの信号など)
- HDMI 入力以外の入力を選択されている。
- GUI が表示されている。
- 「Zone 2 Out」が「On」に設定されている。
- 「Fast View」が「Off」に設定されている。
- HDMI のプレビュー機能の PIP（小窓）画面は下記の場合、黒画になります。
 - サポートしていない HDMI 信号が入力された。(4K、一部の 3D 信号)

スマートフォンで本機を操作する

「ES Remote」アプリケーションをインストールしたスマートフォンで本機を操作することができます。「ES Remote」アプリケーションはApp Store (iPod touch/iPhone 用)、またはGoogle Play (Android 携帯用) から無料でダウンロードできます。

本機のさまざまな設定を保存してから一括で呼び出す

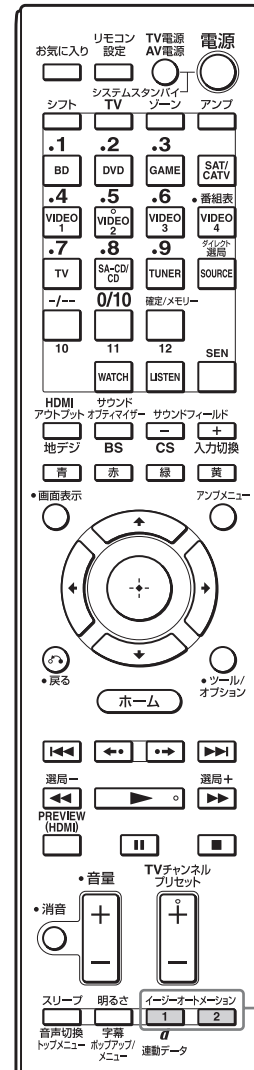
(Easy Automation)

本機のさまざまな設定を一括して保存したり、視聴環境に合わせて保存した設定を呼び出して簡単に適用することができます。

例えば、「1: Movie」シーンに以下のように設定を保存しておくことによって、「Input」、「Calibration Type」、「Sound Field」、「HDMI Out」の設定を個別に切り換えることなく、ワンタッチで一括して切り換えることができます。

設定項目	「1: Movie」の設定値
Input	BD
Calibration Type	No Change
Sound Field	HD-D.C.S.
HDMI Out	HDMI OUT B

その他の操作をする



イージーオートメーション

保存できる設定項目と各設定項目の初期値は次のとおりです。

設定項目	初期値			
	1: Movie	2: Music	3: Party	4: Night
Input	変更しない	変更しない	変更しない	変更しない
Tuner Preset	-	-	-	-
Sound Field	変更しない	変更しない	変更しない	変更しない
Sleep	変更しない	変更しない	変更しない	変更しない
Volume	変更しない	変更しない	変更しない	変更しない
HDMI Out	変更しない	変更しない	変更しない	変更しない
Party Mode	変更しない	変更しない	変更しない	変更しない
Calibration Type	変更しない	変更しない	変更しない	変更しない
Sound Optimizer	変更しない	変更しない	変更しない	変更しない
Equalizer (All)	変更しない	変更しない	変更しない	変更しない
Equalizer (Front)	変更しない	変更しない	変更しない	変更しない
Equalizer (Center)	変更しない	変更しない	変更しない	変更しない
Equalizer (SUR/SB)	変更しない	変更しない	変更しない	変更しない
Equalizer (Front High)	変更しない	変更しない	変更しない	変更しない

Sceneに保存した設定を呼び出す

- 1 ホームメニューで「Easy Automation」を選び、**+**を押す。
- 2 実行したい Scene を選び、**+**を押す。

ご注意

- 「変更しない」として保存されている設定項目は、Scene を呼び出しても現在の設定内容を変更しません。「変更しない」を指定するには、「編集」を選び、編集画面で設定項目のチェックをはずしてください。
- Scene を呼び出したとき、本機の状態によって適用できない設定値は無効になります。

Sceneに設定を保存する

- 1 ホームメニューで「Easy Automation」を選び、**+**を押す。
- 2 「1: Movie」、「2: Music」、「3: Party」、「4: Night」の中から設定を保存したい Scene を選び、ツール / オプションボタンを押す。
- 3 お好みのメニューを選び、**+**を押す。

メニュー	説明
編集	保存されている設定を、お好みに合わせてカスタマイズできます。
現在設定の取込	現在の本機の設定を読み込んで、Scene に上書き保存します。「Input」と「Volume」は「変更しない」に設定されます。

ちょっと一言

- リモコンのイージーオートメーション 1 ボタンまたはイージーオートメーション 2 ボタンを押して、「1: Movie」または「2: Music」に保存されている設定を直接呼び出すことができます。また、リモコンのイージーオートメーション 1 ボタンまたはイージーオートメーション 2 ボタンを 3 秒間押し続けると、メニューで「Import Current Settings」を選んだときと同様に、現在の設定を「1: Movie」または「2: Music」に上書きすることができます。
- Party Mode では、すべてのゾーンの電源が自動的に入り、メインゾーンで聞いている曲を同時に楽しむことができます。Party Mode に対応する入力について詳しくは、「可能なマルチゾーン操作」(57 ページ)をご覧ください。

スリープタイマーを使う

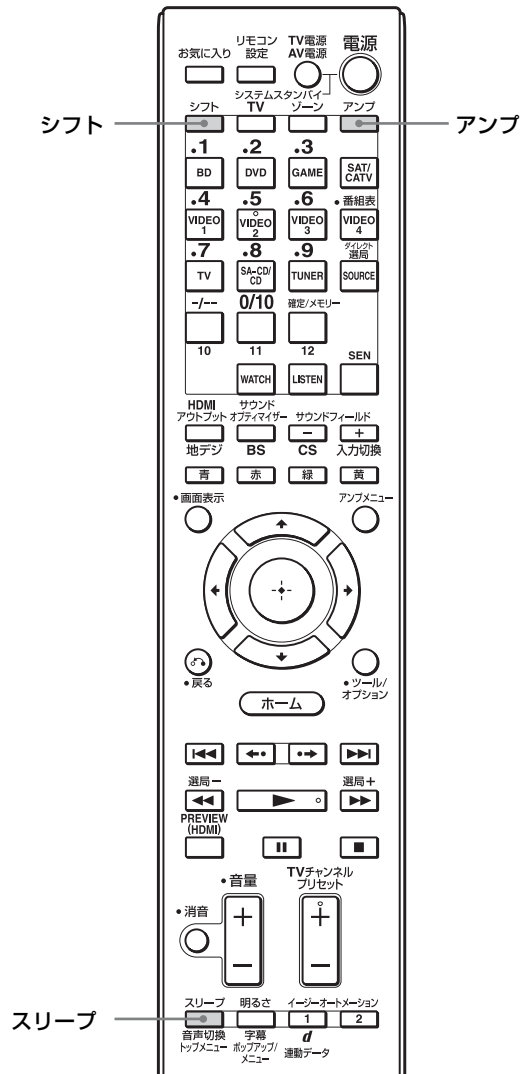
設定した時間がたつと、本機の電源を自動的に切ることができます。

この操作にはリモコンをお使いください。

スリープタイマーが働いているあいだは表示窓の「SLEEP」が点灯します。

スリープタイマーが働くまでの残り時間を確認するには、スリープボタンを押します。表示窓に残り時間が表示されます。

もう一度スリープボタンを押すと、スリープタイマーが「OFF」に切り換わります。



1 アンブボタンを押す。

本機の操作ができるようになります。

2 シフトボタンを押してから、スリープボタンをくり返し押す。

スリープボタンを押すたびに時間表示が次のように切り換わります。

→0:30:00→1:00:00→1:30:00→2:00:00→OFF→

本機を使って録音／録画する

本機を使ってオーディオ／映像機器から録音／録画ができます。お持ちの録音／録画機器の取扱説明書も参照してください。

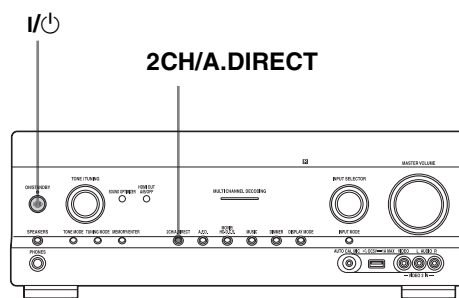
- 1** ホームメニューから「Watch」または「Listen」を選び、**+**を押す。
- 2** 再生機器を選び、**+**を押す。
- 3** 再生機器の準備をする。
例：ビデオデッキにビデオテープを入れる。
- 4** 録画／録音機器の準備をする。
(VIDEO 1につないだ) 録画機器に録画用のビデオテープなどを入れる。
- 5** 録画／録音機器側で録画／録音を開始し、再生機器側で再生する。

本体とリモコンのCOMMANDモードを切り換える

本機（アンプ）と付属のリモコンのCOMMANDモード（COMMAND MODE AV1またはCOMMAND MODE AV2）を切り換えることができます。付属のリモコン操作で他にお使いのソニー製機器が誤動作する場合は、COMMANDモードを初期設定から適切な設定に切り換えてください。

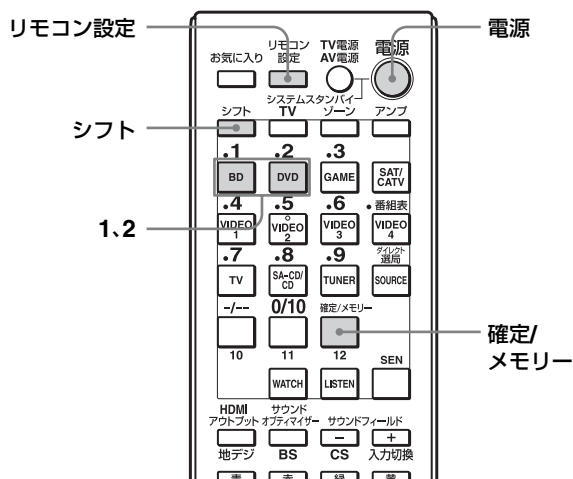
本機と付属のリモコンともに、初期設定のCOMMANDモードはCOMMAND MODE AV2です。本機と付属のリモコンはどちらも同じCOMMANDモードに設定する必要があります。COMMANDモードが一致していない場合は、付属のリモコンで本機の操作ができません。

本体のCOMMANDモードを切り換える



- 1** I/O ボタンを押して、本機の電源を切る。
- 2** 2CH/A.DIRECT ボタンを押しながら I/O ボタンを押して、本機の電源を入れる。
COMMANDモードが「AV2」に設定されると、表示窓に「C. MODE AV2」と表示されます。
COMMANDモードが「AV1」に設定されると、表示窓に「C. MODE AV1」と表示されます。

リモコンのコマンドモードを切り換える



- 1** リモコン設定ボタンを押しながら、電源ボタンを押す。
 シフトボタンが点灯、リモコン設定ボタンが点滅します。
- 2** リモコン設定ボタンが点滅している間に 1 または 2 を押す。
 1を押すと、コマンドモードは「COMMAND MODE AV1」に設定され、2を押すと「COMMAND MODE AV2」に設定されます。リモコン設定ボタンが点灯します。
- 3** 確定 / メモリーボタンを押す。
 アンプボタンが2回点滅し、設定が完了します。

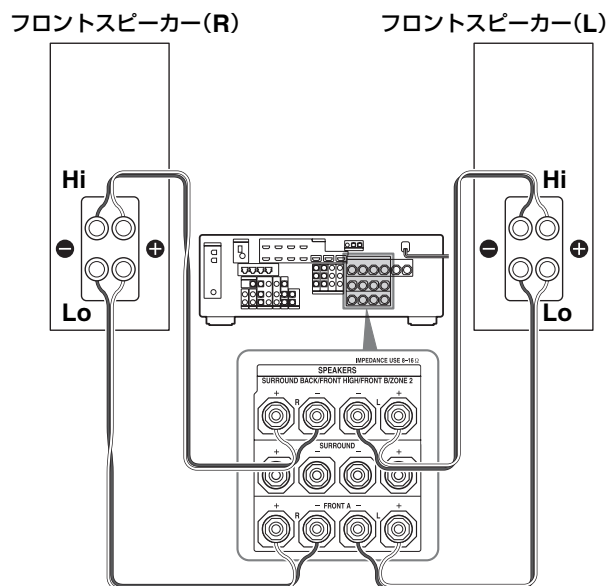
ご注意

- Auto Calibration 機能を使う場合は、その前にバイアンプの設定をしてください。
- バイアンプの設定後は、サラウンドバックスピーカーおよびフロントハイスピーカーのレベル、バランス、イコライザーなどの設定は無効となり、フロントスピーカーの設定が反映されません。

バイアンプ接続する

サラウンドバックスピーカーおよびフロントハイスピーカーを使用しない場合、SURROUND BACK/FRONT HIGH/FRONT B/ZONE2端子をフロントスピーカーのバイアンプ接続用に使用することができます。

接続する



フロントスピーカーのLo（またはHi）側を本機のFRONT A端子に、フロントスピーカーのHi（またはLo）側を本機のSURROUND BACK/FRONT HIGH/FRONT B/ZONE2端子につなぎます。このとき、スピーカーに付属されているHi/Loのショート金具は必ずはずしてください。本機の故障の原因となります。

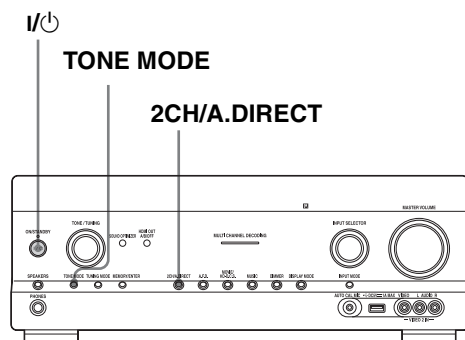
設定する

詳しくは、Speaker Settingsメニューの「Speaker Connection」（75ページ）をご覧ください。

- 「Speaker Pattern」でサラウンドバックスピーカーまたはフロントハイスピーカーありの設定にした場合、SURROUND BACK/FRONT HIGH/FRONT B/ZONE2端子をバイアンプ接続用に設定できません。
- GUI を使わず本機を操作する場合は、「SPEAKER」の「SB ASSIGN」を「BI-AMP」に設定してください（93ページ）。

本機を初期設定状態に戻す

以下の手順で、設定した内容などをお買い上げ時の状態に戻すことができます。また、本機を初めてお使いになるときに本機を初期設定状態にしたいときも、以下の手順を行ってください。



- 1** I/II ボタンを押して、本機の電源を切る。
- 2** TONE MODE ボタンと 2CH/A.DIRECT ボタンを押しながら、I/II ボタンを押して、本機の電源を入れる。
- 3** 2、3 秒後に TONE MODE ボタンと 2CH/A.DIRECT ボタンを離す。
表示窓に「CLEARING...」と表示されたあと、「CLEARED!」と表示されます。
初期設定から変更、調整された設定はすべて初期化されます。

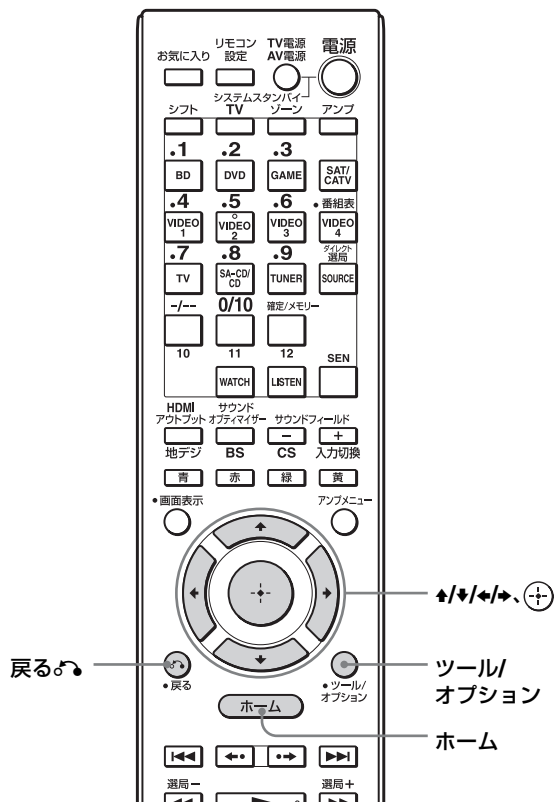
ご注意

初期化が完了するまで数分かかります。表示窓に「CLEARED!」と表示されるまで電源を切らないでください。

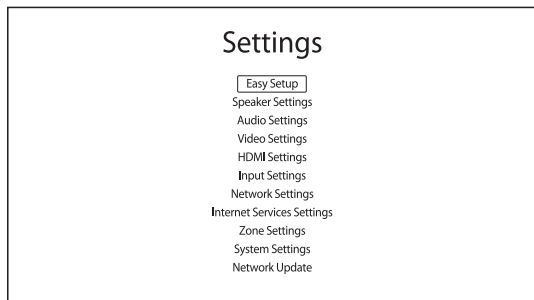
設定を変更する

Settings メニューの使いかた

Settingsメニューを使って、スピーカーやサラウンド効果などさまざまな設定ができます。

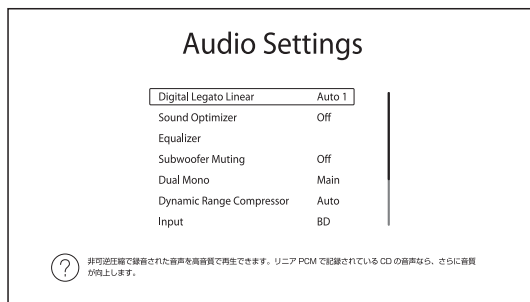


- 1 ホームメニューから「Settings」を選び、**+**を押してメニューモードに入る。
Settingsメニューが表示されます。



- 2 お好みのメニューを選び、**+**を押す。

例: Audio Settingsの場合



- 3 設定したい項目を選び、**+**を押して確定する。

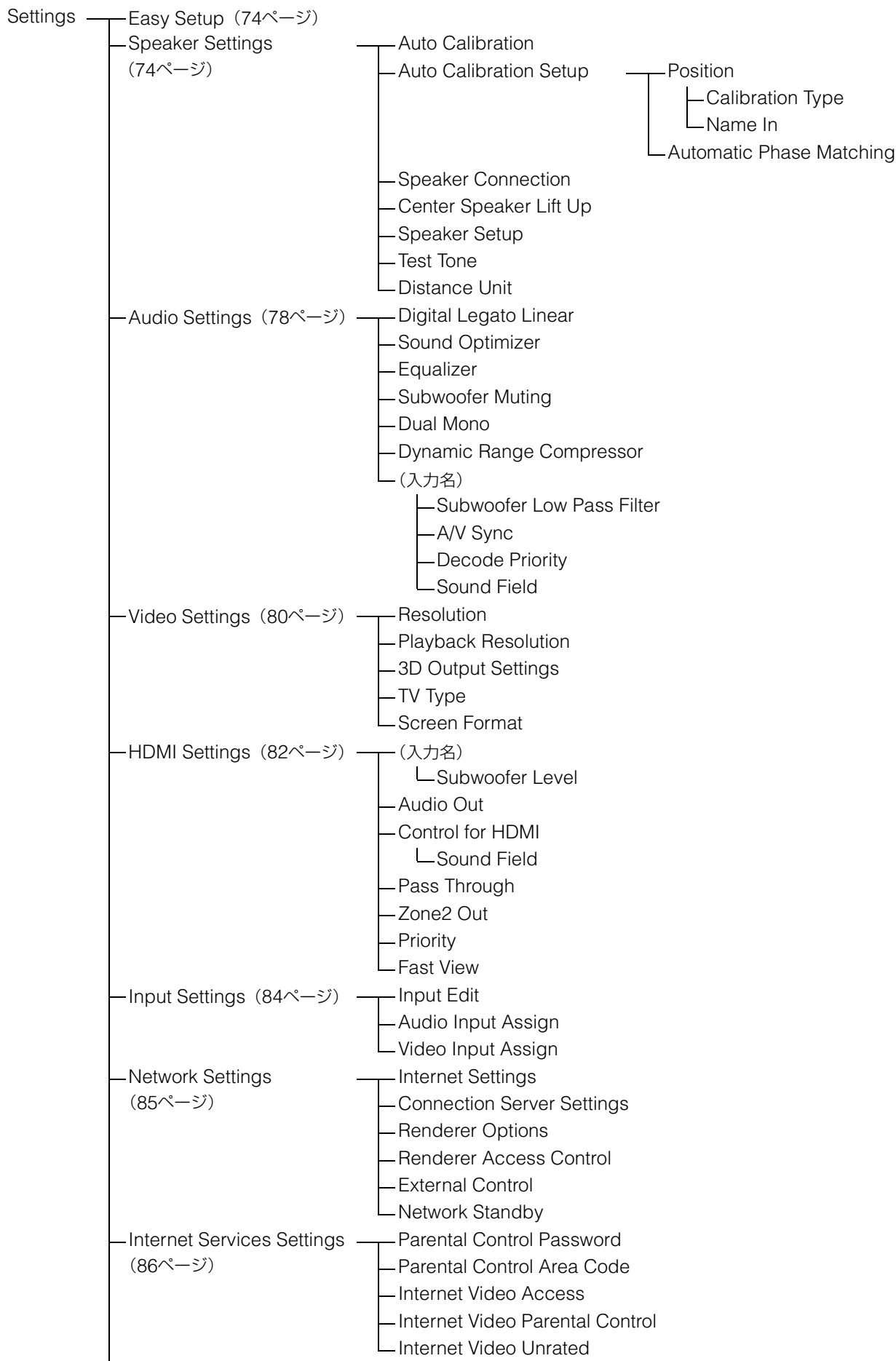
前の表示画面に戻るには

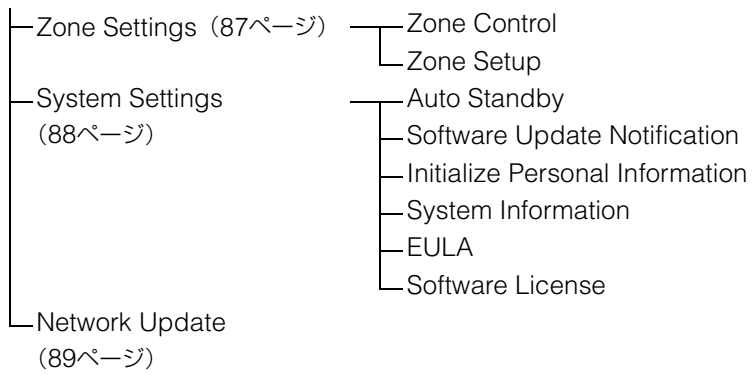
戻る ボタンを押します。

メニューを消すには

ホームボタンを押してホームメニューを表示し、もう一度ホームボタンを押します。

Settingsメニュー一覧





Easy Setup

Easy Setupを再起動して基本設定を行います。画面の指示にしたがって操作してください（36ページ）。

スピーカー設定

(Speaker Settings)

視聴環境（使用しているスピーカーシステム）を自動または手動で設定できます。

- Speaker Connection
- Speaker Setup
- Test Tone

Auto Calibration

D.C.A.C.（Digital Cinema Auto Calibration（自動音場補正））機能を実行します。この機能は、各スピーカーと本機の接続やスピーカーのレベル、各スピーカーと視聴位置の距離などを自動的に測定し、最適な音声バランスを設定します。

Calibration Matching

Auto Calibration中に自動的に左右のスピーカーの位置と距離を合わせる、波面マッチング機能です。

DCAC測定後、設定を保存した後にのみ設定することができます。次回設定を変更するまで、設定値は保持されます。

Auto Calibration Setup

測定位置や視聴環境、測定条件ごとに「Position」として3つのパターンを登録できます。

また、それぞれのスピーカーの補正タイプも選べます。

Position

リスニング環境ごとに設定を登録したり、登録した設定を呼び出したりできます。

Auto Calibration Setup 画面で、測定結果を登録する「Position」を選ぶ。

- Pos.1
- Pos.2
- Pos.3

スピーカーの補正タイプを設定するには

Positionごとにスピーカーの補正タイプを選べます。

- 1 スピーカーの補正タイプを設定する「Position」を選び、**+**を押す。

ご注意

- 「Auto Calibration」を実行すると、現在選ばれているポジションに保存されているそれまでの設定結果は上書きされ、新しい設定結果が保存されます。「Speaker Settings（Auto Calibration）についてのご注意」（36ページ）をご覧ください。

- 測定結果が登録されていない「Position」に「Calibration Type」は設定できません。

- 2 「Calibration Type」を選び、**+**を押す。
- Full Flat
各スピーカーの周波数特性を平らにします。
 - Engineer
ソニー基準のリスニングルームの周波数特性にします。
 - Front Reference
すべてのスピーカーの特性をフロントスピーカーの特性に合わせます。
 - Off
Auto Calibration機能のイコライザーをオフにします。

「Position」に名前を付けるには

- 1 名前を付ける「Position」を選び、**+**を押す。
- 2 「Name In」を選び、**+**を押す。
ソフトキーボードが表示されます。
- 3 **↑/↓/←/→**を押して文字を1つずつ選び、**+**を押す。

Automatic Phase Matching

D.C.A.C. (Digital Cinema Auto Calibration (自動音場補正)) 機能 (74ページ) のA.P.M. (Automatic Phase Matching (自動位相マッチング)) 機能を設定できます。

スピーカーの位相特性を補正し、つながりのよいサラウンド空間を実現します。

■ Off

A.P.M.機能は働きません。

■ Auto

A.P.M.機能のオン/オフが自動的に切り換わります。

Speaker Connection

それぞれのスピーカーを手動で設定できます。自動音場補正完了後にもスピーカーレベルを調節できます。スピーカー設定は選択中の「Position」にのみ有効です。ウィザードを使って以下の設定ができます。

Speaker Pattern

お使いのスピーカーシステムのパターンを選択します。

Surround Back Assign

SURROUND BACK/FRONT HIGH/FRONT B/ZONE2端子の接続を設定します。

■ Zone2 Speakers

2ndゾーンのスピーカーを割り当てます。

■ Bi-Amplifier

バイアンプを割り当てます。

■ Front B

フロントスピーカー Bを割り当てます。

■ No Assign

何も割り当てません。

Center Speaker Lift Up

フロントハイスピーカーを使ってセンタースピーカーの音を画面内に持ち上げることができます。これにより、違和感のない映像と音声の自然な表現を楽しむことができます。

■ 1~10

■ Off

ご注意

- 「Automatic Phase Matching」は、以下の場合は機能しません。
 - 「2ch Analog Direct」を使用している。
 - ヘッドホンをつないでいる。
 - 「Auto Calibration」を行っていない。
- 「Automatic Phase Matching」使用时、音声フォーマットによっては、本機はもとのサンプリング周波数よりも低いサンプリング周波数で再生することがあります。
- サラウンドバックスピーカーまたはフロントハイスピーカーありのスピーカーパターンを選んでいる場合、SURROUND BACK/FRONT HIGH/FRONT B/ZONE2 端子をバイアンプ接続または 2nd ゾーン接続用の設定はできません。
- 「Center Speaker Lift Up」は以下の場合は機能しません。
 - ヘッドホンをつないでいる。
 - センタースピーカーが繋がれていない。
 - フロントハイスピーカーが繋がれていない。
 - 2チャンネルモードのサウンドフィールドが使われている。
 - 音楽用のサウンドフィールドが使われている。
 - 「Multi Stereo」サウンドフィールドが使われている。

Speaker Setup

Speaker Setup画面で各スピーカーを手動で設定できます。自動音場補正完了後もスピーカーレベルを調節できます。

「Level/Distance/Size」を選び、**+**を押す。

スピーカーのレベルを調節するには

各スピーカー（センター、サラウンド右/左、サラウンドバック右/左、フロントハイ右/左、アクティブサブウーファー）のレベルを調節できます。

- 1 レベルを調節するスピーカーを選び、**+**を押す。
- 2 「Level」を選び、**+**を押す。
-20 dBから+10 dBの範囲で0.5 dB単位で設定できます。
フロント左のレベルをFL-10 dBからFL+10 dBの範囲で0.5 dB単位で設定できます。フロント右のレベルをFR-10 dBからFR+10 dBの範囲で0.5 dB単位で設定できます。

リスニングポジションからスピーカーまでの距離を調節するには

リスニングポジションから各スピーカー（フロント右/左、センター、サラウンド右/左、サラウンドバック右/左、フロントハイ右/左、アクティブサブウーファー）までの距離を調節できます。

- 1 リスニングポジションからの距離を調節するスピーカーを選び、**+**を押す。
- 2 「Distance」を選び、**+**を押す。
1.0~10.0 mの範囲で、1 cm単位で設定できます。

スピーカーのサイズを調節するには

各スピーカー（フロント右/左、センター、サラウンド右/左、サラウンドバック右/左、フロントハイ右/左）のサイズを調節できます。

- 1 サイズを調節するスピーカーを選び、**+**を押す。

- 2 「Size」を選び、**+**を押す。

- Large
低域を十分に再生できる大きなスピーカーをつないだときに選びます。通常は「Large」を選びます。
- Small
マルチチャンネルサラウンドの音声が入り、サラウンド効果が不十分なときに選びます。サラウンドスピーカーの低域部分は、アクティブサブウーファーまたは「Large」に設定した他のスピーカーから再生されます。

各スピーカーのクロスオーバー周波数を調整するには

Speakerメニューで「Small」に設定されているスピーカーの低音域のクロスオーバー周波数を調節します。自動音場測定後は、測定されたスピーカーのクロスオーバー周波数が各スピーカーに設定されます。

- 1 「Crossover Frequency」を選び、**+**を押す。
- 2 クロスオーバー周波数を調整するスピーカーを画面上で選ぶ。
- 3 クロスオーバー周波数を調整する。

Test Tone

Test Tone画面でテストトーンの種類を選べます。

各スピーカーからテストトーンを出力するには

各スピーカーから順番に、テストトーンを出力します。

- 1 「Test Tone」を選び、**+**を押す。
Test Tone画面が表示されます。
- 2 設定を選び、**+**を押す。
 - Off
 - Auto
テストトーンが出るスピーカーが自動的に切り替わります。
 - L、C、R、SR、SL、SB*、SBL、SBR、LH、RH、SW
*「SB」は、サラウンドバックスピーカーを1台のみつないでいるときに表示されます。

ご注意

- ヘッドホンをつないでいるときは、「Distance」と「Size」の設定は機能しません。
- 「Speaker Size」と「Speaker Crossover Frequency」では、サラウンドバックスピーカーの設定はサラウンドスピーカーと同じになります。
- フロントスピーカーの設定を「Small」にすると、センター、サラウンド、サラウンドバック、フロントハイスピーカーも自動的に「Small」に設定されます。

- アクティブサブウーファーを使用しない場合は、フロントスピーカーは自動的に「Large」に設定されます。
- クロスオーバーの設定はヘッドホンが接続されている場合は、機能しません。
- サラウンドバックスピーカーのクロスオーバー設定は、サラウンドスピーカーとおなじになります。

テストトーンを出力するスピーカーを選ぶことができます。

- 3 「Level」を調節して、**(+)**を押す。

隣り合うスピーカーからテストトーンを出力するには

隣り合うスピーカーからテストトーンを出力することで、スピーカー間のバランスを調節できます。

- 1 「Phase Noise」を選び、**(+)**を押す。
Phase Noise画面が表示されます。

- 2 設定を選び、**(+)**を押す。

- Off
- FL/FR、FL/CNT、CNT/FR、FR/SR、SR/SBR、SR/SB*、SBR/SBL、SR/SL、SB/SL*、SBL/SL、SL/FL、LH/RH、FL/SR、SL/FR、FL/RH、LH/FR

*「SR/SB」および「SB/SL」は、サラウンドバックスピーカーを1台のみつないでいるときに表示されます。

隣り合う2つのスピーカーから順番に、テストトーンを出力します。

スピーカーパターンによっては、表示されない項目があります。

- 3 「Level」を調節して、**(+)**を押す。

隣り合うスピーカーから音源を出力するには

隣り合うスピーカーから音源を出力して、スピーカー間のバランスを調節できます。

- 1 「Phase Audio」を選び、**(+)**を押す。
Phase Audio画面が表示されます。

- 2 設定を選び、**(+)**を押す。

- Off
- FL/FR、FL/CNT、CNT/FR、FR/SR、SR/SBR、SR/SB*、SBR/SBL、SR/SL、SB/SL*、SBL/SL、SL/FL、LH/RH、FL/SR、SL/FR、FL/RH、LH/FR

*「SR/SB」および「SB/SL」は、サラウンドバックスピーカーを1台のみつないでいるときに表示されます。

隣り合う2つのスピーカーから順番に、テストトーンではなくフロント2チャンネルの音源を出力します。

スピーカーパターンによっては、表示されない項目があります。

- 3 「Level」を調節して、**(+)**を押す。

Distance Unit

スピーカーまでの距離を表示する単位を切り換えます。

■ meter

メートル表示に切り換えます。

■ feet

フィート表示に切り換えます。

音声設定

(Audio Settings)

音声に関する設定ができます。

Digital Legato Linear (D.L.L.)

低音質のデジタル音声信号やアナログ音声信号を高音質で再生可能にするソニー独自の技術です。

■ Off

■ Auto 1

非可逆圧縮された音声フォーマットとアナログ音声信号に対して機能します。

■ Auto 2

リニアPCM信号に対しても、非可逆圧縮された音声フォーマットとアナログ音声信号と同様に機能します。

Sound Optimizer

Sound Optimizer機能を設定します (51ページ)。

■ Off

■ Low

■ Normal

Equalizer

各スピーカーの低域／高域レベルを調節します (52ページ)。

Subwoofer Muting

SUBWOOFER端子から信号を出力するかどうかを設定します。

■ Off

SUBWOOFER端子から信号を出力します。

■ On

SUBWOOFER端子から信号を出力しません。

Dual Mono

MPEG-2 AACやドルビーデジタルなどの二重音声を聞くと、再生モードを設定します。

■ Main/Sub

フロント左スピーカーから主音声、フロント右スピーカーから副音声を同時に出力します。

■ Main

主音声のみを出力します。

■ Sub

副音声のみを出力します。

Dynamic Range Compressor

サウンドトラックのダイナミックレンジを狭くします。深夜に小音量で映画を見たいときなどに便利です。ドルビーデジタルやドルビー TrueHDの音声に働きます。

■ Off

ダイナミックレンジの圧縮は行われません。

■ Auto

「Dynamic Range Compressor」を機能させることを推奨するフラグが音源にあるとき、ダイナミックレンジが自動的に圧縮されます。

■ On

ダイナミックレンジの圧縮を行います。レコーディングエンジニアが意図するダイナミックレンジでサウンドトラックを再現します。

Subwoofer Low Pass Filter

アクティブサブウーファー出力のローパスフィルターを設定します。お持ちのアクティブサブウーファーにクロスオーバー周波数調整などのローパスフィルターがない場合に設定してください。音声入力端子をもつ入力ごとに独立して設定できます。

■ Off

ローパスフィルターは働きません。

ご注意

- 「D.L.L.」は、USB デバイスまたはホームネットワークのコンテントによっては機能しません。
- 「D.L.L.」は、「A.F.D. Auto」が選ばれているときに機能します。ただし、以下の場合は機能しません。
 - サンプリング周波数が 44.1 kHz 以外のリニア PCM 信号を受信している。
 - Dolby Digital Plus、Dolby Digital EX、Dolby TrueHD、DTS 96/24、DTS-ES Matrix 6.1、DTS-HD Master Audio、または DTS-HD High Resolution Audio の信号を受信している。

- 「Subwoofer Muting」は以下の場合は機能しません。
 - ヘッドホンをつないでいる。
 - 「2ch Stereo」が選ばれている。
 - 「2ch Analog Direct」を使用している。
 - サブウーファーがないスピーカーパターンを選んでいるとき。
- 「Subwoofer Low Pass Filter」は以下の場合は機能しません。
 - 「2ch Analog Direct」を使用している。

■ On

常にカットオフ周波数120 Hzのローパスフィルターが働きます。

A/V Sync

入力された音声を遅らせて、映像と音声のずれを入力ごとに独立して調節することができます。

大画面の液晶テレビやプラズマテレビ、またはプロジェクターをお使いの場合に便利な機能です。

■ HDMI Auto

HDMI接続のときはテレビ側の情報をもとに、映像と音声のずれを自動的に調節します。ただし、A/V Syncに対応したテレビにつないだ場合のみ機能します。

■ 0 ms – 300 ms

0 ms～300 msの範囲で10 msごとに調節できます。

Decode Priority

HDMI端子またはDIGITAL IN端子に入力されるデジタル音声の入力モードを入力ごとに独立して設定できます。

■ PCM

DIGITAL IN端子からの信号を選んでいるときに、リニアPCM信号を優先して処理します（頭切れを防ぎます）。なお、リニアPCM以外の信号が入力された場合、信号フォーマットによっては音が出なくなることがあります。この場合は「Auto」に設定してください。

HDMI IN端子からの信号を選んでいるときは、つないだ機器からはリニアPCM信号のみ出力されるようになります。

その他のフォーマットを受信する場合は「Auto」に設定してください。

■ Auto

ドルビーデジタル、DTS、MPEG-2 AAC、リニアPCMの音声入力を自動的に切り換えます。

Sound Field

入力信号に適用する音響効果を入力ごとに独立して設定できます。詳しくは「音響効果を楽しむ」（48ページ）をご覧ください。

ご注意

- A/V Sync 機能使用時、音声フォーマットによっては、本機はもとのサンプリング周波数よりも低いサンプリング周波数で再生することがあります。
- 「Decode Priority」は以下の場合は機能しません。
 - － 「2ch Analog Direct」を使用している。
 - － アナログ入力モードが選択されている。
- 「Decode Priority」を「PCM」に設定した場合でも、再生するディスクの信号によっては頭切れすることがあります。

映像設定 (Video Settings)

映像に関する設定ができます。

Resolution

入力したアナログ映像信号の解像度を変換して出力します。

■ Direct

入力したアナログ映像信号をそのまま出力します。

■ Auto

■ 480i/576i

■ 480p/576p

■ 720p

■ 1080i

■ 1080p

HDMI OUT端子にHDMIモニターを接続しているとき (HDMI OUT ON)

「Resolution」の設定	出力信号		HDMI OUT端子	MONITOR COMPONENT VIDEO OUT端子	MONITOR VIDEO OUT端子
	入力信号				
Direct、Auto	HDMI IN端子		●	—	—
	COMPONENT VIDEO IN端子		○ ^{a)}	●	—
	VIDEO IN端子		○ ^{a)}	—	●
480i/576i、480p/576p、720p、1080i、1080p	HDMI IN端子		●	—	—
	COMPONENT VIDEO IN端子		○ ^{b)}	●	—
	VIDEO IN端子		○ ^{b)}	—	●

HDMI OUT端子にHDMIモニターを接続していないとき (HDMI OUT OFF)

「Resolution」の設定	出力信号		HDMI OUT端子	MONITOR COMPONENT VIDEO OUT端子	MONITOR VIDEO OUT端子
	入力信号				
Direct	HDMI IN端子		—	—	—
	COMPONENT VIDEO IN端子		—	●	—
	VIDEO IN端子		—	—	●
Auto	HDMI IN端子		—	—	—
	COMPONENT VIDEO IN端子		—	480i/576i	○
	VIDEO IN端子		—	480i/576i	●
480i/576i、480p/576p	HDMI IN端子		—	—	—
	COMPONENT VIDEO IN端子		—	○ ^{b)}	○
	VIDEO IN端子		—	○ ^{b)}	●
720p、1080i	HDMI IN端子		—	—	—
	COMPONENT VIDEO IN端子		—	○ ^{c)}	—
	VIDEO IN端子		—	○ ^{c)}	●
1080p	HDMI IN端子		—	—	—
	COMPONENT VIDEO IN端子		—	●	—
	VIDEO IN端子		—	—	●

ご注意

● つないだテレビが「Resolution」で選んだ解像度に対応していないときは、映像は正しく出力されません。

● 変換された HDMI 映像出力信号は Deep Color、“x.v.Color”、および 3D には対応していません。

- ：映像は変換あるいは加工されずに出力されます。
- ：映像は出力されます。(特定の解像度で出力される場合は、表中に出力される解像度が記載されています。)
- ^{a)}：映像は自動的に接続しているモニターが対応する最適な解像度に変換されて、出力されます。
- ^{b)}：映像は、「Resolution」で設定されている解像度で出力されます。
- ^{c)}：映像は、「Resolution」で設定されている解像度で出力されます。マクロビジョンによるコンテンツ保護が行なわれている場合、480p/576pの解像度で出力されます。
- ：映像は出力されません。

Playback Resolution

この機能は、USBデバイス、ホームネットワーク、インターネットビデオのコンテンツを対象としています。

- 480i/576i
- 480p/576p
- 720p
- 1080i
- 1080p

出力される映像 解像度 [Playback Resolution]の設定	HDMI OUT端子	MONITOR COMPONENT VIDEO OUT端子	MONITOR VIDEO OUT端子	ZONE 2 COMPONENT VIDEO OUT端子	ZONE 2 VIDEO OUT端子
480i/576i	480i/576i	480i/576i*	480i/576i*	480i/576i*	480i/576i*
480p/576p	480p/576p	480p/576p*	480i/576i*	480p/576p*	480i/576i*
720p (初期設定)	720p	720p*	—	720p*	—
1080i	1080i	1080i*	—	1080i*	—
1080p	1080p	1080i*	—	1080i*	—

* マクロビジョンにより保護された一部のコンテンツを再生する場合には、映像を低解像度で出力したり、出力しないことを知らせる警告メッセージを表示したりすることがあります。

ご注意

- 「この端子では出力できない映像です。」という警告メッセージが表示された場合には、以下の手順を実行してください。
 - ① メインゾーンの入力を「BD」にする。
 - ② 「Playback Resolution」を「480i/576i」または「480p/576p」に変更する。
- USB デバイス、ホームネットワーク、インターネットビデオ経由のコンテンツを再生したときに、画面が表示されなくなった場合には、以下の手順を実行してください。
 - ① メインゾーンの入力を「BD」にする。
 - ② 「Playback Resolution」をより低い解像度に設定にする。

3D Output Settings

この機能は、USBデバイス、ホームネットワーク、インターネットビデオのコンテンツを対象としています。

■ Auto

3D対応コンテンツを3Dで表示するときに選びます。

■ Off

すべてのコンテンツを2Dで表示するときに選びます。

TV Type

この機能は、USBデバイス、ホームネットワーク、インターネットビデオのコンテンツを対象としています。

■ 16:9

ワイドスクリーンテレビやワイドモード機能があるテレビをつないでいるときに選びます。

■ 4:3

ワイドモード機能がない4：3画面のテレビをつないでいるときに選びます。

Screen Format

この機能は、USBデバイス、ホームネットワーク、インターネットビデオのコンテンツを対象としています。

■ Original

ワイドモード機能があるテレビをつないでいるときに選びます。ワイドテレビでも4：3の画像をアスペクト比を変えずに表示します。

■ Fixed Aspect Ratio

画像のアスペクト比を画面サイズに合わせて変更しません。

HDMI 設定

(HDMI Settings)

HDMI端子につないだ機器のための設定ができます。

Subwoofer Level

HDMI接続を通してマルチチャンネルリニアPCM信号が入力されているとき、アクティブサブウーファアのレベルを「0 dB」または「+10 dB」に設定できます。HDMI入力端子をもつ入力ごとに独立してレベルを設定できます。

■ 0 dB

■ Auto

入力ソースの音声ストリームによって自動的に「0 dB」または「+10 dB」に設定します。

■ +10 dB

Audio Out

本機とHDMI接続した再生機からの音声の出力先を設定します。

■ TV+AMP

再生機の音声を本機につないだスピーカーと、本機にHDMI接続されたテレビのスピーカーの両方から再生します。

■ AMP

再生機の音声を本機につないだスピーカーから出力します。マルチチャンネルの音声をそのまま再生可能です。

ご注意

- 「Audio Out」が「TV+AMP」に設定されていると、再生機の音質はチャンネル数、サンプリング周波数など、テレビの性能に影響されます。テレビがステレオ（2ch）スピーカーの場合は、マルチチャンネルのソフトを再生しても、本機の音声出力はテレビと同じステレオ（2ch）になります。
- 本機にプロジェクターなどの映像機器をつないでいるとき、本機につないだスピーカーから音が出力されない場合があります。この場合は、「Audio Out」を「AMP」に設定してください。

- 「Audio Out」を「TV+AMP」に設定しても、Input Settingsメニューの「Audio Input Assign」で音声入力としてHDMI入力端子を選んでいない場合は、テレビから音声は出ません。
- 「Control for HDMI」が「On」のとき、「Audio Out」の設定が自動的に変わる場合があります。

Control for HDMI

HDMI接続した機器のHDMI機器制御機能を有効にします。

- Off
- On

Sound Field

デジタル放送の番組を視聴するときに、オートジャンルセレクター機能を使うかどうかを設定します。詳しくは、「オートジャンルセレクター」(59ページ)をご覧ください。

- Auto
- Manual

Pass Through

本機がスタンバイ状態でもHDMI信号をテレビに出力できるようにします。詳しくは、「本機がスタンバイ中でも再生機器を楽しむ (パススルー)」(61ページ)をご覧ください。

- Off
- On
- Auto

Zone2 Out

HDMI ZONE 2 OUT端子を使用して、2ndゾーンにHDMI信号を出力するかどうかを設定します。

- Off
- On

Priority

メインゾーンと2ndゾーンで同じ入力を利用するときのメインゾーンの優先度を設定します。「Zone2 Out」が「On」に設定されている場合にのみ、設定できません。

■ MAIN & ZONE2

メインゾーンに優先度が設定されないため、メインゾーンと2ndゾーンで同じ入力を使用すると、メインゾーンと2ndゾーンの映像・音声に制限や障害が発生する可能性があります。一方、2ndゾーンでもメインゾーンと同じ映像・音声を視聴することができます。

■ Main Only

メインゾーンに優先度が設定されるため、メインゾーンでは2ndゾーンの操作の影響を受けることなく、映像・音声を視聴することができます。2ndゾーンへは出力されません。

Fast View

入力を切り替えたときに、映像・音声が出力するまでの時間を短くすることができます。HDMI IN 1、IN 2、IN 3、IN 4端子からの入力に対して有効な機能です。「Zone2 Out」が「Off」に設定されている場合にのみ、設定できます。

■ AUTO

通常よりも早くHDMI入力に切り替えることができます。

■ Off

「Fast View」と「Preview for HDMI」機能が無効になります。

ご注意

- 「Control for HDMI」は「Zone2 Out」が「Off」の場合にだけ機能します。
- 「Priority」は「Zone2 Out」を「On」に設定したときに、自動的に設定できるようになります。
- 「Fast View」は「Zone2 Out」を「Off」に設定したときに、自動的に設定できるようになります。

入力設定

(Input Settings)

本機と他機器の接続に関わる設定を調節できます。

Input Edit

各入力について以下の項目を設定します。

■ Watch/Listen

入力をWatchメニュー、Listenメニューのどちらに表示させるかを設定します。

- Watch：Watchメニューに表示されます。
- Listen：Listenメニューに表示されます。
- Watch/Listen：Watchメニュー、Listenメニューの両方に表示されます。
- Hidden：Watchメニュー、Listenメニューのどちらにも表示させません。入力を選ぶときに、使用していない入力をスキップすることができます。

■ Icon

Watch/Listenメニューに表示されるアイコンを設定します。

■ Name

Watch/Listenメニューに表示される名前を設定します。

Audio Input Assign

各入力に割り当てる音声入力端子を設定します。詳しくは「他の映像／音声入力端子を使う」(63ページ)をご覧ください。

■ HDMI

HDMI IN 1/2/3/4/5/6/7/8、None (使用しない)

■ Digital

OPT IN 1/2、COAX IN 1、None (使用しない)

■ Analog

工場出荷時の設定

Video Input Assign

各入力に割り当てる映像入力端子を設定します。詳しくは「他の映像／音声入力端子を使う」(63ページ)をご覧ください。

■ HDMI

HDMI IN 1/2/3/4/5/6/7/8、None (使用しない)

■ Component

COMPONENT IN 1/2、None (使用しない)

■ Analog

工場出荷時の設定

ご注意

「Input Edit」の「Watch/Listen」で「Hidden」、またはGUIを使わずに「INPUT」の「INPUT SKIP (入力スキップ)」(94ページ)で「HIDDEN」に設定した入力は、本体のINPUT SELECTORでも選択できなくなります。

ネットワーク設定

(Network Settings)

ネットワークの設定をすることができます。

Internet Settings

ネットワークの設定を確認したり変更したりできます。以下の項目については、設定を自動または手動で変更することができます。

- IP Address
- DNS
- Proxy Server

あらかじめ本機をネットワークに接続してください。詳しくは「準備5：ネットワークに接続する」(34ページ)をご覧ください。

LANポート設定

後面の各LANポートの有効、無効を設定します。後面の4つのLANポートのうち、有効にしたいポートにチェックを付けます。本機は、有効に設定されたLANポートを利用してネットワークにアクセスします。未使用ポートを無効にすることにより、消費電力を減らすことができます。また、ルータやハブなどに接続されていないポート名はグレイアウトで表示されます。

Connection Server Settings

接続しているDLNAサーバーを表示するかどうかを設定します。

Renderer Options

■ Renderer Name

本機のレンダラー名を表示します。

■ Auto Access Permission

新たに検出されたDLNAコントローラーからの自動アクセスの可否を設定します。

Renderer Access Control

DLNAコントローラーからのコマンドを受け付けるかどうかを設定します。

External Control

ホームネットワーク上の「ES Remote」から本機を操作する機能を有効にします。

■ Off

■ On

Network Standby

本機がスタンバイ状態であっても、ネットワーク機能を有効にして、本機のスイッチングハブを機能させたり、ネットワークコントローラーや「ES Remote」から本機を操作したりできるようにします。また、ネットワークスタンバイ状態時に、本機の電源を入れたあとのGUIやネットワーク機能の起動時間を短縮します。

■ Off

ネットワークスタンバイ機能が無効になります。本機がスタンバイ状態のときは、通常のスタンバイ状態で動作します。

■ On

ネットワークスタンバイ機能が有効になります。本機がスタンバイ状態のとき、ネットワークスタンバイ状態で動作します。

インターネットサービス設定

(Internet Services Settings)

Parental Control Password

視聴制限機能のパスワードを設定、変更します。パスワードでインターネットビデオの再生制限を設定できます。

Parental Control Area Code

一部のインターネットビデオでは地理的地域によって再生が制限され、特定のシーンがブロックされたり、別のシーンに差し換えられたりすることがあります。画面上の指示にしたがって設定を行ってください。

コード	地域	コード	地域
2044	Argentina	2363	Malaysia
2046	Austria	2376	Netherlands
2057	Belgium	2390	New Zealand
2090	Chile	2379	Norway
2093	Colombia	2427	Pakistan
2115	Denmark	2424	Philippines
2165	Finland	2428	Poland
2200	Greece	2436	Portugal
2219	Hong Kong	2489	Russia
2248	India	2501	Singapore
2238	Indonesia	2149	Spain
2239	Ireland	2499	Sweden
2254	Italy	2086	Switzerland
2304	Korea	2543	Taiwan
2333	Luxembourg	2528	Thailand

Internet Video Access

インターネットビデオのコンテンツ再生時に、パスワードの入力を必要とするかどうかを設定します。画面上の指示にしたがって設定を行ってください。

■ On

■ Off

Internet Video Parental Control

一部のインターネットビデオでは年齢によって再生が制限され、特定のシーンがブロックされたり、別のシーンに差し換えられたりすることがあります。画面上の指示にしたがって設定を行ってください。

Internet Video Unrated

視聴制限されていないインターネットビデオの再生の可否を設定します。

■ Allow

視聴制限されていないインターネットビデオの再生を許可します。

■ Block

視聴制限されていないインターネットビデオの再生をブロックします。

ゾーン設定

(Zone Settings)

メインゾーン、2ndゾーンの設定ができます。

Zone Control

2ndゾーンのオン／オフを切り換えるには

2ndゾーンの操作のオン／オフを切り換えることができます。

- 1 オン／オフを切り換えたいゾーンを選び、**+**を押す。
- 2 「On」または「Off」を選び、**+**を押す。
 - On
 - Off

各ゾーンのソースを選ぶには

ゾーンに出力するソースを選ぶことができます。
2ndゾーンには映像信号と音声信号が出力されます。

- 1 映像／音声信号を出力したいゾーンを選び、**+**を押す。
- 2 「Input」を選び、**+**を押す。
- 3 入力を選び、**+**を押す。

2ndゾーンの音量を調節するには

SURROUND BACK/FRONT HIGH/FRONT B/
ZONE2端子を2ndゾーン接続で使用している場合は、
2ndゾーンの音量を調節することができます。
「Line Out」が「Variable」に設定されている場合は、
「Zone Control」でも音量を調節することができます。
2ndゾーンの音量を2ndゾーンからリモコンで調節し
たい場合は、「本機を2ndゾーンで操作する」(57ページ)
をご覧ください。

- 1 音量を調節したいゾーンを選び、**+**を押す。
- 2 「Volume」を選び、**+**を押す。
- 3 音量を調節し、**+**を押す。

ご注意

- 以下の場合は、2ndゾーンの音量をプリセットできません。
 - SURROUND BACK/FRONT HIGH/FRONT B/ZONE2
端子を、サラウンドバック、フロントハイスピーカー用に
使用している、またはバイアンプ接続で使用している。
 - 「Line Out」が「Fixed」に設定されている。

Zone Setup

メインゾーン／2ndゾーンの音量をプリセットするには

本機の電源を入れたときの各ゾーンの音量をプリセットすることができます。

- 1 音量をプリセットしたいゾーンを選び、**+**を押す。
- 2 「Preset Volume」を選び、**+**を押す。
- 3 音量を調節し、**+**を押す。
調節中は、MASTER VOLUMEの値にかかわらず、
調節した音量で音出力されます。
「Off」に設定した場合は、各ゾーンは前回電源を
切ったときの音量で起動します。

Line Out

ZONE 2 AUDIO OUT端子の音量調節を「Variable
(可変)」または「Fixed (固定)」に設定できます。詳
しくは、「2ndゾーンの音量調節の設定をする」(56
ページ)をご覧ください。

■ Fixed

■ Variable

システム設定

(System Settings)

本機の各種設定を変えることができます。

Auto Standby

操作や信号の入力がないときに、本機のメインゾーンを自動的にスタンバイ状態に切り換えます。

■ Off

スタンバイ状態に切り換えません。

■ On

約30分後にスタンバイ状態に切り換えます。

Software Update Notification

新しいソフトウェア情報をGUI上に通知するかどうかを設定します。

■ On

■ Off

本機のソフトウェアをアップデートするには

本機のソフトウェアをアップデートするには「ネットワークアップデート (Network Update)」（89ページ）をご覧ください。

Initialize Personal Information

インターネットコンテンツリストや「お気に入り一覧」など、インターネットビデオに関連する個人情報を消去することができます。

System Information

本機のソフトウェアバージョンを表示します。

EULA

ソフトウェア使用許諾をテレビ画面に表示します。

Software License

テレビ画面に、ソフトウェアライセンス情報を表示します。

ご注意

- 「Auto Standby」は以下の場合は動きません。
 - スリープモードの場合
 - USB デバイス、iPod/iPhone、ホームネットワーク、インターネットビデオのコンテンツを再生している。
- 以下の場合、新しいソフトウェアバージョンの情報は表示されません。
 - すべて最新バージョンが使用されている場合
 - ネットワークに接続できない、サーバがダウンしているなどの理由によって、本機がデータを取得できない場合

ネットワークアップデート

(Network Update)

アップデートにより本機の機能を向上させることができます。

アップデート機能の情報については、下記のウェブサイト参照してください。

<http://www.sony.jp/support/audio/>

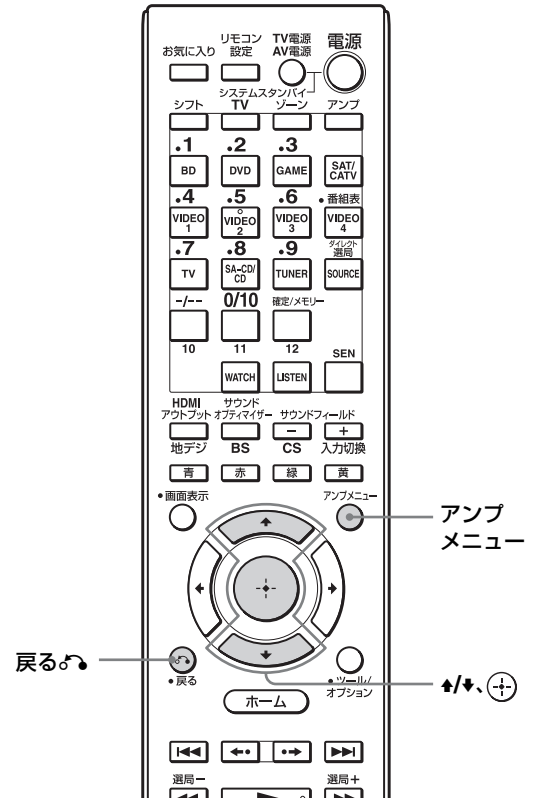
アップデート中は、GUIと表示窓が消え、本体前面のI/Oボタン上部のON/STANDBYランプが緑色で点滅します。

アップデートが完了すると、本機は自動的に再起動します。

アップデートの完了までに約50分かかります。なお、インターネットの接続速度によってはアップデート完了に要する時間が異なります。

GUIを使わずに本機を操作する

本機をテレビにつないでない場合、GUIを使わずに本体の表示窓の表示で操作できます。



設定を変更する

表示窓のメニューを使う

- 1 本機の電源を入れる。
- 2 アンプメニューボタンを押す。
本体の表示窓にメニューが表示されます。

例:「SPEAKER」の場合



ご注意

ソフトウェアのアップデート中に本機の電源を切ったり、LANケーブルを抜いたりしないでください。故障の原因となります。

3 ↑/↓をくり返し押ししてメニューを選び、⊕を押す。

4 ↑/↓をくり返し押しして項目を選び、⊕を押す。

項目の設定値が選択可能になります。



5 ↑/↓をくり返し押ししてお好みの設定値を選び、⊕を押す。

設定値が確定します。



1つ前の手順に戻るには

戻る ⏪ ボタンを押す。

メニュー一覧 (表示窓)

各メニューから以下のオプションが設定できます。
「■■」はそれぞれの項目の設定値が入ります。

メニュー	項目	設定値
<AUTO CAL> (自動音場補正機能設定)	A.CAL START (自動音場補正開始)	
	FH USE: ■? (フロントハイスピーカー使用確認)	Y、N
	5 4 3 2 1	
	TONE	
	T.S.P.	
	WOOFER	
	COMPLETE (測定完了)	RETRY、SAVE EXIT、WRN CHECK、PHASE INFO.、 DIST. INFO.、LEVEL INFO.、EXIT
	C.MATCH? ■■■■	Yes、No
	W-■■■■:4■ (警告コード)	FL、FR、CNT、SL、SR、SBR、SBL、SW、LH、RH : 0、 1、2、3、4
	NO WARN (警告なし)	
	■■■■:■■■■ (位相の情報)	FL、FR、CNT、SL、SR、SBR、SBL、SW、LH、RH : OUT、IN
	■■■■:■■■■■■■■ (距離の情報)	FL、FR、CNT、SL、SR、SBR、SBL、SW、LH、RH
	■■■■:■■■■ (レベルの情報)	FL、FR、CNT、SL、SR、SBR、SBL、SW、LH、RH
	E-■■■:3■ (エラーコード)	F、SR、SB : 0、1、2、3、4
	RETRY? ■■■■ (再測定)	YES、NO
	CANCEL (キャンセル)	
	CAL TYPE (補正のタイプ)	FULL FLAT、ENGINEER、 FRONT REF、OFF
	A.P.M. (自動位相マッチング機能)	A.P.M. AUTO、A.P.M. OFF
	POSITION (リスニングポジション)	POS.1、POS.2、POS.3
	NAME IN (名前の入力)	この機能の参考として、「[Position]」に名前を付けるには (75ページ) をご覧ください。

メニュー	項目	設定値
<LEVEL> (レベル設定)	TEST TONE (テストトーン)	OFF、FL~RH (AUTO)、FL~RH (FIX)
	P. NOISE (フェーズノイズ)	OFF、FL/FR、FL/CNT、CNT/FR、FR/SR、SR/SBR、SR/SB、SBR/SBL、SR/SL、SB/SL、SBL/SL、SL/FL、LH/RH、FL/SR、SL/FR、FL/RH、LH/FR
	P. AUDIO (フェーズオーディオ)	OFF、FL/FR、FL/CNT、CNT/FR、FR/SR、SR/SBR、SR/SB、SBR/SBL、SR/SL、SB/SL、SBL/SL、SL/FL、LH/RH、FL/SR、SL/FR、FL/RH、LH/FR
	FL LEVEL (フロントスピーカー (左) レベル)	FL-10.0 dB~FL+10.0 dB (0.5 dB単位)
	FR LEVEL (フロントスピーカー (右) レベル)	FR-10.0 dB~FR+10.0 dB (0.5 dB単位)
	CNT LEVEL (センタースピーカーレベル)	CNT-20.0 dB~CNT+10.0 dB (0.5 dB単位)
	SL LEVEL (サラウンドスピーカー (右) レベル)	SL-20.0 dB~SL+10.0 dB (0.5 dB単位)
	SR LEVEL (サラウンドスピーカー (右) レベル)	SR-20.0 dB~SR+10.0 dB (0.5 dB単位)
	SB LEVEL (サラウンドバックスピーカーレベル)	SB-20.0 dB~SB+10.0 dB (0.5 dB単位)
	SBL LEVEL (サラウンドバックスピーカー (左) レベル)	SBL-20.0 dB~SBL+10.0 dB (0.5 dB単位)
	SBR LEVEL (サラウンドバックスピーカー (右) レベル)	SBR-20.0 dB~SBR+10.0 dB (0.5 dB単位)
	LH LEVEL (フロントハイスピーカー (左) レベル)	LH-20.0 dB~LH+10.0 dB (0.5 dB単位)
	RH LEVEL (フロントハイスピーカー (右) レベル)	RH-20.0 dB~RH+10.0 dB (0.5 dB単位)
	SW LEVEL (サブウーファーレベル)	SW-20.0 dB~SW+10.0 dB (0.5 dB単位)

メニュー	項目	設定値
<SPEAKER> (スピーカー設定)	SP PATTERN (スピーカーパターン)	5/2.1~2/0 (20パターン)
	CNT LIFT (センタースピーカーリフトアップ)	OFF、1~10
	FRT SIZE (フロントスピーカーサイズ)	LARGE、SMALL
	CNT SIZE (センタースピーカーサイズ)	LARGE、SMALL
	SUR SIZE (サラウンドスピーカーサイズ)	LARGE、SMALL
	FH SIZE (フロントハイスピーカーサイズ)	LARGE、SMALL
	SB ASSIGN (サラウンドバックスピーカーの割り当て)	OFF、BI-AMP、ZONE2、SPK B
	FL DIST. (フロントスピーカー (左) までの距離)	FL 1.0~FL 10.0 (m) (0.01m単位)
	FR DIST. (フロントスピーカー (右) までの距離)	FR 1.0~FR 10.0 (m) (0.01m単位)
	CNT DIST. (センタースピーカーまでの距離)	CNT 1.0~CNT 10.0 (m) (0.01m単位)
	SL DIST. (サラウンドスピーカー (左) までの距離)	SL 1.0~SL 10.0 (m) (0.01m単位)
	SR DIST. (サラウンドスピーカー (右) までの距離)	SR 1.0~SR 10.0 (m) (0.01m単位)
	SB DIST. (サラウンドバックスピーカーまでの距離)	SB 1.0~SB 10.0 (m) (0.01m単位)
	SBL DIST. (サラウンドバックスピーカー (左) までの距離)	SBL 1.0~SBL 10.0 (m) (0.01m単位)
	SBR DIST. (サラウンドバックスピーカー (右) までの距離)	SBR 1.0~SBR 10.0 (m) (0.01m単位)
	LH DIST. (フロントハイスピーカー (左) までの距離)	LH 1.0~LH 10.0 (m) (0.01m単位)
	RH DIST. (フロントハイスピーカー (右) までの距離)	RH 1.0~RH 10.0 (m) (0.01m単位)
	SW DIST. (サブウーファーまでの距離)	SW 1.0~SW 10.0 (m) (0.01m単位)
	DIST. UNIT (距離の単位)	METER、FEET
	FRT CROSS (フロントスピーカーのクロスオーバー周波数)	CROSS 40 Hz~CROSS 200 Hz (10 Hz単位)
	CNT CROSS (センタースピーカーのクロスオーバー周波数)	CROSS 40 Hz~CROSS 200 Hz (10 Hz単位)
	SUR CROSS (サラウンドスピーカーのクロスオーバー周波数)	CROSS 40 Hz~CROSS 200 Hz (10 Hz単位)
	FH CROSS (フロントハイスピーカーのクロスオーバー周波数)	CROSS 40 Hz~CROSS 200 Hz (10 Hz単位)

メニュー	項目	設定値
<INPUT> (入力設定)	NAME IN (名前の入力)	この機能の参考として、「Input Edit」(84ページ)をご覧ください。
	INPUT SKIP (入カスキップ)	SHOWN、HIDDEN
	H.A. ASSIGN (HDMI音声入力の割り当て)	この機能の参考として、「他の映像／音声入力端子を使う」(63ページ)をご覧ください。
	H.V. ASSIGN (HDMI映像入力の割り当て)	この機能の参考として、「他の映像／音声入力端子を使う」(63ページ)をご覧ください。
	A. ASSIGN (デジタル音声入力の割り当て)	この機能の参考として、「他の映像／音声入力端子を使う」(63ページ)をご覧ください。
<SURROUND> (サラウンド設定)	HD-D.C.S. TYP (HD-D.C.S.のエフェクトタイプ)	DYNAMIC、THEATER、STUDIO
	H. GAIN (PLIIZ Heightのゲイン調整)	HIGH、MID、LOW
<EQ> (イコライザー 設定)	ALL BASS (全スピーカーの低域レベル)	ALL B. -10.0 dB～ALL B. +10.0 dB (0.5 dB単位)
	ALL TREBLE (全スピーカーの高域レベル)	ALL T. -10.0 dB～ALL T. +10.0 dB (0.5 dB単位)
	FRT BASS (フロントスピーカーの低域レベル)	FRT B. -10.0 dB～FRT B. +10.0 dB (0.5 dB単位)
	FRT TREBLE (フロントスピーカーの高域レベル)	FRT T. -10.0 dB～FRT T. +10.0 dB (0.5 dB単位)
	CNT BASS (センタースピーカーの低域レベル)	CNT B. -10.0 dB～CNT B. +10.0 dB (0.5 dB単位)
	CNT TREBLE (センタースピーカーの高域レベル)	CNT T. -10.0 dB～CNT T. +10.0 dB (0.5 dB単位)
	SUR BASS (サラウンドスピーカーの低域レベル)	SUR B. -10.0 dB～SUR B. +10.0 dB (0.5 dB単位)
	SUR TREBLE (サラウンドスピーカーの高域レベル)	SUR T. -10.0 dB～SUR T. +10.0 dB (0.5 dB単位)
	FH BASS (フロントハイスピーカーの低域レベル)	FH B. -10.0 dB～FH B. +10.0 dB (0.5 dB単位)
	FH TREBLE (フロントハイスピーカーの高域レベル)	FH T. -10.0 dB～FH T. +10.0 dB (0.5 dB単位)
<ZONE> (マルチゾーン 設定)	P.VOL MAIN (メインゾーンの音量プリセット)	OFF、MIN、1～73、MAX
	P.VOL ZONE2 (2ndゾーンの音量プリセット)	OFF、MIN、1～73、MAX
	Z2 LINEOUT (2ndゾーンのライン出力レベル切り換え)	FIXED、VARIABLE
<TUNER> (チューナー設定)	FM MODE	STEREO、MONO
	NAME IN (プリセット放送局に名前を付ける)	この機能の参考として、「登録した放送局に名前をつけるには」(47ページ)をご覧ください。

メニュー	項目	設定値	
<AUDIO> (音声設定)	D.L.L. (Digital Legato Linear)	D.L.L. AUTO2、D.L.L. AUTO1、D.L.L. OFF	
	OPTIMIZER (サウンドオブティマイザー)	NORMAL、LOW、OFF	
	SW L.P.F. (サブウーファーローパスフィルター)	L.P.F. ON、L.P.F. OFF	
	SW MUTING (サブウーファー消音)	ON、OFF	
	A/V SYNC (音声と映像出力の同期)	HDMI AUTO、0 ms~300 ms (10 ms単位)	
	DUAL MONO (二重音声モード)	MAIN/SUB、MAIN、SUB	
	DEC. PRIO (デジタル音声入力デコードプライオリティ)	DEC. AUTO、DEC. PCM	
	D. RANGE (ダイナミックレンジ圧縮)	COMP. ON、COMP. AUTO、COMP. OFF	
<VIDEO> (映像設定)	RESOLUTION (アナログ映像信号の変換)	DIRECT、AUTO、480/576i、480/576p、720p、1080i、1080p	
<HDMI> (HDMI設定)	CTRL: HDMI (HDMI機器制御機能の設定)	CTRL ON、CTRL OFF	
	PASS THRU (パススルー)	ON、AUTO、OFF	
	ZONE2 OUT (2ndゾーンへの出力)	ON、OFF	
	PRIORITY (メインゾーンの優先)	MAIN&ZONE2、MAIN ONLY	
	AUDIO OUT (HDMI音声出力の設定)	AMP、TV+AMP	
	SOUND.FIELD (サウンドフィールド)	AUTO、MANUAL	
	SW LEVEL (HDMIのサブウーファーレベル)	SW AUTO、SW +10 dB、SW 0 dB	
	FAST VIEW (ファストビュー機能)	AUTO、OFF	
	<SYSTEM> (システム設定)	NET STBY (ネットワークスタンバイ機能)	STBY ON、STBY OFF
		AUTO STBY (オートスタンバイ機能)	STBY ON、STBY OFF
VER ■■■■ (ソフトウェアのバージョン)			

表示を切り換えるには

表示を切り換えて、サウンドフィールドなどの設定を確認できます。

- 1 情報を確認したい入力を選ぶ。
- 2 本体のDISPLAY MODEボタンをくり返し押す。
DISPLAY MODEボタンを押すたびに、入力→サウンドフィールド→音量→入力名の順に表示が切り換わります。
FM/AMラジオを聞いているときは、DISPLAY MODEボタンを押すたびに、放送局名→周波数→サウンドフィールド→音量→入力名の順に表示が切り換わります。

リモコンを使う

リモコンで他機を操作する

付属のリモコンを使って、他にお使いの機器を操作することができます。

初期設定では、ソニー製の機器が操作できるように設定されています。

お使いの機器に合わせて設定を変更すると、初期設定では操作できないソニー製機器や他社製の機器を操作することができます（97ページ）。

接続機器を操作できる本機のリモコンのボタン

ボタン	選ばれている機器										
	テレビ	ビデオデッキ	DVDレコーダー/プレーヤー	ブルーレイディスクレコーダー	HDDレコーダー	PSX	ビデオCDプレーヤー/LDプレーヤー	BSデジタル/デジタルCSチューナー	カセットデッキ(AとB)	DATデッキ	CDプレーヤー/MDデッキ
AV電源	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
数字ボタン	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
番組表	●		●	●	●	●		●			
-/--	●	●	●	●	●	●	●		●		●
確定/メモリー	●	●	●	●	●	●	● ^{a)}	●	●	●	●
カラーボタン	●		●	●	●			●			
d	●		●	●				●			
ツール/オプション	●		●	●	●	●					
画面表示	●	●	●	●	●	●	●	●			●
戻る	●		●	●	●	●	●	●			
⏪/⏩/⏴/⏵、ホーム	●	●	●	●	●	●		●			
⏮/⏭	●	●	●	●	●	●	●		● ^{b)}	●	●
⏪/⏩	●		●	●	●	●					
⏮/選局-、 ⏭/選局+	●	●	●	●	●	●	●		●	●	●
⏮、⏪、⏭	●	●	●	●	●	●	●		●	●	●
消音、 音量+/-	●										
プリセット+/-、 TVチャンネル+/-	●	●	●	●	●		● ^{a)}	●			
トップメニュー、 ポップアップ/メニュー			●	●		●					
音声切換	●	●	●	●	●	●					
字幕	●		●	●	●	●					

a) LDプレーヤーのみ操作できます。

b) デッキ B のみ操作できます。

接続した機器を操作する

- 1 操作したい接続機器に対応した入力切り換え用ボタンを押す。
- 2 下の表で●の付いたボタンを使って、それぞれの機器を操作する。

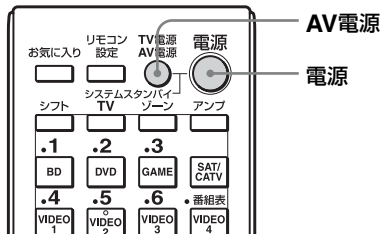
ご注意

お使いの機器によっては、一部の機能が操作できないことがあります。

すべての接続機器の電源を切る

(SYSTEM STANDBY)

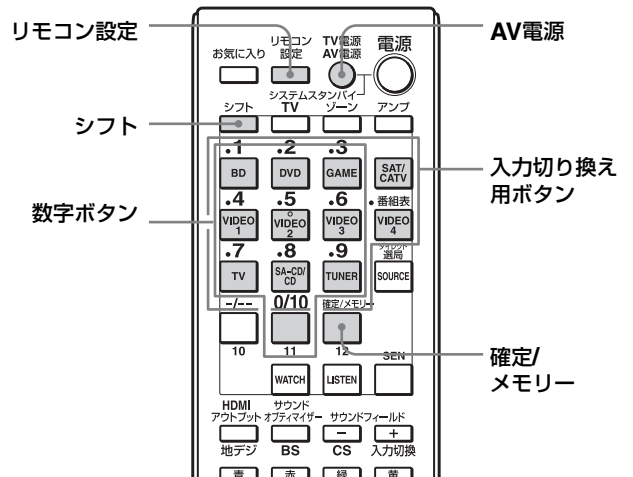
本機がスタンバイ状態であっても、2ndゾーンの電源は入ったままです。各ゾーンも含めてすべてのソニー製機器の電源を切るには、リモコンの電源ボタンとAV電源ボタンを同時に押します。



お使いの機器に合わせてリモコンコードを設定する

本機につないだ機器を操作できるようにリモコンを設定できます。また、初期設定のままでは操作できないソニー製の機器や他社製の機器も設定できます。

例：本体後面のVIDEO 1 IN端子につないだ他社製のビデオデッキを、このリモコンで操作できるように設定するとき



1 リモコン設定ボタンを押しながら、AV電源ボタンを押す。

リモコン設定ボタンが点滅します。

2 リモコン設定ボタンが点滅している間に、入力切り換え用ボタン(TV ボタンを含む)を押して設定したい入力を選ぶ。

例えば、VIDEO 1 IN端子につないだビデオデッキを操作したいときは、VIDEO 1を選びます。リモコン設定ボタンとシフトボタンが点灯します。TUNERやSOURCEなどプログラムできない入力を選んだ場合は、リモコン設定ボタンが点滅を続けます。

3 数字ボタンを押して、機器とメーカー別の対応コードを入力する。

コードが複数ある場合は、そのうちの1つを入力します。

4 確定 / メモリーボタンを押す。

有効な対応コードが入力されると、リモコン設定ボタンが2回点滅し、設定モードが終了します。

設定操作を途中でやめるときは

手順の途中で、リモコン設定ボタンを押します。

機器・メーカー別の対応コード

以下の対応コードを使って他社製の機器や、初期設定のままでは操作できないソニー製機器を操作できるように設定します。それぞれの機器が受け付けるリモコン信号はモデルや年式によっても異なりますので、1つの機器に複数のコードが割り当てられている場合があります。ある1つのコードを使っても設定できない場合は、別のコードを使って設定してみてください。

CDプレーヤーの対応コード

メーカー	コード
SONY	101、102、103
DENON	104、123
JVC	105、106、107
KENWOOD	108、109、110
MAGNAVOX	111、116
MARANTZ	116
ONKYO	112、113、114
PANASONIC	115
PHILIPS	116
PIONEER	117
TECHNICS	115、118、119
YAMAHA	120、121、122

DATデッキの対応コード

メーカー	コード
SONY	203
PIONEER	219

カセットデッキの対応コード

メーカー	コード
SONY	201、202
DENON	204、205
KENWOOD	206、207、208、209
NAKAMICHI	210
PANASONIC	216
PHILIPS	211、212
PIONEER	213、214
TECHNICS	215、216
YAMAHA	217、218

MDデッキの対応コード

メーカー	コード
SONY	301
DENON	302
JVC	303
KENWOOD	304

HDDレコーダーの対応コード

メーカー	コード
SONY	307、308、309

ブルーレイディスクレコーダー／プレーヤーの対応コード

メーカー	コード
SONY	310、311、312
LG	337
PANASONIC	335
SAMSUNG	336

PSXの対応コード

メーカー	コード
SONY	313、314、315

DVDプレーヤーの対応コード

メーカー	コード
SONY	401、402、403
BROKSONIC	424
DENON	405
HITACHI	416
JVC	415、423
MITSUBISHI	419
ORITRON	417
PANASONIC	406、408、425
PHILIPS	407
PIONEER	409、410
RCA	414
SAMSUNG	416、422
TOSHIBA	404、421
ZENITH	418、420

ご注意

- TV ボタンに登録できるのは、500 番台のコードのみです。
- 対応コードは、各メーカーの最新情報に基づいて決められています。ただし、機器によっては一部またはすべての対応コードに反応しない場合もありますので、あらかじめご了承ください。

- お使いの機器によっては、どの入力切り換え用ボタンも機能しないことがあります。

DVDレコーダーの対応コード

メーカー	コード
SONY	401、402、403

テレビの対応コード

メーカー	コード
SONY	501、502
AIWA	501、536、539
AKAI	503
AOC	503
CENTURION	566
CORONADO	517
CURTIS-MATHES	503、551、566、567
DAYTRON	517、566
DAEWOO	504、505、506、507、515、544
FISHER	508、545
FUNAI	548
FUJITSU	528
GOLDSTAR/LG	503、512、515、517、534、544、556、568
GRUNDIG	511、533、534
HITACHI	503、513、514、515、517、519、544、557、571
ITT/NOKIA	521、522
J.C.PENNY	503、510、566
JVC	516、552
KMC	517
MAGNVOX	503、515、517、518、544、566
MARANTZ	527
mitsubishi/MGA	503、519、527、544、566、568
NEC	503、517、520、540、544、554、566
NORDMENDE	530、558
NOKIA	521、522、573、575
PANASONIC	509、524、553、559、572
PHILIPS	515、518、557、570、571
PHILCO	503、504、514、517、518
PIONEER	509、525、526、540、551、555
PORTLAND	503
QUASAR	509、535
RADIO SHACK	503、510、527、565、567
RCA/PROSCAN	503、510、523、529、544
SAMSUNG	503、515、517、531、532、534、544、556、557、562、563、566、569
SAMPO	566
SABA	530、537、547、549、558
SANYO	508、545、546、560、567
SCOTT	503、566
SEARS	503、508、510、517、518、551
SHARP	517、535、550、561、565

メーカー	コード
SYLVANIA	503、518、566
THOMSON	530、537、547、549
TOSHIBA	535、539、540、541、551
TELEFUNKEN	530、537、538、547、549、558
TEKNIKA	517、518、567
WARDS	503、517、566
YORK	566
ZENITH	542、543、567
GE	503、509、510、544
LOEWE	515、534、556
VISIO	576、577

LDプレーヤーの対応コード

メーカー	コード
SONY	601、602、603
PIONEER	606

ビデオCDプレーヤーの対応コード

メーカー	コード
SONY	605

ビデオデッキの対応コード

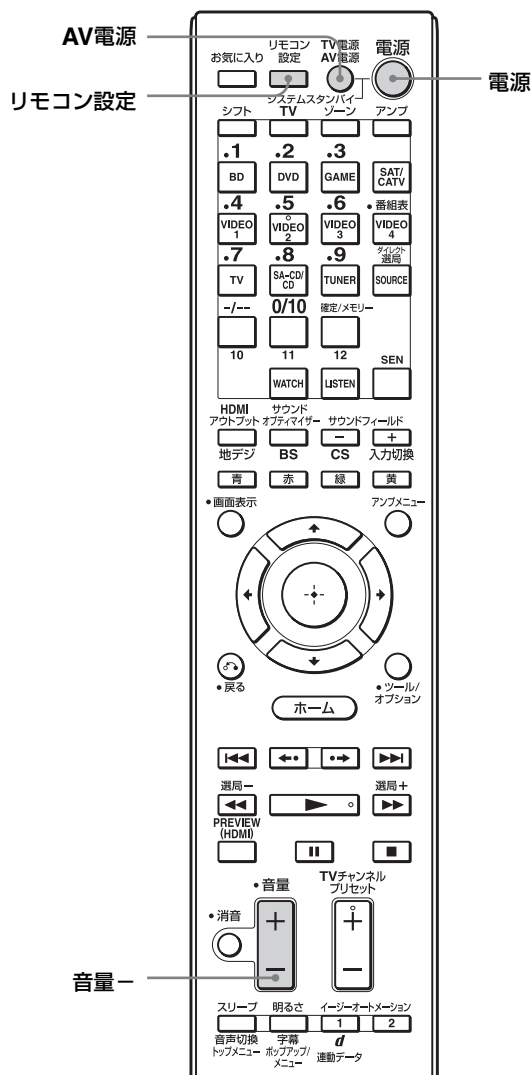
メーカー	コード
SONY	701、702、703、704、705、706
AIWA*	710、750、757、758
BLAUPUNKT	740
EMERSON	750
FISHER	717、720
GENERAL ELECTRIC (GE)	722、730
GOLDSTAR/LG	723、753
HITACHI	722、725、729、741
ITT/NOKIA	717
JVC	726、727、728、736
MAGNAVOX	730、731、738
mitsubishi/MGA	732、733、734、735
NEC	736
PANASONIC	729、730、737、738、739、740
PHILIPS	729、730、731
PIONEER	729
RCA/PROSCAN	722、729、730、731、741、747
SAMSUNG	742、743、744、745
SANYO	717、720、746
SHARP	748、749
TOSHIBA	747、756

*アイワのコードを設定してもアイワ製のビデオデッキを操作できない場合は、ソニーのコードを入力してください。

BSデジタルチューナー／デジタルCSチューナーの対応コード

メーカー	コード
SONY	801、802、803、804、824、825、865
AMSTRAD	845、846
BskyB	862
GENERAL	866
ELECTRIC (GE)	
GRUNDING	859、860
HUMAX	846、847
THOMSON	857、861、864、876
PACE	848、849、850、852、862、863、864
PANASONIC	818、855
PHILIPS	856、857、858、859、860、864、874
NOKIA	851、853、854、864
RCA/PROSCAN	866、871
HITACHI/BITA	868
HUGHES	867
JVC/Echostar/ Dish Network	873
MITSUBISHI	872
SAMSUNG	875
TOSHIBA	869、870

リモコンを初期設定状態にする



- 1** 音量-ボタンを押したまま電源ボタンを押し、そのままさらにAV電源ボタンを押す。
リモコン設定ボタンが3回点滅します。
- 2** すべてのボタンを離す。
リモコンのすべての設定（登録したデータなど）が消去されます。

使用上のご注意

設置場所について

電源プラグは容易に手が届く場所にあるコンセントに接続してください。次のような場所には置かないでください。

- ぐらついた台の上や不安定な場所。
- じゅうたんや布団の上。
- 湿気の多い所、風通しの悪い所。
- ほこりの多い所。
- 密閉された所。
- 直射日光が当たる所、湿度が高い所。
- 極端に寒い所。
- テレビやビデオデッキ、カセットデッキから近い所。
(テレビやビデオデッキ、カセットデッキといっしょに使用するとき、近くに置くと、雑音が入ったり、映像が乱れたりすることがあります。特に室内アンテナのときに起こりやすいので屋外アンテナの使用をおすすめします。)

使用中の本体の温度上昇について

使用中、本体の温度がかなり上昇しますが、故障ではありません。

特に、大音量で鳴らし続けると、本体キャビネットの天板や側板、底板はかなり*熱くなります。このようなときは、キャビネットに触れないようにしてください。火傷などのけがの原因になります。

また、密閉した場所に置いて使用しないでください。温度上昇を防ぐため、風通しのよい所でお使いください。

*天板は触ってられないほどに熱くなることがあります。

ステレオを聞くときのエチケット

ステレオで音楽をお楽しみになるときは、隣近所に迷惑がかからないような音量でお聞きください。特に、夜は小さめな音でも周囲にはよく通るものです。

窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるなどお互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。このマークは音のエチケットのシンボルマークです。



その他

可燃性ガスのエアゾールやスプレーを使用しないでください。清掃用や潤滑用などの可燃性ガスを本機に使用すると、モーターやスイッチの接点、静電気などの火花や高温部品が原因で引火し、爆発や火災が発生する恐れがあります。

本体のお手入れのしかた

キャビネットやパネル面の汚れは、柔らかい乾いた布でふいてください。シンナーやベンジン、アルコールなどは表面を傷めますので使わないでください。

故障かな？と思ったら

修理に出す前に、もう一度点検してください。

それでも正常に動作しないときは、ソニーの相談窓口（裏表紙）へお問い合わせください。

全般

症状	原因と対応のしかた
本機の電源が自動的に切れる	→ 「Auto Standby」が「On」に設定されている（88ページ）。 → スリープタイマー機能が働いている（67ページ）。 → PROTECTORが働いている（110ページ）。
本機の電源が自動的に入る	→ 「Control for HDMI」が「On」または「Pass Through」が「Off」に設定されている場合は、つないだ機器を操作すると本機の電源が入ることがあります。
映像も音も出ない、または乱れる	→ 本機をテレビやビデオデッキ、カセットデッキなどの機器の近くに置いている。本機をテレビやビデオデッキ、カセットデッキといっしょに使用するとき、近くに置くと、雑音が入ったり、映像が乱れたりすることがあります。特に室内アンテナのときに起こりやすいので、屋外アンテナの使用をおすすめします。
天板が熱い	→ アンプ特有の症状で、故障ではありません。スタンバイ状態時でも「Control for HDMI」、「Network Standby」のいずれかが「On」になっている場合、「Pass Through」が「On」または「Auto」、または2ndゾーンの電源が入っている場合は、天板が熱くなることがあります。これは内部回路が部分的に通電状態となっているためであり、異常ではありません。

映像

症状	原因と対応のしかた
映像の種類に関わらずテレビ画面に映像が出ない、または明瞭でない	→ 適切な入力を選ぶ（40ページ）。 → テレビの入力モードを確認する。 → テレビをオーディオ機器から離す。 → 映像入力の割り当てを正しく設定する（63ページ）。 → 入力信号を本機でアップコンバートしている場合、入力と同じ信号にする（15ページ）。 → ケーブルの接続を確認する。 → 再生機器によっては、機器側で設定が必要な場合があります。各接続機器の取扱説明書も参照してください。
映像が音声より遅れる	→ HDMI端子につないだ機器や再生するソースによっては、映像が音声より遅れることがあります。その場合は、Audio Settingsの「AV Sync」の設定を変更してください（79ページ）。
録画ができない	→ 各機器が正しくつながっているか確認する（24ページ）。 → 入力切り換え用ボタンで録画したい機器を選ぶ（40ページ）。 → 録画する映像信号に応じて録画機器の接続を確認する。アナログ入力信号（コンポジット映像）は、アナログ出力端子からのみ出力されます。 → HDMI IN端子から入力された映像信号は録画できません。 → 一部のソースにはコピー防止信号が含まれています。このような場合は、ソースからの録画ができないことがあります。 → 「Auto Standby」を「Off」に設定する（88ページ）。コンポジット映像信号のみを録画中は、本機のオートスタンバイ機能が働き、録画が中断されることがあります。

症状	原因と対応のしかた
<p>特定の種類の映像が出ない、または乱れる</p>	<p>COMPONENT VIDEO OUT端子</p> <ul style="list-style-type: none"> → テレビがCOMPONENT VIDEO OUT端子から出力される信号の解像度に対応していない可能性があります。このような場合は、本機で適切な解像度を選んでください（80ページ）。 → 著作権保護情報が入っている映像信号の解像度を変換するとき、COMPONENT VIDEO MONITOR OUT端子には解像度の制限があります。COMPONENT VIDEO MONITOR OUT端子への出力は480p/576pの解像度までとなります。 <p>HDMI OUT端子</p> <ul style="list-style-type: none"> → HDMI信号の出力が「OFF」に設定されている。その場合、HDMIアウトボタンを押して「HDMI A」または「HDMI B」を選んでください（61ページ）。 → 「Zone2 Out」が「Off」に設定されているときは、HDMI ZONE 2 OUT端子からは出力されません。 → GUIやアップコンバートした映像信号はHDMI ZONE 2 OUT端子からは出力されません。 → メインゾーンと2ndゾーンで同じ入力を選択されている状態でメインゾーンのテレビ画面にGUIが表示されている場合は、HDMI入力された映像・音声はHDMI ZONE 2 OUT端子からは出力されません。 → 「Zone2 Out」が有効に設定されているときに、メインゾーンと2ndゾーンで同じHDMI入力を選んだ場合、メインゾーンと2ndゾーンの音声、映像信号に干渉が生じることがあります。メインゾーンについては、「Priority」設定を変更することにより、干渉の回避が可能です（56ページ）。 → 解像度が1080pの映像やDeep Color、3Dまたは4Kの映像を視聴するときは、HIGH SPEED対応HDMI端子用の接続ケーブル（High Speed HDMIケーブル）でつないでいるか確認してください。 <p>4K映像</p> <ul style="list-style-type: none"> → テレビや映像機器によっては、4K映像は表示されません。お使いのテレビや映像機器の仕様または設定が4K映像に対応しているか確認してください。また、テレビまたは映像機器が、4Kに対応しているHDMI IN端子に接続されているかを確認してください。 <p>3D映像</p> <ul style="list-style-type: none"> → テレビや映像機器によっては、3D映像は表示されません。システムが対応している3D映像フォーマットを確認してください（113ページ）。 <p>VCR</p> <ul style="list-style-type: none"> → 画質向上回路（TBCなど）を搭載していないビデオデッキを使用している場合は、映像が乱れることがあります。
<p>Watch/Listenメニューから「My Video」、「My Music」、「My Photo」、「Internet Video」、「Internet Music」、「Network」、「Sony Entertainment Network」を選択すると、何も表示されない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> → 本体のINPUT SELECTORで一度「BD」または「DVD」を選択し、GUIを使ってVideo Settingsメニューの「Playback Resolution」を「480i/576i」または「480p/576p」にしてから、再度コンテンツを選択してください。
<p>パススルー機能が働かない</p>	<ul style="list-style-type: none"> → 「HDMI B」または「Off」を選んでいる。HDMI OUTを押して「HDMI A」を選んでください。パススルー機能を「Off」に設定している。「Pass Thorough」を「On」に設定してください。 → 本機の「Control for HDMI」が「On」に、かつ「Pass Through」が「Auto」に設定されている場合、本機はHDMI機器制御で、テレビの電源状態にしたがって待機電力の削減を行います。このため、テレビのHDMI機器制御設定を有効にしておく必要があります。テレビのHDMI機器制御設定を有効にできない場合は、本機の「Pass Through」を「On」に設定してお使いください。

音声

症状	原因と対応のしかた
どの音源を選んでも音が出ない、ほとんど聞こえない	<ul style="list-style-type: none">→ スピーカーおよび各機器が正しく接続されているか確認する。→ 本機と選んだ機器の電源が入っているか確認する。→ MASTER VOLUMEのレベルが∞dBになっていないか確認する。目安として、-40dBくらいの音量に調節してみてください。→ 本機前面の表示窓に「SPEAKERS OFF」と表示されていないか確認する（36ページ）。→ リモコンの消音ボタンを押して、消音機能を解除する。→ 入力切り換え用ボタンまたは本体のINPUT SELECTORで正しい入力選ばれているか確認する。→ ヘッドホンがつながれていないか確認する。→ テレビのスピーカーから音を出すときは、HDMI Settingsメニューの「Audio Out」を「TV+AMP」に設定する。「AMP」に設定すると、音声はテレビのスピーカーから出力されません。本機からマルチチャンネル音声を出力する場合は、「AMP」に設定してください。→ 「Zone2 Out」が有効に設定されているときに、メインゾーンと2ndゾーンで同じHDMI入力を選んだ場合、メインゾーンと2ndゾーンの音声、映像信号に干渉が生じることがあります。メインゾーンについては、「Priority」設定を変更することにより、干渉の回避が可能です（56ページ）。→ 再生機器から出力される音声のサンプリング周波数やチャンネル数、音声フォーマットが切り変わったときに、音声が途切れる場合があります。→ iPod/iPhoneの「EQ」を「Off」または「Flat」に設定する。
ハム音またはノイズがひどい	<ul style="list-style-type: none">→ スピーカーおよび各機器が正しく接続されているか確認する。→ 接続コードがトランスやモーターから離れているか、テレビや蛍光灯からは少なくとも3 m離れているか確認する。→ テレビを他のオーディオ機器から離して設置する。→ プラグや端子が汚れている。アルコールで少し湿した布で拭き取る。
特定のスピーカーから音が出ない	<p>フロント</p> <ul style="list-style-type: none">→ ヘッドホンをPHONES端子につなぎ、ヘッドホンから音が聞こえるか確認する。ヘッドホンの片方のチャンネルしか聞こえない場合は、選んだ機器と本機が正しくつながっているか確認してください。両方のチャンネルが聞こえる場合は、フロントスピーカーが正しくつながっているか確認してください。→ モノラル機器をつないでいるときは、L/Rの片方の端子のみにつないでいないか確認する。この場合は、モノラルステレオ変換ケーブル（別売）を使ってL/R両方の端子につないでください。ただし、選んだサウンドフィールド（Pro Logicなど）によっては、センタースピーカーからは音が出ません。 <p>センター／サラウンド／サラウンドバック／フロントハイ／フロントB</p> <ul style="list-style-type: none">→ Speaker Settingsメニューの「Auto Calibration」（74ページ）または「Speaker Connection」（75ページ）でスピーカーの設定が適切か確認する。その後、Speaker Settingsメニューの「Test Tone」（76ページ）を使って各スピーカーから正しく音が出力されているか確認する。→ HD-D.C.S.モードを選ぶ（49ページ）。→ スピーカーのレベルを調節する（76ページ）。→ センター、サラウンド、サラウンドバック、あるいはフロントハイスピーカーが「Small」または「Large」に正しく設定されているか確認する（76ページ）。→ SURROUND BACK/FRONT HIGH/FRONT B/ZONE2端子につないだスピーカーをFRONT Bとして使用するためには、Speaker Connectionメニューで事前設定が必要です。 <p>サラウンドバック</p> <ul style="list-style-type: none">→ ドルビーデジタルサラウンドEXの情報がないディスクがあります。 <p>アクティブサブウーファー</p> <ul style="list-style-type: none">→ アクティブサブウーファーが正しく接続されているか確認する。→ アクティブサブウーファーの電源が入っているか確認する。

選んだ機器から音が出ない

- 選んだ機器の音声入力端子に正しく接続されているか確認する。
- 接続コードが本機や選んだ機器に正しく接続されているか確認する。
- INPUT MODEを「AUTO」に設定する（62ページ）。

HDMI入力

- 「2ch Analog Direct」を使用していると音が出ません。他のサラウンドモードを使用してください（48ページ）。
- HDMI接続を確認する（24、26、27、29ページ）。
- HDMI Licensing LLCで認証されたHDMIロゴ付きのケーブルでつないでいるか確認してください。
- 再生機器によっては、機器側で設定が必要な場合があります。各接続機器の取扱説明書も参照してください。
- 解像度が1080pの映像やDeep Color、3Dまたは4Kの映像を視聴するときは、HIGH SPEED対応HDMI端子用の接続ケーブル（High Speed HDMIケーブル）でつないでいるか確認してください。
- テレビ画面にGUIが表示されていると本機から音が出ないことがあります。ホームボタンを押してGUIを消してください。
- 再生機器から出力される音声のサンプリング周波数やチャンネル数、音声フォーマットが切り変わったときに、音声が途切れる場合があります。HDMIケーブルでつないだ機器からの映像が明瞭でなかったり、音が出なかったりする場合は、機器の設定を確認してください。
- 接続機器が著作権保護技術（HDCP）に対応していないために、本機のHDMI出力端子からの映像や音声が乱れたり再生できない場合があります。このような場合は、接続機器の仕様をご確認ください。
- High Bitrate Audio（DTS-HD Master Audio、Dolby TrueHD）を楽しむには、プレーヤーの映像解像度を720p/1080i以上に設定してください。
- DSD、マルチチャンネルリニアPCMを楽しむには、プレーヤーの映像解像度の設定が必要な場合があります。プレーヤーの取扱説明書を参照してください。
- テレビがシステムオーディオコントロール機能に対応していることを確認する。
- テレビにシステムオーディオコントロール機能がないときは、HDMI Settingsメニューの「Audio Out」を下記のように設定する。
 - － テレビと本機につないだスピーカーから音を聞くとときは、「TV+AMP」に設定する。
 - － 本機につないだスピーカーからのみ音を聞くとときは、「AMP」に設定する。本機にプロジェクターなどの映像機器をつないでいるとき、本機につないだスピーカーから音が出力されない場合があります。この場合は、「Audio Out」を「AMP」に設定してください。
- 本機につないだ機器の音声が聞こえない場合
 - － 本機にHDMI接続した機器を視聴するときは、本機の入力をHDMIに切り換える。
 - － テレビ放送を視聴するときは、テレビのチャンネルを切り換える。
 - － テレビにつないだ他の機器を視聴したい場合は、テレビを操作して、視聴したい機器または入力を選ぶ。テレビの操作について詳しくは、テレビの取扱説明書を参照してください。
- HDMI機器制御機能で、テレビのリモコンを使って接続機器を操作できない場合
 - － テレビや接続機器によっては、HDMI機器制御の設定が必要な場合があります。お使いの機器に付属の取扱説明書を参照してください。
 - － 本機の入力をHDMI接続している機器の入力に変えてください。
- 番組のジャンルに応じてサウンドフィールドが切り換わらない場合
 - － つないだテレビがオートジャンルセレクターに対応しているか確認する。
 - － いったん本機の電源を切ってから、もう一度電源を入れる。

デジタル入力(COAXIAL、OPTICAL)

- 「2ch Analog Direct」を使用していると音が出ません。他のサラウンドモードを使用してください（48ページ）。
- INPUT MODEの設定を確認する（62ページ）。
- 選んだ（デジタル）音声入力を、Input Settingsメニューの「Audio Input Assign」を使って他の入力に割り当てていないか確認する（63ページ）。

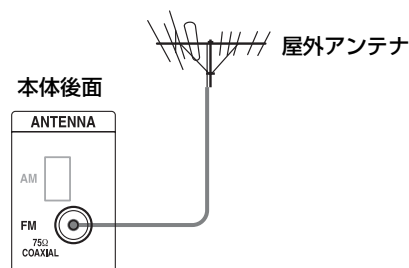
アナログ2チャンネル入力

- 選んだ（アナログ）音声入力を、Input Settingsメニューの「Audio Input Assign」を使って他の入力に割り当てていないか確認する（63ページ）。

症状	原因と対応のしかた
選んだ機器から音が出ない	iPod/iPhone → iPod/iPhoneの再生時は本機のヘッドホン端子を使用できません。ヘッドホンをつなぐ前にスピーカーでお聞きください。
左右の音のバランスが悪い、または逆転している	→ スピーカーおよび各機器が正しく接続されているか確認する。 → Speaker Settingsメニューの「Speaker Setup」で左右のバランスを調節する。 → スピーカーのレベルを調整する。
ドルビーデジタルやDTSのマルチチャンネルの音声再生されない	→ 再生中のDVDなどが、ドルビーデジタルやDTS形式で録音されているか確認する。 → DVDプレーヤーなどを本機のデジタル入力端子につないでいるときは、つないだ機器の音声の出力設定を確認する。 → High Bitrate Audio (DTS-HD Master Audio、Dolby TrueHD)、DSD、およびマルチチャンネルリニアPCMは、HDMI接続でのみ楽しめます。
マルチチャンネル音声が聞こえない	→ 「Control for HDMI」が「On」のとき、「Audio Out」の設定が自動的に変わる場合があります。この場合は「Audio Out」を「AMP」に設定してください。
サラウンド効果が得られない	→ サウンドフィールドが働いているか確認する (MOVIE/HD-D.C.S.またはMUSICを押す)。 → 「PLII (Music/Movie)」、 「PLIIX (Music/Movie)」、 「PLIIZ Height」 および 「Neo:6 (Music/Cinema)」 は、スピーカーパターンが2/0または2/0.1に設定されている場合は機能しません。
MULTI CHANNEL DECODINGランプが青色に点灯しない	→ 再生機器をデジタル接続し、本機側でその入力を選んでいるか確認する。 → 再生しているソフトなどの入力ソースがマルチチャンネルに対応しているか確認する。 → 再生機器側の設定がマルチチャンネル音声に設定されているか確認する。 → 選んだ (デジタル) 音声入力を、Input Settingsメニューの「Audio Input Assign」を使って他の入力に割り当てていないか確認する (63ページ)。
録音ができない	→ 各機器が正しくつながっているか確認する (31ページ)。 → 入力切り換え用ボタンで録音したい機器を選ぶ (40ページ)。 → HDMI IN端子から入力された音声信号は録音できません。 → 録音する音声信号に応じて録音機器の接続を確認する。アナログ入力信号は、アナログ出力端子からのみ出力されます。
テストトーンがスピーカーから出力されない	→ スピーカーコードが確実につながっていない。コードを軽く引っ張って見て、抜けたりしないように確実につないでください。 → スピーカーコードがショートしている恐れがあります。
画面に表示されているスピーカーと異なるスピーカーからテストトーンが出力される	→ つないだスピーカーと設定したスピーカーパターンが間違っている。スピーカーの接続とスピーカーパターンをもう一度確認してください。

ラジオ

症状	原因と対応のしかた
FM放送の受信状態が悪い	→ 75Ω同軸ケーブル (別売) を使って、下図のように本機と屋外アンテナをつなぐ。



症状	原因と対応のしかた
放送局が受信できない	<ul style="list-style-type: none"> → アンテナが正しくつながれているか確認する。アンテナの向きを調節したり、屋外アンテナを使ったりすることで受信状態が改善されることがあります。 → 自動受信をしている場合に受信状態が悪いときは、手動受信する。 → AM局をダイレクト受信しているときは、受信範囲が正しいか確認する。 → プリセットした放送局を選ぼうとしている場合、何も登録していない、または登録した放送局を消してしまった。その場合は登録する (46ページ)。 → 画面表示ボタンをくり返して押して、表示窓で周波数を確認する。 → 雑音が入らないように、アンテナをスピーカーコードや電源コードから離す。

USBデバイス

症状	原因と対応のしかた
USBデバイスが認識されない	<ul style="list-style-type: none"> → 本機の電源を切り、USBデバイスを取りはずす。もう一度本機の電源を入れ、USBデバイスをつないでください。 → 対応しているUSBデバイスをつなぐ。 → USBデバイスが正しく働いていない。USBデバイスの取扱説明書を参照して、問題に対処してください。
USBデバイスのフォルダーの中身が表示されない	<ul style="list-style-type: none"> → フォルダー階層が4階層を超えている。本機では表示できるのは4階層目のフォルダーまでです (「ROOT」フォルダー含む)。ただし、4階層目にあるフォルダーは表示されません。
音が出ない	<ul style="list-style-type: none"> → 本機の電源を切り、USBデバイスを取りはずす。もう一度本機の電源を入れ、USBデバイスをつないでください。 → 対応しているUSBデバイスをつなぐ。 → ▶を押して再生を始める。 → 「2ch Analog Direct」を使用していると音が出ません。他のサラウンドモードを使用してください (48ページ)。 → 音楽データ自体にノイズが含まれている、または音が歪んでいる。 → ファイルフォーマットによっては再生できないファイルがあります。詳しくは、「再生可能なファイル (Network/USB)」 (17ページ) をご覧ください。 → FAT12/16/32、VFAT、NTFS以外のファイルシステムでフォーマットされたUSBデバイスには対応していません*。 → パーティション分割したUSBデバイスをお使いの場合は、第1パーティション内の音声ファイルのみ再生できます。 → 4階層のフォルダーまで再生できます (「ROOT」フォルダー含む)。 → 各フォルダー内のファイル数が500を超えている (フォルダー含む)。 → 暗号化またはパスワードで保護されたファイルなどは再生できません。 → ウォークマン内の音楽ファイルを本機で再生する場合は、パソコンからウォークマンへドラッグ&ドロップで曲を移動し、本機が対応しているフォーマット (MP3など) でウォークマンに保存してください。 <p>*本機はFAT12/16/32、VFAT、NTFSに対応しています。ただし、USBデバイスにはこれらのファイルシステムに対応していないものもあります。詳しくは各USBデバイスの取扱説明書を参照するか、メーカーにお問い合わせください。</p>
USBデバイスがUSBポートに接続できない	<ul style="list-style-type: none"> → USBデバイスを逆さまにつなごうとしている。USBデバイスを正しい方向でつないでください。
表示が間違っている	<ul style="list-style-type: none"> → USBデバイスに保存されているデータが破損している。 → 本機が表示できる文字コードは以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> - 大文字 (A~Z) - 小文字 (a~z) - 数字 (0~9) - 記号 (` < > * + , ? . / @ [\] _ `) <p>他の文字は正しく表示されないことがあります。</p>

症状	原因と対応のしかた
再生が始まるまで時間がかかる	<ul style="list-style-type: none"> → 以下の場合、読み出しに時間がかかることがあります。 <ul style="list-style-type: none"> － USBデバイスに多くのフォルダーやファイルが保存されている。 － 非常に複雑なファイル構成になっている。 － メモリー容量を超えている。 － 内部メモリーが断片化している。 <p>このような場合は、次の目安にしたがってください。</p> <ul style="list-style-type: none"> － フォルダーごとの総ファイル数：500以下（フォルダー含む）

iPod/iPhone

症状	原因と対応のしかた
iPod/iPhoneが充電できない	<ul style="list-style-type: none"> → 本機の電源が入っているか確認する。 → iPod/iPhoneが確実につながっているか確認する。
iPod/iPhoneが操作できない	<ul style="list-style-type: none"> → iPod/iPhoneを保護ケースに入れていないか確認する。 → iPod/iPhoneのコンテンツによっては、再生に時間がかかることがあります。 → 本機の電源を切り、iPod/iPhoneを取りはずす。もう一度本機の電源を入れ、iPod/iPhoneをつないでください。 → 本機が対応していないiPod/iPhoneを使用している。対応機種については「対応iPod/iPhone」(42ページ)をご覧ください。
iPhoneの着信音の音量が変更できない	<ul style="list-style-type: none"> → iPhoneを直接操作して着信音の音量を調節してください。

ネットワーク

症状	原因と対応のしかた
ネットワークに接続できない	<ul style="list-style-type: none"> → ネットワークの接続(34ページ)とNetwork Settingsメニュー(85ページ)を確認する。 → ネットワーク接続に使用しているLANポートが有効に設定されているか確認する。
サーバーが見つからない	<ul style="list-style-type: none"> → Network Settingsメニューの「Connection Server Settings」でサーバーを検索する(85ページ)。 → 下記を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> － ルーターの電源が入っているか － 本機とルーターの間に別の機器がつながっている場合、その機器の電源が入っているか － すべてのケーブルが正しく確実につながっているか － ルーターの設定(DHCPまたは固定IPアドレス)に合わせて設定されているか → パソコンを使っているとき、下記を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> － パソコンのオペレーティングシステムに組み込まれているファイアーウォールの設定 － セキュリティソフトのファイアーウォールの設定 お使いのセキュリティソフトのファイアーウォール設定については、セキュリティソフトのヘルプを参照してください。 → 本機をサーバーに登録する。詳しくは、サーバーの取扱説明書を参照してください。 → しばらく待ってから、もう一度サーバーへの接続を試す。
サーバー上にあるはずのコンテンツが見つからない、再生できない	<ul style="list-style-type: none"> → 「My Music」画面、「My Photo」画面では、DLNAガイドラインに準拠してサーバーが提示するコンテンツのうち、本機が再生できる可能性があるコンテンツのみを表示しています。 → DLNAガイドライン規定のコンテンツであっても、再生や表示ができないことがあります。

症状	原因と対応のしかた
「ES Remote」やDLNAコントローラーから本機にアクセスできない	<ul style="list-style-type: none"> → 使用したいコントローラーが「Renderer Access Control」で「Allow」に設定されているか確認する（85ページ）。 → 「Renderer Options」の「Auto Access Permission」が「On」に設定されている場合は、検出されたコントローラーが自動的に使用可能になります（85ページ）。 → コントローラーが「Renderer Options」に一覧表示され、「Allow」に設定されていますか？ 設定されていない場合は、「Auto Access Permission」のチェックボックスをチェックしてホームメニューに戻り、コントローラーで本機を一度操作したあと、必要なら「Auto Access Permission」のチェックをはずしてください。 → ネットワークコントローラーとしてパソコンのソフトウェアをお使いの場合、アンチウイルスソフトウェアやファイアウォールソフトウェアにブロックされていませんか？本機とソフトウェア間のUPnPの通信を許可してください。詳しくは、アンチウイルスソフトウェアやファイアウォールソフトウェア、またはネットワークコントローラーソフトウェアの取扱説明書を参照してください。

インターネットビデオ

症状	原因と対応のしかた
画質／音質がよくない、ある番組の特に動きの速いシーンや暗いシーンで細部の画質が低下する	<ul style="list-style-type: none"> → インターネットコンテンツプロバイダーによっては、画質／音質がよくないことがあります。 → 接続速度によって画質／音質は変わります。標準画質（SD）映像の場合は2.5 Mbps以上、ハイビジョン画質（HD）映像の場合は10 Mbps以上の接続速度での視聴をおすすめします。 → 音声を含まない映像もあります。
画像が小さい	→ ⬆を押してズームする。
コンテンツが再生できない	→ 一部のインターネットコンテンツは、再生前にパソコンからの登録が必要な場合があります。

“ブラビアリンク” 機能（HDMI機器制御）

症状	原因と対応のしかた
HDMI機器制御機能が働かない	<ul style="list-style-type: none"> → HDMI接続を確認する（22、24、26、27ページ）。 → HDMI Settingsメニューで「Control for HDMI」が「On」に設定されていることを確認する。 → 「Zone2 Out」が「On」に設定されているときは、HDMI機器制御は使用できません。 → 接続機器がHDMI機器制御機能に対応していることを確認する。 → 接続機器のHDMI機器制御設定を確認する。お使いの機器に付属の取扱説明書を参照してください。 → HDMI接続を変更したり、電源コードの抜き差しをしたり、電源に不具合があるときは、「“ブラビアリンク” 機能を使う」（58ページ）の手順をくり返す。 → 「HDMI OUT B」または「OFF」が選ばれているときは、HDMI機器制御機能が正しく働きません。 → 「HDMI OUT B」または「OFF」を選んだあとに「HDMI OUT A」を選ぶと、しばらくの間HDMI機器制御機能が正しく働かないことがあります。これはHDMI OUT A端子につないだ機器側で本機がHDMI機器制御機能を備えていることを確認しているためです。しばらく待ってもHDMI機器制御機能が正しく働かない場合は、「“ブラビアリンク” 機能を使う」（58ページ）の手順をくり返してください。 → “ブラビアリンク” 機能で制御できる機器の種類と数は、HDMI CEC規格で以下のとおり制限されています。 <ul style="list-style-type: none"> － 録画機器（ブルーレイディスクレコーダー、DVDレコーダーなど）：3台まで － 再生機器（ブルーレイディスクプレーヤー、DVDプレーヤーなど）：3台まで － チューナー関連機器：4台まで（このうちの1台は、本機のメニュー操作に使用します。） － オーディオシステム（AVアンプ／ヘッドホン）：1台まで

症状	原因と対応のしかた
Control for HDMIの設定をOnにできない	→ HDMI Settingsメニューで、「Zone2 Out」を「Off」にしてください。
ワンタッチプレイをしたときに、意図した入力に切り換わらない	→ HDMI入力の割り当てを確認する（63ページ）。複数の入力に同じHDMI入力端子を割り当てているとき、そのHDMI入力につないだ機器をワンタッチプレイをすると、最後に割り当てた入力に切り換わります。 → 「Zone2 Out」が「Off」に設定されていることを確認してください。
オーディオリターンチャンネル（ARC）が働かない	→ HDMI Settingsメニューで「Control for HDMI」が「On」に設定されていることを確認する。 → 「TV」のINPUT MODEが「AUTO」に設定されているか確認する（62ページ）。

リモコン

症状	原因と対応のしかた
リモコンで操作できない	→ 本体のリモコン受光部に向けて操作する（8ページ）。 → リモコンと本体の間にある障害物を取り除く。 → リモコンの乾電池を新しいものに交換する。 → 本機を操作する前に、アンブボタンを押し、入力切り換え用ボタンで、操作したい機器を選択してください。アンブボタンを押さないと、操作の対象が本機にならない場合があります。 → 本体とリモコンのコマンドモードが一致しているか確認する（68ページ）。本体とリモコンのコマンドモードが違くと操作できません。 → リモコンで正しい入力を選んだか確認する。 → 他社製の機器を操作できるようにリモコンを設定したときは、その機器のメーカーや年式によっては正しく操作できない場合があります。

上記以外の症状で、しばらく待っても症状が改善しない場合は、以下の操作を行ってください。

- リモコンの電源ボタンを押して、本機の電源を切ってから、もう一度電源を入れる。
- 本体のI/Oボタンをボタンの上の緑色のランプが点滅するまで押し続けて、本機を再起動する。

エラーメッセージ

表示によって、本機の状態を確認できます。以下をご覧になり、表示に合った対応をしてください。2、3度くり返しても正常に戻らないときは、ソニーサービス窓口にご相談ください。

メッセージ	原因と対応のしかた
PROTECTOR	天板の上がふさがれています。2、3秒後に本機の電源が自動的に切れます。天板をふさいでいるものを取り除き、もう一度電源を入れてください。
FAN STOPPED	天板の通気孔がふさがれていないか確認してください。
「ネットワーク上に新しいソフトウェアバージョンが見つかりました。「ネットワークアップデート」からアップデートを行ってください。」とテレビ画面に表示される。	本機を新しいバージョンのソフトウェアにアップデートする場合は、「ネットワークアップデート（Network Update）」（89ページ）をご覧ください。
この端子では出力できない映像です。	<ul style="list-style-type: none"> • メインゾーンで本機をお使いの場合は、HDMIケーブルでテレビを接続してください。 • 映像ケーブルをお使いの場合は、「Playback Resolution」（81ページ）を「480i/576i」に設定してください。 • コンポーネント映像ケーブルをお使いの場合は、「Playback Resolution」（81ページ）をお使いのテレビに適したパラメーターに設定してください。

Auto Calibration機能の測定後に表示されるメッセージの一覧

表示	原因と対策
Code 30	ヘッドホンが接続されています。ヘッドホンを外し、Auto Calibrationを再度実行してください。
Code 31	表示窓に「SPEAKERS OFF」と表示されているときは、スピーカーが選ばれていません。SPEAKERSボタンを押して、表示窓に選んだスピーカーを表示し、音が出る状態にして、再測定してください。
Code 32	どのチャンネルからも音が検出されませんでした。測定用マイクのプラグが本機のAUTO CAL MIC端子の奥まで挿入されていることを確認して、再測定してください。
Code 33	<ul style="list-style-type: none"> フロントスピーカーが繋がっていない、またはフロントスピーカーが1本しか繋がっていません。 測定用マイクが繋がっていません。測定用マイクのプラグが本機のAUTO CAL MIC端子の奥まで挿入されていることを確認して、再測定してください。 左か右どちらかのサラウンドスピーカーが繋がっていません。 サラウンドスピーカーが繋がっていないのに、サラウンドバックスピーカーが繋がっています。サラウンドスピーカーをSURROUND SPEAKERS端子につないでください。 サラウンドバックスピーカーがSURROUND BACK/FRONT HIGH/FRONT B/ZONE2 R端子にのみ繋がっています。 サラウンドバックスピーカーを1つだけつなぐときは、SURROUND BACK/FRONT HIGH/FRONT B/ZONE2 L端子につないでください。 フロントハイスピーカーが1本だけつなっています。SURROUND BACK/FRONT HIGH/FRONT B/ZONE2端子にフロントスピーカーを1本ずつつないでください。 サラウンドスピーカーが繋がっていないのにフロントハイスピーカーが繋がっています。SURROUND端子にサラウンドスピーカーをつないでください。
Warning 40	測定は完了しましたが、騒音のレベルが高いです。 再測定を行うと測定できる場合もありますが、すべての環境で測定ができるとは限りません。できるだけ、周囲の騒音が少ない状態で測定してください。
Warning 41	測定用マイクからの入力が過大です。
Warning 42	<ul style="list-style-type: none"> スピーカーと測定用マイクの距離が近すぎる可能性があります。お互いの位置を離して設置し、再測定してください。 本機をプリアンプとしてお使いの場合、つないでいるパワーアンプによってはこのメッセージが表示されることがありますが、そのままお使いいただいても問題ありません。
Warning 43	アクティブサブウーファースの距離・位相が測定できませんでした。 ノイズが原因となっている場合があります。周囲が静かな状態で再測定してください。
NO WARNING	WARNING情報はありません。

本機を再起動する

本機の不具合で本機またはリモコンのボタンが働かなくなった場合は、本体のI/Oボタンを10秒押し続けて本機を再起動してください。

I/Oボタンの上のランプが緑色で点滅し、再起動を開始します。

初期設定状態にする

参照ページ

対象	参照ページ
本機	70ページ
リモコン	100ページ

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際、お買い上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

この説明書をもう1度ご覧になってお調べください。

それでも具合の悪いときはサービスへ

お買い上げ店、または本取扱説明書の裏表紙にあるソニーの相談窓口にご相談ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間について

当社ではステレオの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後8年間保有しています。

部品の交換について

この製品では、修理のために部品を交換する際に、旧部品を回収させていただく場合があります。あらかじめご了承ください。

ただし、故障の状況その他の事情により、修理に代えて製品交換をする場合がありますのでご了承ください。

ご相談になるときは次のことをお知らせください。

- 型名：STR-DN2030
- 故障の状態：できるだけ詳しく
- 購入年月日：
- お買い上げ店：

主な仕様

アンプ部

実用最大出力

ステレオモード：

(6 Ω、JEITA)

150 W + 150 W

サラウンドモード：

(6 Ω、JEITA)

フロント部：150 W + 150 W

センター部：150 W

サラウンド部：150 W + 150 W

サラウンドバック部：150 W + 150 W

スピーカー適合インピーダンス

フロント、サラウンド、センター、サラウンドバック部：

6 Ωまたはそれ以上

高調波ひずみ率

0.09 %以下

20 Hz～20 kHz

(6 Ω負荷)

100 W+100 W

周波数特性（「2ch Analog Direct」使用時）

10 Hz～100 kHz ±3 dB (8 Ω時)

入力（アナログ）

SA-CD/CD、TV、SAT/CATV、VIDEO 1、2：

入力感度：500 mV

入力インピーダンス：50 kΩ

S/N比：96 dB

(Input short、20 kHz LPF、Aネットワーク)

入力（デジタル）

IN 1 (DVD) (Coaxial)：

入力インピーダンス：75 Ω

S/N比：96 dB

(20 kHz LPF、Aネットワーク)

IN 1 (SAT/CATV)、IN 2 (TV) (OPTICAL)：

S/N比：96 dB

(20 kHz LPF、Aネットワーク)

出力

VIDEO 1 (AUDIO OUT)、

ZONE 2 (AUDIO OUT)：

出力電圧：500 mV

出力インピーダンス：1 kΩ

SUBWOOFER：

出力電圧：2 V

出力インピーダンス：1 kΩ

FMチューナー部

受信周波数：76.0～90.0 MHz

アンテナ：FMワイヤーアンテナ

アンテナ端子：75 Ω、不平衡型

AMチューナー部

受信周波数：531-1,602 kHz (9 kHz間隔)

アンテナ：ループアンテナ

ビデオ部

入力/出力

VIDEO：1 Vp-p 75 Ω

COMPONENT VIDEO：ルミナンス (Y)

入力感度/出力電圧：1 Vp-p

入力/出力インピーダンス：75 Ω

P_B、P_R

入力感度/出力電圧：0.7 Vp-p

入力/出力インピーダンス：75 Ω

HDMI部

入力/出力 (HDMI Repeater block)

ファイル	2D	3D		
		Frame packing	Side-by-Side (Half)	Over-Under (Top-and-Bottom)
4096 × 2160p @ 23.98/24 Hz	○	—	—	—
3840 × 2160p @ 29.97/30 Hz	○	—	—	—
3840 × 2160p @ 25 Hz	○	—	—	—
3840 × 2160p @ 23.98/24 Hz	○	—	—	—
1920 × 1080p @ 59.94/60 Hz	○	—	○	○
1920 × 1080p @ 50 Hz	○	—	○	○
1920 × 1080p @ 29.97/30 Hz	○	○	○	○
1920 × 1080p @ 25 Hz	○	○	○	○
1920 × 1080p @ 23.98/24 Hz	○	○	○	○
1920 × 1080i @ 59.94/60 Hz	○	○	○	○
1920 × 1080i @ 50 Hz	○	○	○	○
1280 × 720p @ 59.94/60 Hz	○	○	○	○
1280 × 720p @ 50 Hz	○	○	○	○
1280 × 720p @ 29.97/30 Hz	○	○	○	○
1280 × 720p @ 23.98/24 Hz	○	○	○	○
720 × 480p @ 59.94/60 Hz	○	—	—	—
720 × 576p @ 50 Hz	○	—	—	—
640 × 480p @ 59.94/60 Hz	○	—	—	—

電源、その他

電源 AC100 V、50/60 Hz
消費電力 200 W
消費電力（スタンバイ状態時）
0.5 W（「Control for HDMI」（83ページ）、
「Pass Through」（83ページ）、「Network
Standby」（85ページ）を「Off」に設定、
および2ndゾーンの電源切時）

最大外形寸法

430 mm × 162 mm × 383 mm
（幅／高さ／奥行き、最大突起部を含む）

質量 約12.2 kg

付属品 キャリブレーションマイクロフォン：

ECM-AC2（1）

FMワイヤーアンテナ（1）

AMループアンテナ（1）

リモコン：RM-AAP083（1）

単3形マンガン乾電池（2）

取扱説明書（本書）（1）

接続・設定ガイド（1）

保証書（1）

安全のために（1）

仕様および外観は、改良のため、予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

本機は「JIS C 61000-3-2 適合品」です。



• オートオフ機能搭載

索引

あ行

- アンテナ 33
- イコライザー 52
- インターネットコンテンツ 44
- インターネットサービス設定 86
- インターネットビデオ 44
- ウォークマン 41
- 映画 49
- 衛星放送 27
- 映像設定 80
- 映像変換機能 15
- エフェクトタイプ 49
- オーディオ機器コントロール 60
- オーディオリターンチャンネル (ARC) 59, 62
- オートジャンルセレクター 59
- オート選局 45
- 音楽 50
- 音声設定 78

か行

- 解像度 80
- ケーブルテレビ 27

さ行

- サーバー 38
- シーンセレクト連動 60
- システムオーディオコントロール 59
- システム設定 88
- 消音機能 40
- スーパーオーディオ CD プレーヤー 31
- スピーカー設定 74
- スピーカーパターン 75
- スリープタイマー 67
- 接続する
 - アンテナ 33
 - 映像機器 24
 - オーディオ機器 31
 - スピーカー 20
 - テレビ 22
 - ネットワーク 34
- 設定メニュー 71
- ゾーン設定 87

た行

- ダイレクト選局 46
- デジタル CS チューナー 27
- テレビゲーム 26
- 電源オフ連動 59
- 電源コード 35

な行

- 名前を入力する 75
- 入力設定 84
- ネットワークアップデート 89
- ネットワーク設定 85

は行

- バイアンプ接続 69
- パススルー 61
- ビデオカメラ 29
- ビデオデッキ 28
- 表示切り換え 95
- 表示窓 9, 91
- プリセットメモリー 46
- ブルーレイディスクレコーダー 24
- プレイステーション 3 26
- ヘッドホン 48
- ボリューム 40

ま行

- マルチゾーン 53
- メッセージ
 - エラー 110
 - Auto Calibration 111
- メニュー 38, 91

ら行

- ラジオ放送 45
- リセット (初期化) 111
 - 本体 70
 - リモコン 100
- リモコン 12-13, 35, 96-100
- レベル 52
- 録画する 68

わ行

- ワンタッチプレイ 59

A

- AM 45
- ARC 62
- Audio Input Assign 84
- Audio Out 82
- Audio Settings 78
- Auto Calibration 74
- Auto Calibration Setup 74
- Auto Standby 88
- Automatic Phase Matching 75
- A.F.D. (モード) 48

A/V Sync 79

B

Bass 52

Berlin Philharmonic Hall 50

BS デジタルチューナー 27

C

Calibration Type 75

CD プレーヤー 31

Center Speaker Lift Up 75

Concertgebouw Amsterdam 50

Connection Server Settings 85

Control for HDMI 83

Crossover Frequency 76

D

Decode Priority 79

Digital Legato Linear (D.L.L.) 78

Distance Unit 77

DLNA 43

Dual Mono 78

DVD プレーヤー 24

Dynamic Range Compressor 78

D.C.A.C. (Digital Cinema Auto Calibration (自動音場補正)) 74

E

Easy Automation 65

Easy Setup 36, 74

Equalizer 52, 78

ES Remote 65

EULA 88

External Control 85

F

Fast View 83

Favorites 44

FM 45

FM モード 46

G

GUI (Graphical User Interface) 22

H

HD-D.C.S. 49

HD-D.C.S. (エフェクトタイプ) 49

HDMI Settings 82

HDMI 設定 82

I

Initialize Personal Information 88

Input Edit 84

INPUT MODE 62

Input Settings 84

Internet Services Settings 86

Internet Settings 85

Internet Video Access 86

Internet Video Parental Control 86

Internet Video Unrated 86

IP コンテンツノイズリダクション 44

iPod/iPhone 41

J

Jazz Club 50

L

Large 76

LFE (low Frequency Effect) 9

Line Out 56, 87

Listen 40

Live Concert 50

M

Musikverein Vienna 50

N

Neo:6 (Cinema) 49

Neo:6 (Music) 50

Network Settings 85

Network Standby 85

Network Update 89

P

Parental Control Area Code 86

Parental Control Password 86

Pass Through 61, 83

Phase Audio 77

Phase Noise 77

PHONES 端子 8

Playback Resolution 81

PLIIX (Movie) 49

PLIIX (Music) 50

PLIIZ Height 49, 50

PLII (Movie) 49

PLII (Music) 50

Portable Audio 50

Position 74

Priority 83

PROTECTOR 110

R

Renderer Access Control 85
 Renderer Options 85
 Resolution 80

S

Screen Format 82
 Settings 71
 Small 76
 Software License 88
 Software Update Notification 88
 Sound Effects 48
 Sound Field 48, 79
 Sound Optimizer 51, 78
 Speaker Connection 75
 Speaker Pattern 75
 Speaker Settings 74
 Speaker Setup 76
 SPEAKERS 8, 36
 Sports 50
 Stadium 50
 Subwoofer Level 82
 Subwoofer Low Pass Filter 78
 Subwoofer Muting 78
 System Information 88
 System Settings 88
 SYSTEM STANDBY 97

T

Test Tone 76
 TONE MODE 8, 70
 Treble 52
 TV Type 82

U

USB 41

V

Video Input Assign 84
 Video Settings 80
 VIDEO 2 IN 端子 29

W

Watch 40

Z

Zone Control 87
 Zone Settings 87
 Zone Setup 87
 Zone2 Out 83

数字

2チャンネル 48
 2ch Analog Direct 48
 2ch Stereo (モード) 48
 3D Output Settings 82
 5.1チャンネル 18
 7.1チャンネル 18

